

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	野田 明	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。 主に Reading 力を伸ばすことを目的とします。高校までに学習した文法事項、構文などを実際の文章の中で確認しつつ、その応用と読解力の強化を図ります。					
到達目標	英文の大意を把握するとともに、重要部分は正確に訳すことができる。また、表現やニュアンスの違いも理解することができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	イントロダクション	16	Dr. Shinya Yamanaka 前半			
2	The Washington Cherry Trees 前半	17	Dr. Shinya Yamanaka 後半			
3	The Washington Cherry Trees 後半	18	Made in Japan 前半			
4	Modern Day Japanese Knight 前半	19	Made in Japan 後半			
5	Modern Day Japanese Knight 後半	20	Youth 前半			
6	Mona Lisa 前半	21	Youth 後半			
7	Mona Lisa 後半 小テスト	22	Deadly Progress 前半			
8	Space Shuttle Challenger 前半	23	Deadly Progress 後半 小テスト			
9	Space Shuttle Challenger 後半	24	John Matthew Ottoson 前半			
10	Honesty Wins 前半	25	John Matthew Ottoson 後半			
11	Honesty Wins 後半	26	It' s a No-brainer! 前半			
12	he Miracle on the Hudson 前半	27	It' s a No-brainer! 後半			
13	he Miracle on the Hudson 後半	28	The Genius in You 前半			
14	The Family Bridge 前半	29	The Genius in You 後半			
15	The Family Bridge 後半 小テスト	30	学修内容の振り返り			
予習内容 復習内容	決められた範囲について、知らない単語の意味については辞書で調べてから出席する。 授業後は学習した英文の内容が理解できたかを確認しておく。					
教科書	松尾秀樹・Stephen Edward Rife『リーディング・コンパス 英文読解の総合演習』（三修社） 進度に応じて題材を追加します。					
成績評価	授業での取り組み、発表を 30%、前期・後期の学期末に行う筆記試験を 70%として評価します。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	萩 三恵	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	本授業では文構造を見抜き、文法力を高めることによりリーディング力向上につなげます。なんとなく単語の意味をつなげて文の意味を取ろうとせず、主語と述語の対応や、修飾語句の範囲などを常に押さえながら長文読解を行います。さらに、ユニット毎に小テストを実施して各ユニットの理解度を確認します。なお、正答と解説は小テスト返却時に行います。					
到達目標	① 英語の基本的な構造を十分に理解できる。 ② 既習の英文法の重要事項についてさらに理解を深めることができる。 ③ やさしい英文を速読し理解できる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス	16	Unit 8 Listening Part			
2	Unit 1 Listening Part	17	Unit 8 Reading Part			
3	Unit 1 Reading Part	18	Unit 9 Listening Part、Unit 8 小テスト			
4	Unit 2 Listening Part、Unit 1 小テスト	19	Unit 9 Reading Part			
5	Unit 2 Reading Part	20	Unit10 Listening Part、Unit 9 小テスト			
6	Unit 3 Listening Part、Unit 2 小テスト	21	Unit10 Reading Part			
7	Unit 3 Reading Part	22	Unit11 Listening Part、Unit10 小テスト			
8	Unit 4 Listening Part、Unit 3 小テスト	23	Unit11 Reading Part			
9	Unit 4 Reading Part	24	Unit12 Listening Part、Unit11 小テスト			
10	Unit 5 Listening Part、Unit 4 小テスト	25	Unit12 Reading Part			
11	Unit 5 Reading Part	26	Unit13 Listening、Unit12 小テスト			
12	Unit 6 Listening Part、Unit 5 小テスト	27	Unit13 Reading Part			
13	Unit 6 Reading Part	28	Unit14 Listening Part、Unit13 小テスト			
14	Unit 7 Listening Part、Unit 6 小テスト	29	Unit14 Reading Part			
15	Unit 7 Reading Part	30	総括			
予習内容 復習内容	予習：READING PART Find Out の長文について事前学習を行う。 復習：本文の内容と、単語・表現、構文、文法について事後学習を行う。					
教科書	『AMBITIOUS Elementary』（金星堂）					
成績評価	・試験：60%、小テスト：30%、平常点（授業に対する取り組み）：10%の基準で評価する。 ・出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は、出席不足により成績評価要件を満たしていないと判断し、評価対象外とする。					
実務経験						
その他 特記事項	授業欠席事由が公欠、あるいはそれに相当する場合は小テスト未受験について配慮します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	吉岡 みのり	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>環境問題への取り組みや高齢化社会の問題、映画やファッション、メディアやYouTube など、現代社会の様々な話題を各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業（1回目はテキスト読解中心、2回目は語彙やリスニングなどの練習問題）で読了する予定。1ユニット300語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには内容理解度を問う問題や、簡単な英作文、語彙や文法に関する問題、リスニング問題などが用意されている。様々な課題への取り組みを通して、英語力を総合的に向上させることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①英文の内容を速く的確に把握する力をつける。 ②語彙や文法に関する基礎的な知識を確認する。 ③簡単な英文を作成する力や聞き取る力を養う。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）	16	前期試験返却・Unit 7 The Gossip Media(副詞)			
2	Unit 1 Millennials－ミレニアル世代	17	Unit 8 Replanting the World' s Forest－森林再生			
3	Unit 1 Millennials（現在完了形）	18	Unit 8 Replanting the World' s Forest（形容詞・副詞）			
4	Unit 2 Green Profits－環境問題への取り組み	19	Unit 9 Adventure Tourism－旅行			
5	Unit 2 Green Profits（副詞節）	20	Unit 9 Adventure Tourism（前置詞）			
6	Unit 3 Well-Loved Pets－ペット	21	Unit 10 The Cannes Film Festival－映画祭			
7	Unit 3 Well-Loved Pets（形容詞＋前置詞）	22	Unit 10 The Cannes Film Festival（代名詞）			
8	Unit 4 Italy' s Fashion Kings－ファッション	23	Unit 11 Giving Away Billions－寄付			
9	Unit 4 Italy' s Fashion Kings（副詞）	24	Unit 11 Giving Away Billions（形容詞節）			
10	Unit 5 Viral Marketing－マーケティング	25	Unit 12 Computer Actors－CGI			
11	Unit 5 Viral Marketing（前置詞）	26	Unit 12 Computer Actors（受動態）			
12	Unit 6 TED Talk－TED トーク	27	Unit 13 New York City－ニューヨーク市			
13	Unit 6 TED Talk（助動詞）	28	Unit 13 New York City（数量詞）			
14	Unit 7 The Gossip Media－ゴシップとメディア	29	Unit 14 Fresh Water－水をめぐる危機			
15	前期のまとめと試験	30	後期のまとめと試験			
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディング・パス 2』（南雲堂）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）50%＋平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30% 小テスト20%(各ユニットを学習した後実施する) 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I	花尻 奈緒子	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようにすることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス・声調	16	前期の復習			
2	単母音と複母音	17	年齢の言い方とたずね方・量詞			
3	子音・鼻韻母	18	数をたずねる疑問詞			
4	軽声・声調の変化	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方			
5	アール化・人称代名詞	20	中国の通貨・値段のたずね方			
6	「是」述語文①	21	年月日と曜日・時刻の表現			
7	「是」述語文②・名前の言い方答え方	22	助動詞「想」・連動文			
8	動詞述語文	23	存在文			
9	疑問詞疑問文	24	前置詞①・反復疑問文			
10	副詞「也」・省略疑問文	25	完了形			
11	指示詞・助詞「的」	26	文末につける「了」・前置詞②			
12	副詞「都」・語気助詞	27	助動詞②・助動詞③			
13	数字・所有を表す「有」・程度副詞	28	二重目的語をとる動詞			
14	形容詞述語文	29	進行形・動詞『～が好きだ』			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）					
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I	嶋田 宏司	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	ドイツ語というゲルマン語から見た、ヨーロッパの言語の概観をえることを目的とします。 これまでの英語の学習を土台にして、新しい言語の学びかたを身につけることを最終目標とします。 参加型の授業のため、年間 10 回を超えて欠席した場合は評価の対象外とします。					
到達目標	1. ドイツ語の文が音声を伴って発音できること。 2. 基礎文法を踏まえて、簡単な作文ができること。 3. 1 と 2 を合わせることで会話の糸口を作ることができること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ドイツ語と英語の関係について。ドイツ語の文字を発音してみる。	16	Fahrkarte bitte! 形容詞と格変化 (1)			
2	Ich reise nach Deutschland. 人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)	17	形容詞と格変化 (2)			
3	動詞の現在人称変化 (2)、文型	18	An der Rezeption 動詞の時制について (三基本形 1)			
4	Wie lange bleiben Sie in Deutschland? 名詞の性、冠詞と格変化 (1)	19	動詞の時制について (三基本形 2)			
5	冠詞と格変化 (2)、不定冠詞	20	過去、過去分詞 (1)			
6	Willkommen in München! 不規則動詞 (1)	21	Konzertabend 分離動詞 (1)			
7	不規則動詞 (2)	22	分離動詞 (2)、非分離動詞			
8	定冠詞類 (1)	23	zu 不定詞			
9	定冠詞類 (2)	24	Im Kaffeehaus 話法の助動詞 (1)			
10	不定冠詞類 (1)	25	話法の助動詞 (2)			
11	不定冠詞類 (2)	26	再帰動詞、再帰代名詞 (1)			
12	In München gibt es viele Sehenswürdigkeiten. 前置詞	27	再帰動詞、再帰代名詞 (2)			
13	前置詞	28	Einchecken bitte! 未来形			
14	Was wünschen Sie? 人称代名詞、目的語の語順	29	完了形			
15	試験	30	試験			
予習内容 復習内容	予習 : Google などの音声認識アプリで教科書の本文を読み、発音を確認しておくこと。 復習 : 教科書の練習を再び解いてみて、一つの文として書き写すこと。そして発音しておくこと。					
教科書	『Deutsch, der erste Schritt ドイツ語、始めてみよう』伊藤真／高橋幸雄／木村高明、同学社					
成績評価	前期末、後期末の 2 回の試験 (70%)、出席状況、課題への取り組み、積極的な発言や明瞭な発声など (30%)					
実務経験						
その他 特記事項	5 月以降は辞書を持参すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I	今本 幸平	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	<p>初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。</p> <p>教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。</p>					
到達目標	<p>①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験5級程度）を音読できる。</p> <p>②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験5級程度）を理解し、自分でも作ることができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、アルファベット	16	前期の復習			
2	アルファベットと単語の読み方	17	第4課 定冠詞の仲間			
3	単語の読み方（挨拶、数字など）	18	第4課 練習問題			
4	第1課 文の作り方（動詞について）	19	第4課 不定冠詞の仲間			
5	第1課 重要な動詞、語順の原則	20	第4課 練習問題、会話文			
6	第1課 練習問題、会話文	21	第5課 名詞の複数形			
7	第2課 名詞について（名詞の性別）	22	第5課 人称代名詞			
8	第2課 名詞の「格」について	23	第5課 練習問題、会話文			
9	第2課 重要な動詞	24	復習と中間テスト			
10	第2課 練習問題、会話文	25	第6課 前置詞の使い方			
11	復習と中間テスト	26	第6課 練習問題、会話文			
12	第3課 不規則動詞	27	第7課 形容詞の使い方			
13	第3課 不規則動詞の練習問題、命令形	28	第7課 練習問題、会話文			
14	第3課 練習問題、会話文	29	後期の復習			
15	前期の復習	30	前期・後期の復習			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。</p> <p>復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。</p>					
教科書	<p>①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社</p> <p>②独和辞典（4月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※5月以降は必ず①②両方持参すること</p>					
成績評価	<p>前期試験と後期試験の点数に基づいて成績評価を行う。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも10回以上講義に出席しないと評価対象外となる（遅刻・早退は0.5回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語 I	井出 勉	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはずです。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。 また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検 5 級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。					
到達目標	①仏検 5 級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	授業の進め方、フランスの紹介・発音	16	数字（特に 1～20）と年齢			
2	綴り字の読み方・出合ったときの挨拶	17	部分冠詞			
3	発音練習・別れの挨拶	18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方			
4	自己紹介の仕方	19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方 * 仏検 5 級受講希望者がいる場合：仏検対策①			
5	名詞の性と数・不定冠詞	20	～に行く・～から来た 仏検対策②			
6	形容詞の性と数	21	所有形容詞・人称代名詞強勢形			
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞	22	比較級			
8	基本動詞の活用	23	命令形			
9	3通りの疑問文の作り方	24	曜日と日付の表記の仕方			
10	指示代名詞・～が好き（大好き）	25	天候・時刻			
11	否定文	26	近接未来・近接過去			
12	動詞～を持つとその慣用表現	27	過去分詞の作り方			
13	疑問形容詞	28	複合過去（助動詞 avoir）			
14	動詞～をするとその慣用表現	29	複合過去（助動詞 être）			
15	前期の総括	30	後期の総括			
予習内容 復習内容	予習：配布した講義資料に基づき、教科書付属の CD を聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。 CD も繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。					
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社					
成績評価	平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間 10 回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	辞書・参考文献については、第 1 回の講義や講義中に随時紹介する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生活科学概論	担当教員	講義	2		1, 4	1
授業概要 授業目的	<p>生活 (life) とは「いのち」をつないでいく営みとしての「暮らし」に他ならない。生活科学は「いのち」と「暮らし」にかかわる諸科学の知見を統合することによって生活の守護と質的向上を目指す実践的かつ総合的な学問である。</p> <p>本講義の目的は、自ら賢明な生活者たることを目指すとともに、生活の具体的な場としての地域の快適化と活性化に貢献できるような人材たるべく、「いのち」と「暮らし」にかかわる各分野を総合的に学んでいくことにある。</p>					
到達目標	<p>自らを含む人間の生活を科学的・総合的に理解し、賢明な生活者として思考・行動し、また他者の支援ができるようになるための基本的素養を身に着けること。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション (研究倫理教育を中心に) と図書館・情報処理演習室の利用説明 (学科長)					
2	「生活の科学」とは何か?					
3	暮らしの中の心理学					
4	ジェンダーの心理学					
5	社会福祉を考えるー「社会」から考えるの巻ー (グループワーク)					
6	社会福祉を考えるー「福祉」から考えるの巻ー (グループワーク)					
7	生活基盤としての社会保障					
8	「健康で文化的な生活」を考える					
9	障害とは何か～私たちの生活と障害への眼差し					
10	障害のある人の生活とは～具体的事例から学ぶ					
11	住民参加とコミュニティ					
12	生活からみた環境問題～「持続可能な社会」をめざして					
13	居心地の良い生活空間					
14	都市の住まい					
15	生活における情報科学技術について					
予習内容 復習内容	<p>予習に関しては、次回テーマについて告知を受け、事前調べを行う。</p> <p>復習に関しては、毎回の課題に取り組むことで、当日の講義内容の振り返りと総括を行う。</p>					
教科書	特に指定せず、講義中に適宜指示する。					
成績評価	毎回の講義で提示される課題…100% (毎回 10 点満点の合計点(欠席 0 点) × 10/15)					
実務経験	<p>社会福祉法人や障害者支援施設、医療機関、建築設計事務所、都市計画事務所などに勤務経験がある教員数名。</p> <p>実務経験をもとに地域問題解決の具体的な事例や方法などについて話をする。</p>					
その他 特記事項	<p>6 回以上欠席した者は、成績評価の対象から外れることになる。</p> <p>学籍番号の席に着席すること (該当の席に着席していない場合は欠席とみなす)。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話	ジョン・リチャーズ	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course.					
到達目標	My goal is to encourage students to improve their communication skills and to gain the confidence necessary to obtain an intermediate level of communication in English.					
回	学習内容	回	学習内容			
1	Introduction and Orientation	16	Unit 7 Then and now			
2	Assessment of Students' Abilities	17	Unit 7 Then and now			
3	Unit 1 Hello Everybody	18	Unit 8 A date to remember			
4	Unit 1 Hello Everybody	19	Unit 8 A date to remember			
5	Unit 2 Meeting people	20	Unit 9 Food you like!			
6	Unit 2 Meeting people	21	Unit 9 Food you like!			
7	Unit 3 The world of work	22	Unit 10 Looking Good!			
8	Unit 3 The world of work	23	Unit 10 Looking Good!			
9	Unit 4 Take it easy!	24	Unit 11 Life is an Adventure			
10	Unit 4 Take it easy!	25	Unit 11 Life is an Adventure			
11	Unit 5 Where do you live?	26	Unit 12 Have you ever?			
12	Unit 5 Where do you live?	27	Unit 12 Have you ever?			
13	Unit 6 Can you speak English?	28	This day is reserved for unfinished work in the textbook.			
14	Unit 6 Can you speak English?	29	This day is reserved for unfinished work in the textbook.			
15	End of First Semester Test	30	End of Second Semester Test			
予習内容 復習内容	Students comprehension will be assessed through weekly activities and homework.					
教科書	American Headway 1 (3rd edition. ISBN 978-0-19-472565-1) By Riz and John Soars (Oxford University Press)					
成績評価	Homework -50% Mid Term Exam - 20% Final Exam - 30%					
実務経験						
その他 特記事項	It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読	村井 美代子	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	<p>科学技術や教育、文化、環境問題など現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。</p> <p>②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）	16	前期試験返却 Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害			
2	Unit 1：pandemic の語源をたどる	17	Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害			
3	Unit 1：pandemic の語源をたどる	18	Unit 9：持続可能な都市づくりのために			
4	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯	19	Unit 9：持続可能な都市づくりのために			
5	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯	20	Unit 10：ブルーカーボンとは？			
6	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり	21	Unit 10：ブルーカーボンとは？			
7	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり	22	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響			
8	Unit 4：指紋認識精度を高める	23	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響			
9	Unit 4：指紋認識精度を高める	24	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション			
10	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち	25	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション			
11	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち	26	Unit 13：色の認識について			
12	Unit 6：ルービックキューブの歴史	27	Unit 13：色の認識について			
13	Unit 6：ルービックキューブの歴史	28	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性			
14	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅	29	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性			
15	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅	30	Unit 15：情報のオーバーロードへの対策			
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。</p> <p>提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディングプロスペクト 英文読解の総合演習』（三修社）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）70% + 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30%</p> <p>前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
実用英語	伊藤 怜	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	TOEIC 受験を意識しつつ、TOEIC 形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙や文法事項を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEIC の問題に準拠した、テーマ別 20 ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上と TOEIC の得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを課します。					
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで 400 点以上をとることができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	授業の説明・TOEIC 出題形式の概観	16	前期の復習・前期期末試験の解説			
2	Unit 1: Shopping	17	Unit 11: Office Equipment			
3	Unit 2: Health	18	Unit 12: Entertainment			
4	Unit 3: Travel	19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting			
5	ここまでの復習	20	ここまでの復習			
6	Unit 4: Weather	21	Unit 14: Contracts			
7	Unit 5: Communication	22	Unit 15: Shipment & Delivery			
8	Unit 6: Home & Family	23	Unit 16: Meetings			
9	ここまでの復習	24	ここまでの復習			
10	Unit 7: Requests & Negotiation	25	Unit 17: Environment & Energy			
11	Unit 8: Transportation	26	Unit 18: Hotels & Restaurants			
12	ここまでの復習	27	ここまでの復習			
13	Unit 9: Production & Control	28	Unit 19: PR & Advertising			
14	Unit 10: Economy & Management	29	Unit 20: Events & Parties			
15	ここまでの復習	30	ここまでの復習			
予習内容 復習内容	予習：各ユニット Step 1 の単語を確認し、「英語の仕組み」を読み、並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭でおこなう確認小テストの準備をしておく。					
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編 (アルク)					
成績評価	「前期・後期期末試験」50% (50 点*2 回：計 100 点) + 「小テスト」50% (5 点*20 回：計 100 点) 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席 5 回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・ 小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。 ・ 授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅱ	花尻 奈緒子	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、より多彩な中国語の表現を学びます。教科書は初中級レベルのものを使用し、無理なくじっくり進めていきます。 リスニング、簡単な会話・音読や自由作文など、中国語を実際に使うトレーニングを行います。 また、中国語の背景にある文化や社会についても、引き続き学びます。					
到達目標	語彙や表現を増やし、中国語を使用した日常的な会話、作文ができるようになることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス・一年次の復習	16	前期の復習・『～と思う』・『～だそうだ』			
2	比較文・『～以外に』・動詞を使った名詞句	17	本文講読・第5課トレーニング			
3	結果補語・会話練習	18	『もうすぐ～だ』・『過ごす』・動詞「祝」			
4	本文講読・第1課トレーニング	19	前置詞「为了」・会話練習			
5	『～のとき』・方向補語「起来」	20	本文講読・第6課トレーニング			
6	副詞「才」・動詞「知道」	21	『たとえ～でも』・『～もあれば～もある』			
7	本文講読・第2課トレーニング	22	「一定要～」・会話練習			
8	『～したばかり』・「把」構文	23	本文講読・第7課トレーニング			
9	「因為」・「原来」・会話練習	24	『～しながら…する』・副詞「只好」・可能補語			
10	本文講読・第3課トレーニング	25	動詞「希望」・会話練習			
11	前置詞「对」・二つの「要」	26	本文講読・第8課トレーニング			
12	『なぜ』・『～だけれども…だ』・会話練習	27	『～だけではなく、また…』・持続			
13	本文講読・第4課トレーニング	28	『少しも～ない』・会話練習			
14	『～とは思わなかった』・蓋然性の助動詞「会」	29	本文講読・第9課トレーニング			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	鄭高咏著『音読&会話で深める中国語 中級アイテム15』（朝日出版社） この他、授業内で補助資料の配布があります。					
成績評価	平常点50%、前・後期の期末試験50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅱ	今本 幸平	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	<p>「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または「ドイツ語Ⅰ」と同時に履修する方のための科目です。 「ドイツ語Ⅰ」で学ぶ文法事項をベースにして、聴き取り、発音、会話、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験5～4級程度）を使って口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。</p>					
到達目標	<p>①初歩的なドイツ語（検定試験5～4級程度）を聴いて理解することができる。 ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、発音の復習	16	第5課 住まい、値段の表現、数字			
2	発音の復習、挨拶	17	第5課 聴き取り、会話練習			
3	第1課 挨拶、自己紹介の表現	18	第5課 読解、文法の確認			
4	第1課 聴き取り、会話練習	19	第6課 家族について話す			
5	第1課 読解、文法の確認	20	第6課 聴き取り、会話練習			
6	第2課 職業をたずねる／答える表現、数字	21	第6課 読解、文法の確認			
7	第2課 聴き取り、会話練習	22	第7課 趣味について話す			
8	第2課 読解、文法の確認	23	第7課 聴き取り、会話練習			
9	第3課 友人を紹介する表現	24	第7課 読解、文法の確認			
10	第3課 聴き取り、会話練習	25	第8課 プレゼントをする／探す、数字			
11	第3課 読解、文法の確認	26	第8課 聴き取り、会話練習			
12	第4課 レストランでの会話表現	27	第8課 読解、文法の確認			
13	第4課 聴き取り、会話練習	28	第9課 予定、規則、願望などについて話す			
14	第4課 読解、文法の確認	29	第9課 聴き取り、会話練習			
15	前期の復習	30	第9課 読解、文法の確認			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、教科書の音声を聴き、音読する。 復習：学んだ表現の音読練習をする。参考書や「ドイツ語Ⅰ」の教科書などで文法の復習をする。</p>					
教科書	<p>①『Spitze! 1』（シュピッツェ! 1）朝日出版社 ②独和辞典（「ドイツ語Ⅰ」と同じものでよい）</p>					
成績評価	<p>前期課題 40%、後期課題 60%程度の割合で成績評価を行う。講義内で行う小テスト等は参考程度（マイナス評価の材料にはしない）。成績評価を受けるには、前後期とも10回以上の出席が必要（遅刻・早退は0.5回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語Ⅱ	青木 幸美	演習	2		4	4
授業概要 授業目的	フランス語をはじめて学ぶ人のために作られた教科書を用います。したがって、初心者も受講可能です。教科書の表題『C' est bon! セ・ボン!』は「おいしい!」という意味で、各課の話題のテーマは「食」と、比較文化です。最小限の文法事項を理解し、最大限の実践を試みて、フランス語を味わい、文化について考えることが目的です。					
到達目標	フランス語日常会話の基本的表現を使うことができ、自然なリズムで会話をすることができるようになる。フランス語のレシピを読んで実際に試作し、和食のレシピをフランス語で書いて説明できるようになる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	Leçon 0: Bonjour! 挨拶・授業の進め方		16	Leçon 6: Vous avez pris ~? ~を注文しましたか? 複合過去		
2	Leçon 0: un, deux, trois 数字		17	Leçon 6: レストランのフランス語		
3	Leçon 1: ~, s' il vous plaît. ~をください。		18	Leçon 7: Il faut ~. ~が必要です。		
4	Leçon 1: ~, s' il vous plaît. 名詞表現		19	Leçon 7: 「faire する」「pouvoir できる」		
5	Leçon 2: Qu' est-ce que c' est ? 何ですか?		20	Leçon 8: もっと濃いコーヒーが欲しい。		
6	Leçon 2: C' est ~. ~です。		21	Leçon 8: 比較級、最上級		
7	Leçon 2: Je suis cuisinier. 私は料理人です。		22	Leçon 9: おすすめは何ですか?		
8	Leçon 3: Vous aimez ~? ~は好きですか?		23	Leçon 9: 好みの表現		
9	Leçon 3: Je n' aime pas le poisson. 魚は好きではありません。		24	Leçon 10: Écoute bien ! ちゃんと聞いて!		
10	Leçon 3: 料理名のフランス語		25	Leçon 10: C' est sympa ! いい!		
11	Leçon 4: Vous avez une réservation ? 予約していますか?		26	Leçon 11: どれくらいかかりますか?		
12	Leçon 4: Vous avez ~ ? ~はありますか?		27	Leçon 11: キッチンのフランス語		
13	Leçon 5: Je vais prendre ~. ~をください。		28	Leçon 12: Je me lève tôt. 私は早く起きます。		
14	Leçon 5: Je n' ai pas très faim. あまりおなかがすいていません。		29	Leçon 12: フランス語のルセット (レシピ) を読む。和訳する。		
15	Leçon 5: 近接未来、近接過去		30	Leçon 12: 和食のレシピを仏訳する。		
予習内容 復習内容	毎回、学習した語彙や基本文の発音、聞き取りを繰り返し復習すること。授業のはじめに基本文の聞き取りをおこなうので、その準備として既習の基本文を確認し、練習しておくこと。					
教科書	黒木秀房、畠山香奈、加藤三和、Sonia Silva 『C' est bon! セ・ボン!』駿河台出版社					
成績評価	授業中におこなう聞き取り 60%、ルセットの和訳とレシピの仏訳の筆記 40%。					
実務経験						
その他 特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	盛田 健人	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。					
到達目標	目的に合わせて Word・Excel を正しく使い分けて資料を作成できる。					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作					
3	Word の基礎(1) : 文書の見た目の整え方					
4	Word の基礎(2) : 表の使い方					
5	Word の基礎(3) : 図の使い方					
6	Word の基礎(4) : レポートとしての体裁の整え方					
7	演習(1) : Word のまとめ					
8	Excel の基礎(1) : シートの見た目の整え方					
9	Excel の基礎(2) : 数式・関数の使い方					
10	Excel の基礎(3) : グラフの使い方					
11	Excel の基礎(4) : データベースの使い方					
12	演習(2) : Excel のまとめ					
13	Word と Excel の連携					
14	資料を作る際の心構え					
15	演習(3) : 総合演習					
予習内容 復習内容	予習 : 教科書の学習内容の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。 復習 : 演習時間中に終わらなかった課題に取り組み理解を深める。					
教科書	『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版、2019					
成績評価	課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。配点の比率は、毎回の課題あわせて 40%、演習はそれぞれ 20% である。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3 回以上となった場合は成績評価を不可とする。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	松下 真也	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、職場などではコンピュータを用いた資料・書類作成が頻繁に行われている。この実習では、資料・書類作成で頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) および office ソフト (Word, Excel) を対象とした各課題をこなし、コンピュータの基本操作の習得をめざす。また、PowerPoint を題材にして図表・グラフの正確さや見やすさを学習し、「わかりやすい資料」への意識を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータの基本操作を身につける。 2 office ソフトを用いて資料・書類作成ができる。 					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作、プレゼンテーションの基本 (PowerPoint)					
3	Word の基礎 1 基本操作の確認					
4	Word の基礎 2 表の作成					
5	Word の基礎 3 図形の挿入・編集					
6	Word の基礎 4 スタイルの適用 PowerPoint の基礎 プレゼン資料作成時の心構え					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎 1 基本操作の確認とグラフ作成、誤解を招きやすい図表・グラフ (PowerPoint)					
9	Excel の基礎 2 関数の設定					
10	Excel の基礎 3 データベースの活用①					
11	Excel の基礎 4 データベースの活用②					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Word と Excel の活用					
14	資料・書類作成時の心構え					
15	最終課題 Word, Excel のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：事前に教科書を読み、不明な用語・操作方法は調べておくこと。 復習：課題提出後、教科書の練習問題や発展問題に取り組むこと。					
教科書	「リファレンス動画付き！実戦ドリルで学ぶ office 活用術 演習問題全 173 題」 Noa 出版, 2019/2/22, 商品コード 1522					
成績評価	成績は、課題・演習・最終課題の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が 3 回以上の場合は成績を不可とする。 配点：課題 30%、演習 30%、最終課題 40%					
実務経験						
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本などを読むだけでは習得が困難である。したがって、この授業では実習に参加して、課題をこなすことに評価の主眼がある。受講の際には、この点に留意すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	眞田 耕輔	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel, PowerPoint) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作および情報リテラシーに対する習得することをめざす。					
到達目標	情報リテラシーおよびコンピュータ基本操作を理解したうえで、Word、Excel、PowerPoint の基本ソフトウェアを使用して、資料作成およびプレゼンテーションができること。					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作,					
3	Word の基礎(1): 基本操作					
4	Word の基礎(2): 表の作成					
5	Word の基礎(3): 図の挿入					
6	Word の基礎(4): Word を用いたレポート作成					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎(1): 基本操作					
9	Excel の基礎(2): 関数の使い方					
10	Excel の基礎(3): 図の作成					
11	Excel の基礎(4): データベース					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Excel 演習の復習, Power Point 実習(プレゼンテーションスライド作成)					
14	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (1): 発表 1 日程					
15	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (2): 発表 2 日程					
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 毎回の演習課題を取り組みながら講義内容の復習をすること。					
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2019 対応』 noa 出版、2019 ISBN978-4908434341					
成績評価	成績は、課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・プレゼンテーション実習) の結果を総合して判定する。なお、最終回の講義の時点で課題の未提出が 3 個以上の場合には成績を不可とする。配点は、word、Excel、プレゼンテーションの 3 回の演習 (各回 30%程度) の合計点で評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	第 14 回、第 15 回ではプレゼンテーション演習を行う。第 13 回で発表用スライドを Power Point で作成し、第 14 回、第 15 回では 2 週にわたって発表演習と受講者間での発表評価採点を行う。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	高瀬 治彦	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。					
到達目標	Microsoft のオフィスソフトを用いて、レポート・プレゼンテーション資料等を、作成できるようになる。					
回	学習内容					
1	導入, コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作					
3	Word の基礎 (1)					
4	Word の基礎 (2)					
5	Word の基礎 (3)					
6	Word の基礎 (4)					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎 (1)					
9	Excel の基礎 (2)					
10	Excel の基礎 (3)					
11	Excel の基礎 (4)					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Word と Excel の連携					
14	資料を作る際の心構え					
15	総合演習					
予習内容 復習内容	予習：教科書の関連範囲を事前に読んでおくこと。 復習：実習で取り上げなかった教科書の演習課題に取り組むこと。					
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版, 2019 ISBN978-4-908434-34-1					
成績評価	成績は、各回の課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。それぞれ、指示の達成状況 (正確さ) ・提出までの時間 (速さ) を主に評価する。配点の比率は、課題あわせて 40 点程度、演習はそれぞれ 20 点程度である。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習Ⅱ	笠 浩一郎	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excel を用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。					
到達目標	問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作					
2	Excel の基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）					
3	Excel の応用 1（統計的な関数、プルダウンメニュー）					
4	Excel の応用 2（情報の可視化、グラフの作成方法）					
5	Excel の応用 3（相関分析、CORREL 関数、オープンデータ）					
6	Excel の応用 4（データによる予測、e-Stat）					
7	Excel の応用 5（データベース、クロス集計、ピボットテーブル）					
8	中間課題					
9	RESAS の基本操作 1（RESAS を用いたデータ収集）					
10	RESAS の基本操作 2（RESAS を用いたデータ分析）					
11	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、分析の模式図の作成）					
12	最終課題の作成 2（分析の模式図の修正と発表資料の作成）					
13	最終課題の作成 3（発表資料の作成）					
14	最終課題の発表					
15	最終課題の発表と本講義のまとめ					
予習内容 復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	小課題（30%）、中間課題（20%）、最終課題（50%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報と社会	笠 浩一郎	講義	2		4	4
授業概要 授業目的	講義は、以下の三つの内容で構成されている。一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ICT の発達により誰もが簡単に情報を取得・発信できる社会になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷などの新たな問題が発生している。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすための方法を解説する。二つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。三つ目は、人工知能（AI）に関することである。近年、AI を活用したシステムを身近に利用できる状況にあり、そのシステムの仕組みを紹介する。					
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、情報科学の進歩により社会で起きている変化					
2	インターネットの仕組みと利用におけるマナー					
3	個人情報とプライバシー、社会で活用されているデータ					
4	電子商取引					
5	知的財産権・メディアリテラシ					
6	ネットワーク不法行為、データを扱う上での留意事項					
7	情報技術とセキュリティ、データを守る上での留意事項					
8	システム開発とマネジメント					
9	システム構成と故障対策、業務改善と分析手法					
10	AI の歴史と現在システム開発とマネジメント					
11	AI 利活用の最新動向システム構成と故障対策					
12	AI 活用領域について					
13	AI 利活用のための技術					
14	AI 利活用の現場					
15	情報倫理と情報リテラシ					
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくることに。前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。					
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。					
成績評価	毎回の小テスト（100%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
プログラミング基礎	眞田 耕輔	講義	2		4	4
授業概要 授業目的	現在、情報分野に携わる人材だけでなく、あらゆる分野を専門とする人にとって、プログラミングの技能を身につけることは必要になってきている。本講義では、Python を用いて、変数、関数、制御文（条件分岐、繰り返し）など、プログラミングの基本的な概念、記述方法を解説するとともに、プログラミングの演習を行い、実践的にも学びます。Python の基礎を修得することを本講義の目的とする。					
到達目標	基本的な問題が与えられたときに、それを解くアルゴリズムを考え、実際にプログラミングできることを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	プログラミングとは、変数とデータ型					
2	コレクション					
3	条件分岐					
4	繰り返し					
5	関数					
6	オブジェクト					
7	モジュール					
8	中間テスト					
9	機械学習とは					
10	機械学習によるデータ分析					
11	機械学習を用いた分類					
12	機械学習を用いた回帰					
13	期末課題のテーマ決め					
14	期末課題の分析の実施					
15	期末課題の分析結果の報告					
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 授業で紹介した内容を、実際にプログラミングして復習すること。					
教科書	スッキリわかる Python 入門、インプレス、（ISBN:9784295006329）					
成績評価	中間テスト（40%）、期末課題（60%）					
実務経験						
その他 特記事項	予習、復習のために Windows または Mac の PC を所有していることが望ましい。 統計学についての基礎知識を取得済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義	木野村 嘉則	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	<p>これまで、体育を通じて、健康や運動の重要性について学んできました。また、人々の健康志向も高まり、健康や運動に関する情報に溢れています。本科目では、運動によって人間のからだに意図的に働きかけ、構造的あるいは機能的な変化を目指すトレーニングについて扱います(この際、スポーツのトレーニング方法を参考に考えます)。適切な情報をもとに健康づくりや身体づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てることを目指します。特に、生理学的、運動学的な基礎的な知識について理解することを目指します。</p>					
到達目標	<p>トレーニングに関係する生理学的な知識を身につける。 体力的なトレーニングについての原則や方法を説明できる。 健康づくりや体力づくりを目指した運動プログラムについて考えることができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、トレーニング科学の概論（体力とは何か）					
2	筋肉の構造と収縮の仕組み					
3	骨格の構造と関節の運動					
4	筋力を高めるトレーニング方法					
5	筋力トレーニングに係わる筋の特徴					
6	スピードを高める筋力トレーニングについて					
7	運動に必要なとなる身体のエネルギー					
8	無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニング					
9	持久力を高めるインターバルトレーニング					
10	トレーニングの原則					
11	体格や体力の発達					
12	トレーニング時の障害予防、加齢に伴う体力の変化					
13	体力や体格の性差、運動処方					
14	トレーニングの目標設定					
15	トレーニングの計画					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回講義に向けた課題に関連した情報について検索し目を通すなど。 復習：講義資料とノートの整理などを通じて基礎的な用語を理解する。</p>					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。					
成績評価	授業時に取り組む課題にて評価します（100%）					
実務経験						
その他 特記事項	<p>運動は健康に重要な役割を果たします。生活の中に運動を取り入れることを意識していくことが重要です。この講義が生涯にわたって運動を楽しんでいくきっかけになってくれたらと思います。みなさんがお互いのこれまでの経験をシェアしながら、講義で扱う知識を具体的にイメージできるようになってほしいです。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技	石川 拓次	講義	1		2	4
授業概要 授業目的	<p>様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。（知識・理解） 2 それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。（思考・判断） 3 生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。（思考・判断） 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・体力測定					
2	バドミントン (1) 基本的なストローク					
3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦 1					
4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦 2					
5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)					
6	バスケットボール (2) 総当たり戦 1					
7	バスケットボール (3) 総当たり戦 2					
8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール					
9	バレーボール (2) 総当たり戦 1					
10	バレーボール (3) 総当たり戦 2					
11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス					
12	卓球 (2) 総当たり戦 1					
13	ニュースポーツ (1) インディアカ					
14	ニュースポーツ (2) インディアカ					
15	体力測定					
予習内容 復習内容	授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。（毎回 90 分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	<p>定期試験（筆記）は行わない。 授業への積極的態 度 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。</p>					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生命科学	狩野 幹人	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	<p>生命科学 (Life Science) は、21 世紀の科学技術を担う重点分野の 1 つである。2003 年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。</p> <p>本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。</p>					
到達目標	<p>①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス (科学とは? 自然科学とは? 生命科学とは? を中心に)					
2	細胞の構造					
3	細胞の形質、機能					
4	細胞の活動					
5	タンパク質の役割					
6	多細胞生物への展開 (1) - 細胞間の情報交換					
7	多細胞生物への展開 (2) - 体細胞分裂と DNA の複製					
8	免疫システム (1) - 生体防御機構の概要					
9	免疫システム (2) - T 細胞と細胞性免疫					
10	免疫システム (3) - B 細胞と体液性免疫					
11	細胞の再生と死					
12	環境の認識、調節					
13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは					
14	生命科学と知的財産 (1) - 知的財産とは					
15	生命科学と知的財産 (2) - 生命科学の発展と知的財産の役割					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。</p>					
教科書	<p>「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第 4 版)、和田勝、羊土社 (2020)」を教科書として用いる。また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。</p>					
成績評価	<p>①毎回出席をとる (講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらおう)。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート (2 回を予定) により成績を評価する。</p>					
実務経験	<p>2022 年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト (文部科学省)」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。</p>					
その他 特記事項	<p>単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自然と科学	松井 博和	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	自然と科学について、いわゆる理系の人でも理解していない現象も、簡単な説明や実験で理解してもらおう。講義の間に、毎回の授業において、主として計算問題を解き、レポートとして提出してもらおう。これにより、主体的に現象理解に取り組めるようにする。私自身が体験した事象や、ニュースなど世間で注目されるものについて、科学的に説明できるものであれば、適宜授業に取り込む。					
到達目標	身近な生活の中で体験したり、利用する自然現象や科学技術を理解してもらおう。					
回	学習内容					
1	長さ、速さ、時間などの単位と定義について					
2	天体（地球と月と太陽）について					
3	天体（恒星と惑星）について					
4	機械機構（車輪など）について					
5	電気（電力量と生活）について					
6	私の研究紹介・中間試験					
7	光と色について（物理的説明）					
8	光と色について（生体的説明）					
9	音（周波数・音量・デシベル）について					
10	音（音声）について					
11	波動と量子力学について					
12	生命と遺伝について					
13	人工知能について					
14	天体（宇宙と科学）について					
15	自然と科学についてのまとめ・期末試験について					
予習内容 復習内容	予習内容：各学習内容の項目をキーワードにネットなどで簡単に調べてみる。 復習内容：講義内容に対して疑問をまとめる。					
教科書	教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。					
成績評価	毎回提出する授業内レポート計 40(=2 点*15 回+10) 点満点（レポート提出が 7 回以下は成績不可とする）。中間試験 20 点、期末試験は 40 点満点。合計 100 点満点で成績評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	前年度までは実施しなかった中間試験を取り入れ、間違い易い内容理解を確認し復習する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学	高橋 彩	講義	2		2	2, 4
授業概要 授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学とされている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。					
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。					
回	学習内容					
1	心理学とはどのような学問か					
2	知覚（大きさの恒常性、錯視）					
3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）					
4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）					
5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）					
6	感情（感情の機能、ストレス）					
7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）					
8	臨床 精神的健康					
9	知能（知能検査と IQ）					
10	思考（推論、ヒューリスティックス）					
11	対人認知（印象形成、対人魅力）					
12	発達（遺伝と環境）					
13	集団 1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）					
14	集団 2（リーダーシップ、態度変容）					
15	心理学の応用					
予習内容	予習：講義中に指示した文献を読む					
復習内容	復習：授業課題で分からなかった部分を調べる					
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6					
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論	古山 歩	講義	2		2	3, 4
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。					
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、生物の分類・生物多様性、生態系とそのサービス					
2	基礎的な生態学					
3	環境問題の概要					
4	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響					
5	地球温暖化Ⅱ：対策と課題					
6	再生可能エネルギーの利点と課題					
7	都市開発					
8	海洋汚染					
9	生物の乱獲・混獲					
10	捕鯨					
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響					
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題					
13	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト					
14	生物の保護・増殖事業					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。					
教科書	なし。講義にて資料を配布する。					
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60% 1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
教育学	伊東 直人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。					
到達目標	1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、教育の意義と本質					
2	教育の必要性と可能性					
3	社会化と学校教育の位置・役割					
4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて					
5	国における教育政策の動向					
6	教育行政の変容					
7	教育委員会制度の見直し					
8	生涯学習体系への移行					
9	学校の経営と学校評価					
10	令和の日本型学校教育					
11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて					
12	教育の機会均等Ⅱ 不登校・いじめ問題・貧困・ヤングケアラー等子どもをめぐる課題を踏まえて					
13	学校危機管理					
14	学校における ICT 活用					
15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育					
予習内容 復習内容	最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	最終レポート（40%）、小レポート・授業振り返り（40%）、授業の参加意欲・討議への参加度（20%）					
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生涯学習論	長島 洋	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	<p>*生涯学習の基礎知識を学ぶとともに、身近な問題を取りあげ、生涯学習社会の重要性を学びます。</p> <p>*「いつでも、だれでも、どこでも学習することができ、その成果が活用される社会をめざす」生涯学習社会の実現に向けて生涯、学ぶことのできる方策を考え、プランニングをします。</p> <p>*自分のふるさとやその他、市町村、県等をモデルに、地域の課題解決のためにどのような生涯学習プランが必要かを考察し、生涯学習プログラムを作成し、生涯学習社会の実現に向けて考えます。</p> <p>*地域を見つめなおし、様々な課題解決にむけた取り組みを進めるための学習プログラム作成します</p>					
到達目標	<p>1 生涯学習について国の政策も交え、基礎知識を身につけ、自ら学び続けることができる。</p> <p>2 モデル市町村の地域課題を把握し、課題解決に向けた学習プランを作成することができる。</p> <p>3 地域の課題を解決するために、自らが、行動できる力を身につけることができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション	生涯学習とは何か 生涯学習社会の実現に向けて				
2	生涯学習の基礎	理念・考え方 日本国憲法、教育基本法 社会教育法等				
3	社会教育と生涯学習	社会教育法より 生涯学習理念の理解および、社会教育の理解				
4	まちづくりと生涯学習	課題解決にむけて人々の生涯学習とまちづくりとの関係				
5	公民館と生涯学習	地域に根差した生涯学習の拠点としての公民館の役割及び社会教育施設の役割				
6	人権学習と生涯学習	人権学習の重要性 学びをとおして 生涯学習社会の柱としての人権学習				
7	青少年教育と生涯学習	青少年をめぐる、学校と地域・家庭との連携の必要性 学社融合				
8	防災学習と生涯学習	災害を通して、防災について地域の住民の学習の重要性と学習プログラム				
9	幸せのための生涯学習	さまざまな地域課題解決にむけて生涯学習プログラム作成のための基礎				
10	生涯学習プログラムの作成	モデル市町村の概要、特色等 調査及び理解				
11	生涯学習プログラムの作成	地域住民の生活状況・教育文化施設等の整備状況 課題等の理解				
12	生涯学習プログラムの作成	地域課題の把握・課題解決にむけた考察 プログラム作成				
13	生涯学習プログラムの作成	学習プログラムの具体的ノウハウと企画 広報 実施にむけて				
14	生涯学習プログラムの作成	予算・場所等 企画実施にまでの準備と実施 リスクマネジメント				
15	試験（プログラムの完成）と生涯学習プログラムのシェアリングおよびプレゼン					PR
予習内容	予習 事前にモデル市町村の情報を収集すること					
復習内容	復習 毎回だされる課題の整理					
教科書	資料は毎回配布します。 テキストは使用しない。 参考文献については資料に提示。					
成績評価	毎回提出してもらった課題またはレポート 60% 試験（生涯学習プログラムの完成物） 40% 6回以上欠席の場合、無資格となります。					
実務経験	文部科学省生涯学習局、三重県教育委員会生涯学習課 三重県熊野少年自然の家、三重県生涯学習センター所長として勤務。長年の生涯学習分野での実務をとおして生涯学習の重要性を示します。					
その他 特記事項	様々な学びのチャンネルをとおして、自分たちが幸せに生きるために、大切な「学び」を伝え、受講者自ら企画してもらったプログラムを楽しみにしています。一緒に、学びましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権	伊藤 信也	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>					
到達目標	<p>①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。</p>					
回	学習内容					
1	授業概説：現代社会と人権					
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生					
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由					
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題					
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち					
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい					
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態					
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題					
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～					
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～					
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ					
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制					
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造					
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史					
15	21世紀の人権問題への視点を考える					
予習内容 復習内容	<p>予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。</p>					
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は20%）					
実務経験						
その他 特記事項	歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。人権問題や差別問題に関心のある学生による積極的な授業参加と授業環境の保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ジェンダー論	松田 いりあ	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標	この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。					
回	学習内容					
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明					
2	ジェンダーとは					
3	セクシュアリティとは					
4	ジェンダーの社会化					
5	ジェンダーと子育て、教育					
6	パートナーシップ、セクシュアリティとジェンダー					
7	ジェンダーと労働					
8	ジェンダーと身体					
9	ジェンダーとスポーツ					
10	ジェンダーと空間					
11	ジェンダーに関する条約、法律					
12	「男性性」と男性学					
13	広報・広告における女性表象					
14	ファッション・メディアにおける女性表象					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学	望月 秀人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思えます。					
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：歴史学とは					
2	大航海時代と世界の一体化					
3	宗教改革と宗派分裂					
4	宗教戦争と世俗化					
5	中世の封建制					
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ					
7	「絶対王政」の意義と限界					
8	フランス革命の勃発					
9	「市民革命」と近代国家					
10	革命とナショナリズムの時代					
11	工業化とその影響					
12	第一次世界大戦の衝撃					
13	戦後処理方法の変化					
14	大恐慌とファシズム					
15	近代という時代について					
予習内容 復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものであれば良いでしょう。					
成績評価	定期試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験						
その他 特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地理学	山崎 智博	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。 ・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）					
2	都市・地域とは					
3	都市・地域の歴史					
4	都市・地域の結合関係					
5	都市の内部構造					
6	都市の商業・サービス業					
7	都市の工業					
8	都市のオフィス立地					
9	都市・地域の交通					
10	都市のエスニック集団					
11	大都市圏構造					
12	住宅と住居					
13	都市問題・都市計画					
14	都市を歩く					
15	地域・都市の人文地理学まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献等に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	1回の授業で1つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学	吉本 陵	講義	2		2	1, 4
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。					
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。					
回	学習内容					
1	ガイダンス&イントロダクション					
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論					
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味					
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて					
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について					
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について					
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則					
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状					
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想					
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について					
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について					
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題					
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状					
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題					
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？					
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りを行うこと。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。					
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学 I	今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕					
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕					
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕					
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕					
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕					
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕					
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕					
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』					
10	シェリー『フランケンシュタイン』①					
11	シェリー『フランケンシュタイン』②					
12	シェリー『フランケンシュタイン』③					
13	メリメ『カルメン』					
14	デュマ・フィス『椿姫』①					
15	デュマ・フィス『椿姫』②					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が 5 回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する可能性がある。 「文学 I」と「文学 II」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ	今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部					
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部					
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』					
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半					
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半					
7	ゲーテ『魔王』					
8	グリム童話					
9	シャミッソー『影をなくした男』					
10	ホフマン『砂男』					
11	シュペーリ『ハイジ』①					
12	シュペーリ『ハイジ』②					
13	カフカ『変身』					
14	シュリンク『朗読者』第1部					
15	シュリンク『朗読者』第2、3部					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する可能性がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
美学	岡野 智子	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学などとも深い関わりをもつ。 本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。					
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表し、その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う事ができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）					
2	日本美術の成立2（平安～桃山）					
3	日本美術の成立3（江戸）					
4	吉祥の意匠―福を招く図様―					
5	桜の意匠―桜への想いとその表象―					
6	涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―					
7	秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―					
8	冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―					
9	月次絵の楽しみ1―年中行事と景物―					
10	月次絵の楽しみ2―花鳥と風俗―					
11	伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―					
12	源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―					
13	動物の意匠―霊獣からペットまで―					
14	渡来の意匠と表現1―憧れの南蛮ファッション―					
15	渡来の意匠と表現2―西洋画風の影響―					
予習内容 復習内容	各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを推奨する（現況では感染防止策を十分に講じて実施すること）。					
教科書	教科書は使用しない。資料を毎回配布。参考文献は初回の講義でリストを配布。					
成績評価	①授業時に出席時に提出するコメント内容 50% ②展覧会等の見学レポート内容 20% ③期末レポート内容 30%（②については感染状況により比率を③と調整することがある）					
実務経験						
その他 特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講 注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中からコメント提出を求める。受講者は提出 回数が原則として10回以上の者のみ③の提出資格が得られる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論	嶋田 宏司	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	<p>西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。</p> <p>芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。</p>					
到達目標	<p>西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。</p> <p>美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。</p>					
回	学習内容					
1	フランスにおける、リアリズムから印象主義まで					
2	ギュスターヴ・クールベ					
3	バルビゾン派 1					
4	バルビゾン派 2					
5	印象主義とクロード・モネ					
6	印象主義の展開と技術的、および理論的側面					
7	黒田清輝、久米桂一郎					
8	藤島武二					
9	青木繁					
10	梅原龍三郎					
11	梅原龍三郎、安井曾太郎とフォーヴィスム					
12	安井曾太郎					
13	萬鉄五郎					
14	萬鉄五郎とキュビズム					
15	学んできた美術史を振り返る					
予習内容 復習内容	<p>予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもいいですが、『そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。</p>					
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。					
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域史	山崎 智博	講義	2		3	4
授業概要 授業目的	三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけるようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。 ・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。 					
回	学習内容					
1	三重県の近現代（オリエンテーション）					
2	明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行					
3	明治の三重：鉄道の開設と三重					
4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化					
5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重					
6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合					
7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争					
8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画					
9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画					
10	戦後復興期の三重：復興期の交通					
11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街					
12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展					
13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通					
14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光					
15	三重県の近現代史まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。 ・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自治体行政特論	石原 洋介	講義	2		3	4
授業概要 授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することで理解が深まる。					
到達目標	現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深められる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）					
2	津市の政策について（政策財務部）					
3	財政について（政策財務部）					
4	津市の福祉について（健康福祉部）					
5	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）					
6	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）					
7	津市の教育について（教育委員会事務局）					
8	都市計画について（都市計画部）					
9	環境行政について（環境部）					
10	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて					
11	津市議会傍聴【12月】※津市議会 HP の映像配信の市長					
12	津市シティプロモーション（広報課）					
13	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）					
14	参加と協働のまちづくりについて（市民部）					
15	自治体経営（市長）					
予習内容 復習内容	予習：各講義内容について津市 HP 等を活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	教科書・参考文献の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。					
成績評価	出席時の講義ノート（60%）、議会傍聴レポート（40%）を併せて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外とする。					
実務経験	講師は、現職の津市長をはじめ各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かし、実践的な自治体基礎知識の養成に努める。					
その他 特記事項	毎回、講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート（A4判）」を提出する。 12月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート（A4判）」を提出する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
キャリア形成セミナー	南 有哲	講義	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。 ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます（講師は毎回変わります）。 ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。 					
到達目標	<p>全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。</p> <p>毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス（学生部長）／就職活動と目標設定					
2	起業について					
3	ハラスメントと職場環境					
4	企業から求められる人材とは					
5	地域貢献を仕事にする					
6	変化の激しい時代にやるべきこと					
7	地域を知る、地域で働く					
8	ライフプランと金融リテラシー					
9	ポジティブ心理学と SDGs					
10	税を知る					
11	防災とまちづくりに関わる					
12	中小企業と信用保証協会の役割					
13	公的年金制度を学ぶ					
14	労働関連の法律を知る					
15	まとめレポートの作成					
予習内容 復習内容	事前にお知らせする各講師のテーマについて調べ、各回を終えた後に考察メモを復習してください。					
教科書	テキストは使用しない。毎回、各講師より配布されるレジュメ・資料を使用します。					
成績評価	出席状況や毎回の小レポート、最終レポートの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。5回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします。					
実務経験	津市長、労働局職員、社会保険労務士をはじめとする各分野の専門職の方々がそれぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などをお話しします。					
その他 特記事項	2024年4月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 <u>1年生の履修を原則とします。</u>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目 I	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目Ⅱ	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
農林体験セミナー	石原 洋介	実習	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。 ・2024年8月28日（水）～8月30日（金）の3日間、農場で実施予定（宿泊） <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、平倉演習林（津市美杉町）において3日間の実地演習、講義を実施する。 ・2024年9月18日（水）～9月20日（金）の3日間、演習林で実施予定（宿泊） 					
到達目標	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。 <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。 ・演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。 					
学習 内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>(1)授業の概要説明、(2)三重の特産農産物の概要、(3)ダイズの栽培管理、(4)世界と日本の食糧事情、(5)イネの収穫、(6)肉牛（松阪牛）の肥育管理、(7)豆腐作り、(8)食の安全・安心と社会、(9)茶（伊勢茶）の加工Ⅰ（茶の栽培、歴史、加工の原理など）、(10)茶（伊勢茶）の加工Ⅱ（茶の加工の実践）、(11)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅰ（一年を通じたウンシュウミカンの栽培管理の概要）、(12)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅱ（摘果、水管理など栽培管理の実践）、(13)うどん作り（うどん作りの歴史、加工の原理など）、(14)うどん作りⅡ（うどん作りの実践）、(15)授業の総括</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>(1)～(5)（1日目）演習林の概要、宿舎利用に関する注意事項の説明、森林の多面的機能についての林内学習、天然生林・二次林の林分構造と植生観察、紀伊半島暖温帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える、人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学、(6)～(10)（2日目）日本の森林・林業の課題解説、身近な木製品とトレーサビリティについて調べる、林業体験：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り、林産加工：コースター加工、丸太ベンチ製作、(11)～(15)（3日目）環境学習：涼しい森林溪流環境での散歩学習とふりかえり、レポート作成、ディスカッション、最終レポート作成、帰路：木材市場などを経由し帰学。</p> <p>※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林と周辺地域が学習対象です。以下を見ておくことをお勧めします。(1)三浦しをん著「神去なあなあ日常」(2)映画「WOODJOB!」のDVDまたはBD。</p>					
予習内容 復習内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>事前：moodleに授業で使用する資料を予め載せておくので予習しておく。 事後：授業項目で課される課題について、授業内容を基に授業で使った資料に加え、関連事象を自分で調査するなど復習しておく。</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>事前：森林・林業林産業・環境保全に関する話題や時事問題について調べておく、具体的なテーマ・キーワードを事前に示すので課題に沿った予習を行い各自プレゼンができる準備をしておく。 事後：授業項目で示される課題について、講義・実習の学習内容をふまえて最終レポートにまとめること。</p>					
教科書	必要に応じて資料を配布する。					
成績評価	<p>①農場コース：レポートならびに授業態度を総合判断する。</p> <p>②演習林コース：演習への取り組み態度50%、レポート50%。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林で講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースの同時受講はできません。 ・希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。 ・受講生は事前に開催するガイダンスに参加すること（日程は決まり次第掲示します）。 ・受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食と観光実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。					
学習 内容	<p>10月上旬 「ガイドダンス」 13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方 14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし 15:20-17:00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13:00-15:30 展示見学・講義 15:40-17:00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10:00-12:00 施設見学・体験 12:00-13:00 昼食・移動 13:00-14:00 農を活かした観光開発 14:10-16:10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10:00-16:10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13:00-17:00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13:00-16:00 成果発表会 16:00-17:00 講評・まとめ</p> <p>※受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>					
予習内容 復習内容	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。					
教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）					
成績評価	①グループワーク等への取組姿勢 60%、②成果発表レポート 40% ※一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。					
実務経験	行政での委員経験があります。講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。					
その他 特記事項	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
次世代産業実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	3, 4
授業概要 授業目的	近年、社会のデジタル化が著しく発展しており、社会変革の転換点となっている。様々なデジタルツールが、個人でかつ無料で提供され、時間や労力のかかっていた知的生産物は苦勞することなく瞬時に生み出せるようになってきた。しかしながら、一方ではこのデジタル化の変化に適応できなければ、社会で必要とされる能力を獲得できない可能性が高い。そのような変革期において、最先端のデジタル技術に触れ、それらを実践的に利用することで、今後ますます加速する情報化社会の変貌に対し次世代を担う三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力を学ぶ。					
到達目標	現在、利用可能なデジタルツールについて知り、それらを扱えるスキルを身につけることで、地域や組織へのアプローチを考えソリューションを導き実行できる力を獲得する。過去の産業構造から、現在、未来へ進化する産業・社会を見通し、常に時代の流れを読むと同時に、膨大な労力や時間を要する課題に対し、これらのツールとスキルを用いて、少ない人材で解決する可能性を提示する人材となる。本科目では三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、これらのツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行う。					
学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> ●本講義 Day1 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の発展と、デジタルがもたらす産業の変革 三重大学 三橋氏 ・CeMDS の案内と説明 三重大学 若林氏 ・各ソフトウェアの説明 ●本講義 Day2 ハードウェア #3D プリンター #ドローン #VR #メタバース <ul style="list-style-type: none"> ・3D プリンターを用いたモノづくりと立体造形物の試作 ・ドローンにおける技術と産業への応用事例について ・現実社会とデジタル社会の境界線をなくす VR・AR 技術 ・グループワークと立体造形物の確認 ●本講義 Day3 ソフトウェア #動画編集 #アバター #CG #VFX <ul style="list-style-type: none"> ・adobe 製品のソフトウェアについて ・3D グラフィックの制作 ・アバター制作 ・動画編集 ●本講義 Day4 三重県の産業への応用と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・三重県内の伝統産業と次世代産業について 四日市市文化まちづくり財団 西浦氏 ・グループワーク ・ハードウェアもしくはソフトウェアの産業への応用実践 ・グループでの発表と質疑応答 					
予習内容 復習内容	本講義までに、デジタル技術を利用した技術革新（XR）について 800 字以内でレポート作成し提出する。					
教科書	なし。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う講義・グループワーク等に参加する。後期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医療・健康・福祉実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	1, 4
授業概要 授業目的	当授業は三重県の重点課題である医療・健康・福祉に関して、名張市をフィールドとし、現場で学ぶ PBL 型授業である。地域共生型社会で取組を続ける地域住民の健康や QOL について、そのコミュニティに参加することで、医療・健康・福祉に関わる地域内のステークホルダーの取組、及びそれら各領域の横断的取組について理解を深める。医療、福祉、健康を目的とした各種取組みを知ることにより、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。					
到達目標	三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目では、3～4 人のグループワーク及びフィールドワークを通して得た情報から地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについてのデータの統合・深い分析・考察を加え、得られた成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。受講生一人一人が個々で可能な社会貢献を考え実践する主体性を獲得し、異なる立場の間に立って円滑にコミュニケーションが取れる力を身につける。					
学習内容	<p>地学習 Day1 # 地域医療と包括ケア 名張市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスと名張市の現状 まちの保健室について 名張市 柴垣様 ・まちの保健室見学とフィールドワーク ・名張市立病院での見学と講義 三重大学医学部附属病院 山本先生 ●現地学習 Day2 # 健康長寿への取組 名張市 ・三重県の医療・健康・福祉について 鈴鹿医療科学大学 河尻先生 ・赤目地域の取組について ・フィールドワーク ・フィールドワークのデータ整理 ●現地学習 Day3 # 中山間地域の医療 # 地域間コミュニティが行う健康づくり 名張市 ・地域をつなぐ、心の健康とケアができる場所づくり 一般社団法人つなぐ 北森氏 ・名張市旧市街地見学とフィールドワーク ・グループワーク及びフィードバック ●まとめ学習 Day4 グループワーク及び最終発表 三重大学 ・フィールドで得たデータのまとめ、感想のフィードバック ・プレゼン資料と原稿作成 ・発表と質疑応答 <p>《注意》現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては変更の可能性もある</p>					
予習内容 復習内容	事後レポート及び、最終課題の提出					
教科書	なし					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う現地実習・グループワーク等に参加する。前期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。 ・学生教育研究賠償責任保険に必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある（詳細は後日連絡）。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
住生活論	木下 誠一	講義	2	建築士	1	1, 3
授業概要 授業目的	人間の生活にとって欠かせない存在である住まいが、風土や家族、社会的・文化的条件など、生活を取り巻く諸条件との関係によって、これまで歴史的にどのように形成されてきたかについて学び、今日の家族形態の多様化や高齢化、情報化などをふまえた住まいのあり方について理解を深める。					
到達目標	現代の住生活が抱える課題を理解し、今後の住生活のあり方について考察する力を身に着ける。					
回	学習内容					
1	住まいと風土 (1)世界の住まい					
2	住まいと風土 (2)日本の住まい					
3	住まいの歴史 (1)近代以前					
4	住まいの歴史 (2)近代以降					
5	住まいと生活様式 (1)起居様式					
6	住まいと生活様式 (2)食事・入浴慣習					
7	住まいと家族 (1)ライフスタイル					
8	住まいと家族 (2)ライフサイクル					
9	住まいの快適性 (1)室内環境					
10	住まいの快適性 (2)維持管理					
11	住まいの快適性 (3)福祉					
12	住まいと地域 (1)コミュニティ					
13	住まいと地域 (2)共同秩序					
14	住まいと地域 (3)団地再生					
15	まとめと確認					
予習内容 復習内容	予習：講義のテーマ毎に関連した文献等に目を通す。 復習：講義資料を読み返し、要点をまとめ、疑問点を調べる。					
教科書	教科書は使用しない。講義ごとに資料を配付する。					
成績評価	出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 講義のテーマ毎に実施するレポートにより評価する（100％）。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食生活論	杉野 香江	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	健康で長生きするためには、健康な食生活や栄養学について理解し、自分の健康に関心を持つことが重要である。本講義は、“食べる”ということはどういうことか、多方面からとらえ、現在の食生活の問題と関連させながら講義を進める。さまざまな栄養素と食品の機能および、健康の維持・増進のために必要な食生活の基礎知識を習得することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活の現状と課題、栄養素の機能と役割、病気と栄養の関わり等の基礎的事項について説明できる。 2. 各ライフステージにおける栄養の役割と食生活について説明できる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・健康な食生活とは					
2	食生活の現状と課題					
3	栄養と栄養素					
4	炭水化物、脂質、たんぱく質について					
5	ビタミンについて					
6	ミネラルについて					
7	機能性成分について					
8	食品表示について					
9	活動と栄養					
10	症状別の栄養					
11	妊娠期の栄養と食生活					
12	乳幼児期の栄養と食生活					
13	成長期・成人期の栄養と食生活					
14	高齢期の栄養と食生活					
15	食生活論のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：関連事項について調べる。 復習：配布資料の内容を確認し、関連項目について調べる。					
教科書	毎回の講義で資料を配布する。その他、参考資料については、講義の中で紹介する。					
成績評価	毎回の講義時に提出する小レポート（20%）と講義内で実施する確認テスト（80%）によって評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
衣生活論	西川 光子	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	私たちの生活において一番身近な環境である「衣」。 衣服の役割、機能、人体に及ぼす影響、生産、管理、環境問題についての知識を修得することで、何を着用するべきか、経済的で心身共に健康な衣生活を営むことを目的とする。					
到達目標	①自分が着用している服がどんな繊維から作られているのかを知り、その特徴を理解する。 ②衣服を長く着用するための衣服の管理を修得する。 ③環境に配慮した衣生活を考え実践する。					
回	学習内容					
1	被服の起源	ひとはなぜ装うのか				
2	被服の変遷(1)	民族服				
3	被服の変遷(2)	被服の変化と流行				
4	被服の素材(1)	繊維の種類と特徴				
5	被服の素材(2)	布の性能				
6	被服の選択	被服の色彩と消費性能				
7	被服の設計	体型に合う被服				
8	被服と健康(1)	被服による気候調節				
9	被服と健康(2)	動作適合性				
10	被服の管理(1)	品質表示と洗濯				
11	被服の管理(2)	洗剤の種類と働き				
12	被服と環境	被服の廃棄とリサイクル				
13	進化する被服(1)	機能性素材				
14	進化する被服(2)	スポーツウェアの変遷				
15	ユニバーサルデザイン・省エネ・災害への対応					
予習内容 復習内容	予習：事前に授業内容に目を通す。(教科書・授業資料など) 復習：授業内容の整理と実生活への応用点を考える。					
教科書	『消費者の視点からの衣生活概論』井上書院					
成績評価	レポート課題2回：20%、試験：60%、平常評価(コメントシート)：20%により総合的に評価する。 毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席が無い場合、評価の対象外とする。					
実務経験						
その他 特記事項	講義には主にテキストを使用するが、必要に応じて適宜プリントを配布する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生活技術	西川 光子	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	<p>・人間生活の基盤である衣・食・住における知識と技術を習得することで、健康で快適な、環境に配慮した生活を営むための実践的・創造的能力を養う。</p> <p>・日々の生活の中で、私たちはどんな材料からできた衣類を着用し、何を食べ、どんな環境で過ごしているかを理解し、より健康で安全な生活を営むための、生きる力を養うことを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①健康で安全な衣・食・住生活を送るための知識を身につける。</p> <p>②自分の生活を振り返り、改善点を見つけ実践する。</p> <p>③環境に配慮した衣生活のための基本的技術を習得する。</p>					
回	学習内容					
1	家庭生活の理解(1)		・家庭生活とその変遷			
2	家庭生活の理解(2)		・家庭生活と消費生活			
3	食生活の基本知識		・栄養の理解			
4	食生活の検証		・「食事バランスガイド」の理解と確認			
5	食品の購入と保存					
6	安全で快適な住環境とは					
7	被服の基本知識		・被服の機能と素材			
8	被服の管理		・洗濯としみ抜きの方法			
9	家庭で必要な裁縫技術		・裁縫道具・機器の使い方			
10	ブックカバーの製作(1)		・布の始末の方法			
11	ブックカバーの製作(2)		・ボタン付け、スナップ付け			
12	ファスナーを付けた作品製作(1)		・家庭で必要なカバーの製作			
13	ファスナーを付けた作品製作(2)		・ファスナー付けの方法			
14	アップサイクルでマスク製作(1)		・目的と計画			
15	アップサイクルでマスク製作(2)		・製作と評価			
予習内容 復習内容	<p>予習：配布する資料に目を通す。</p> <p>復習：授業内容の整理と実生活への応用と実践について考える。</p>					
教科書	教科書は使用しない。資料を配布する。参考文献については授業の中で紹介する。					
成績評価	レポート課題：50%、作品提出：30%、平常評価（コメントシート）20%により総合的に評価する。毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席が無い場合、評価の対象外とする。					
実務経験						
その他 特記事項	作品製作において、材料を用意していただきます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生活経営	南 有哲	講義	2		1	4
授業概要 授業目的	本講義においては、生命再生産の行き詰まりとしての「少子化」について、市場経済の仕組みや賃金論、格差社会論を踏まえた上で、現状と背景について講じることにより、学生それぞれが生活者ならびに主権者としてこの問題を自律的に考察し、行動することができるようにする。					
到達目標	少子化をめぐって報道される実情や議論の内容を理解し、自ら考察し行動するための基礎的な知識を獲得すること。					
回	学習内容					
1	はじめに 一少子化とはどのような事象であるのか					
2	生命再生産活動とは何か 一個人レベル					
3	生命再生産活動とは何か 一民族レベル					
4	労働とはどのようなことか					
5	生命再生産活動と労働の関係					
6	市場経済の仕組みについて					
7	賃金労働とは何か					
8	現代日本の労働問題 一長時間労働					
9	現代日本の労働問題 一低賃金					
10	現代日本の労働問題 一不安定雇用					
11	労働運動の存在意義と課題					
12	労働における男女格差の課題					
13	進行する格差社会化と貧困の諸相					
14	日本の外国人労働者政策について					
15	まとめ 一少子化の背景にあるもの					
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け事前学習を行う。 復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。					
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する					
成績評価	毎回小レポート…50% 試験…50%					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域づくり実践	担当教員	演習	2		1, 3, 4	4
授業概要 授業目的	「PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）科目として、生活福祉・心理コースおよび居住環境コース所属の学生が協力して、地域問題の解決をめざす講義である。活性化や地域再生などの課題を抱えた津市内の地域を具体的な対象として、両コースの学生が混成した数人規模のグループを編成し、ワークショップによって地域の課題を調査・研究し、最終的に課題解決についての企画提案書を作成し発表することが、本講義の目的となる。					
到達目標	両コースの座学である各講義の体系的な繋がりや学びの必要性を知り、教養だけでなく実践的に地域の活性化や課題等に取り組めるようになる。					
回	学習内容					
1	課題説明：スケジュール、グループ決め					
2	対象地区の情報収集（位置づけ、社会的課題など）					
3	対象地区現地調査（地区の特徴等の把握）					
4	対象地区現地調査（対象者のヒヤリングなど）					
5	現地調査のまとめ（グループごと）					
6	取りまとめプレゼンテーション、パワポ等作成					
7	対象地区現地調査のまとめとテーマ提出（A2判3～4枚）					
8	現地調査のまとめとテーマ発表【現地調査とテーマ発表及び講評】					
9	課題を解決する方法の検討					
10	テーマ、コンセプトの検討（6W2H検討）					
11	提案イメージの検討、利用方法、空間イメージ					
12	テーマ、コンセプト、提案イメージのまとめ					
13	利用方法(生活福祉・心理コース)、空間イメージ(居住環境コース)等の作成					
14	取りまとめプレゼンテーション、パワポ作成等					
15	企画提案書提出（A2判5～6枚）、 企画提案書発表【企画提案書発表及び講評】					
予習内容 復習内容	予習：講義資料に目を通して内容を理解し、当日行われる講義内容の事前準備をしておくこと。 復習：各講義作成資料を復習するとともに、講義中に行った内容を振り返り学習しておくこと。					
教科書	随時、資料などを配布予定。					
成績評価	現地調査のまとめとテーマ発表(40%)、企画提案書発表(50%)、発言や作業など積極的に取り組み姿勢(10%)をあわせて評価。					
実務経験	社会福祉法人や障害者支援施設、医療機関、建築設計事務所、都市計画事務所などに勤務経験がある教員数名。 実務経験をもとに地域問題解決の具体的な事例や方法などについて講述する。					
その他 特記事項	夏休み中の集中講義（4日間）を予定。 生活福祉・心理コースは、地域福祉論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。 居住環境コース学生は、まちづくり企画・住生活設計Ⅱを履修することが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理基礎演習	北村 香織	講義	2		1, 4	2
授業概要 授業目的	この演習は、各自が関心のあるテーマを見つけること及び社会福祉学研究法の基礎を体得することを目的とする。具体的には各自で関心のあるテーマについて、レジュメなどを用いながらグループ報告・個人報告を行い、ゼミ内で討議するという形式を基本とする。そして、2年次で取り組む卒業論文に向けて、研究課題を明確にしていくことを目指す。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究内容について適切な方法で報告ができる。 2 自分の研究課題を明確にする。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（自己紹介・ゼミの進め方の確認・学生生活について 等）					
2	研究とは何か？研究対象とは？					
3	各自関心テーマの検討					
4	グループ報告1（レジュメの書き方に着目。聞きやすい資料とは？）					
5	グループ報告2（報告の仕方に着目。聞き取りやすい話し方とは？）					
6	グループ報告3（見やすい資料提示方法をいくつか考察）					
7	グループ報告4（文献や資料の使い方を考察）					
8	第1-4報告の反省とふりかえり及び以降の報告について討議					
9	グループ報告5（相手が話しやすい環境づくりに着目）					
10	グループ報告6（テーマ設定の仕方について考察）					
11	グループ報告7（討論方法に着目）					
12	グループ報告8（具体的問題と理論を結びつける方法について考える）					
13	第5-8報告の反省とふりかえり及び以降の報告について討議					
14	ゼミ内で選んだテーマについてディベート					
15	ゼミ内で選んだ文献購読と来年度にむけてのまとめ					
予習内容 復習内容	予習：報告者は報告準備。それ以外は、次の報告テーマについて調べておく。 復習：演習で話し合った内容と課題について再度調べまとめておく。					
教科書	使用しない。参考文献は適宜提示。					
成績評価	報告内容（50%）、ゼミ内での発言内容や参加態度（50%）を総合的に評価します。					
実務経験	障害者支援施設で勤務経験有。演習では社会福祉サービス利用者・家族・職員各々の視点から考えられるように助言を行います。					
その他 特記事項	毎時間ごとに当番を決めて自分の関心のある新聞記事や出来事について紹介する時間を設けます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理基礎演習	高橋 彩	講義	2		1, 4	2
授業概要 授業目的	この演習では、文献講読を通して、受講者各自が興味をもったテーマについて発表し、それをもとに討論する。心理学における重要な概念を理解するだけでなく、その知見が得られた具体的な研究方法やその歴史的背景についても知ることを目的とする。					
到達目標	①心理学の基礎的な知識を身につけ、心理学における重要な概念についての理解を深める。 ②情報収集の基本や、引用文献の書き方などを知り、分かりやすい資料を作成できる。 ③討論を通して自分の興味関心を広げ、探究する態度を身につける。					
回	学習内容					
1	ガイダンス 文献の紹介と発表担当の決定、発表資料の作成方法					
2	文献の読み方と講読、参考文献の探し方					
3	発達心理学の話題提供と討論（担当発表者 1, 2）					
4	教育心理学の話題提供と討論（担当発表者 3, 4）					
5	臨床心理学の話題提供と討論（担当発表者 5, 6）					
6	社会心理学の話題提供と討論（担当発表者 7, 8）					
7	パーソナリティ心理学の話題提供と討論（担当発表者 9, 10）					
8	認知心理学の話題提供と討論（担当発表者 11, 12）					
9	言語に関する話題提供と討論（担当発表者 1, 2）					
10	第 10 回 道徳性に関する話題提供と討論（担当発表者 3, 4）					
11	第 11 回 法と心理学に関する話題提供と討論（担当発表者 5, 6）					
12	第 12 回 精神疾患に関する話題提供と討論（担当発表者 7, 8）					
13	第 13 回 音楽と心理に関する話題提供と討論（担当発表者 9, 10）					
14	第 14 回 感情と思考に関する話題提供と討論（担当発表者 11, 12）					
15	第 15 回 討論によって明らかになった今後の課題					
予習内容 復習内容	予習：質疑応答にそなえて、専門用語の定義などを調べる。 復習：討論で明らかになった疑問点について調べる。					
教科書	教科書は使用しない。授業で使用する資料は、適宜配布する。					
成績評価	発表の内容、作成した資料（50%）と討論の参加（50%）で評価する。 試験は行わない。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理基礎演習	武田 誠一	講義	2		1, 4	2
授業概要 授業目的	社会福祉・社会保障についての、基本的な物の見方や考え方についての理解を深め、自身の問題関心を深化させていきます。また、「読む」「聞く」「話す」「考える」とおして、個人やグループでの学習・研究の基礎を身に付けることを目的とします。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 文献資料の収集方法を理解している。 2 発表資料の作成と報告方法を理解している。 3 文献資料を適切に用いてレポートが作成できる。 					
回	学習内容					
1	ゼミ活動に必要なこと					
2	資料の収集方法					
3	レジメの作成方法					
4	レポートの作成方法					
5	発表と議論の進め方					
6	社会福祉に関するブックレポート					
7	現代社会に関するブックレポート					
8	地域社会に関するブックレポート					
9	社会福祉の時事問題に関する報告					
10	社会福祉の時事問題に関する報告に対する議論					
11	現代社会の時事問題に関する報告					
12	現代社会の時事問題に関する報告に対する議論					
13	地域社会の時事問題に関する報告					
14	地域社会の時事問題に関する報告に対する議論					
15	卒業論文に向けてのオリエンテーション					
予習内容 復習内容	予習 新聞レポートの作成 復習 発表フィードバックの見直し					
教科書	未定					
成績評価	成果物 100 点					
実務経験						
その他 特記事項	「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。みんなといっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理基礎演習	田中 武士	講義	2		1, 4	2
授業概要 授業目的	本演習は、受講生同士が対話を重ね、様々な活動と学習を実践していく。取り組むテーマを各自が自由に設定しながら「学ぶ」ための基礎を実践的に習得する。「現場から学ぶ、当事者から学ぶ」をモットーに積極的に地域社会との接点を模索する。同時に各自が様々な文献や資料などを持ち寄り、広い視野で検討していく。受講生同士の交流の中で学習上のさまざまな困難の中にも楽しさや面白さ、知的刺激が得られるような経験を積み重ねていくことを目的とする。					
到達目標	①テーマ発見のために自主的に行動できる。 ②グループでの協同的な行動ができる。 ③社会人としての基礎的教養を身につけられる。					
回	学習内容					
1	基礎研究への誘いー「現場から学ぶ、当事者から学ぶ」					
2	基礎研究の方法と心得					
3	フィールドワークとは何か（調査されるという迷惑）					
4	日常生活に問題を発見する					
5	個人の問題から社会の問題へ					
6	問題意識の醸成を図る					
7	対話の大切さを学ぶ					
8	社会の出来事と自らの生活とのつながり					
9	自らの関心と研究への高まり					
10	グループワーク実践					
11	グループワークの活用方法					
12	研究報告書の作成準備					
13	研究報告書の作成					
14	研究報告書の修正					
15	研究報告書の仕上げ					
予習内容 復習内容	予習：日頃から新聞記事や文献、ニュースなどに関心を払い、自分自身の問題意識を明確にできるように努めること。 復習：授業で扱った資料等をよく見返し、自身の関心分野を更に深めるよう努めること。					
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。					
成績評価	自らのテーマについての発表（40%）と演習への積極的な姿勢（60%）を総合的に評価する。					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論 I	田中 武士	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	現代社会における生活問題は複雑化、多様化している。このような生活問題について、様々な文献や新聞記事、映像等から現代社会に生きる人々の姿を丁寧にとらえていく。生活上の様々な困難を強いられる人々への眼差しと想像力、共感の姿勢を重視する。憲法 25 条（生存権）にある「健康で文化的な生活」とは何かについて深く考える力と共に、それを論理的に自分の言葉で語ることでできる力の獲得を目的とする。					
到達目標	①現代における社会福祉をめぐる諸問題および社会的背景について関心がもてる。 ②社会保障、社会福祉の制度や政策を検討し、それらに対する自らの意見をもつことができる。 ③憲法 25 条の理念を元に人間らしい生活のあり方について、論理的に考えることができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）					
2	社会福祉とは何か（路上生活者に学ぶ）					
3	現代社会における市民の生活実態					
4	社会福祉と子どもの権利					
5	社会福祉と障害のある人の権利					
6	社会福祉と高齢者の権利					
7	精神保健福祉とは何か					
8	精神保健福祉における課題					
9	精神保健福祉における人権					
10	社会福祉の歴史（社会福祉の理念と思想）					
11	社会福祉の歴史（朝日訴訟、いのちのとりで裁判から学ぶ）					
12	ソーシャルワークとは何か					
13	ソーシャルワークの理論と方法					
14	社会福祉における倫理					
15	まとめ（これからの社会福祉を考える）					
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。					
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。					
成績評価	・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数数の 3 分の 1 を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論Ⅱ	三宅 浩	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>①福祉専門職として最低限知っておきたい社会福祉や社会保障に関する法律や諸制度について理解を深める。</p> <p>②我が国に社会福祉に関連する諸制度が生まれた時代背景や、それらが社会や人々の生活の変化とともにどのように変遷していったかを考察する。</p> <p>③介護や子育て支援、子どもの貧困問題など我が国が抱える社会問題や社会課題を考察し、その解決にはどのような制度が整備されているかを探り、活用できる力を習得する。</p>					
到達目標	<p>①私たちの暮らしの中で社会福祉制度や社会保障制度がどのような役割を果たしているかを理解し、福祉専門家として実践できる力を身につける。</p> <p>②私たちが暮らしやすい社会にしていくには何が必要で、どうすべきかを考える。</p>					
回	学習内容					
1	社会保障と社会福祉（言葉に意味や体系について理解する）					
2	福祉の法制度（社会福祉法と社会福祉六法）					
3	福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み（措置から契約へ）					
4	現代社会の変化と社会福祉の動向					
5	時代とともに変遷する社会福祉（児童福祉）					
6	時代とともに変遷する社会福祉（障害者福祉）					
7	時代とともに変遷する社会福祉（高齢者福祉）					
8	時代とともに変遷する社会福祉（母子及び父子並びに寡婦福祉）					
9	時代とともに変遷する社会福祉（公的扶助）					
10	社会保険制度					
11	社会福祉財政（給付と負担、税負担について）					
12	福祉サービスの組織と経営					
13	言葉の中のソーシャルワーク					
14	過去から現代までのソーシャルワークの定義の変遷					
15	専門職としてのソーシャルワーカーの仕事を考える					
予習内容 復習内容	<p>予習：社会福祉に関連するニュース等に日ごろから関心を寄せておくこと。</p> <p>復習：資料の整理（疑問点等があれば積極的に発言してください）</p>					
教科書	当日の講義内容に応じた資料、レジュメ等を適宜配布します。					
成績評価	全授業回数の 2/3 以上の出席が必要。成績はレポート試験 60%、授業で出す課題の提出 30%、授業での発言等 10%として評価します。					
実務経験	障害者支援施設、高齢者介護施設の現場で 37 年。社会福祉法人、NPO 法人の設立にも携わってきました。					
その他 特記事項	社会福祉は「人の生活」に直結するものです。どうすれば少しでも暮らしやすい社会になるかを一緒に考えていきましょう。過去にアメリカやヨーロッパ、インドの福祉施設に滞在し、研修しました。今もインドの福祉関係者とは交流をしていますので、海外と日本との比較も講義の中で話しをしていければと考えています。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
老人福祉論	川口 恵生	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	超高齢社会である日本においては、住み慣れた地域での生活を支え続けるため、地域包括ケアシステムを土台とした高齢者福祉の充実がますます重視されている。その中で当講義では、「個人」「家族」「地域」「社会」の視点と、「現在」「過去」「未来」それぞれ時間軸を掛け合わせ、高齢者やその家族らの生活を支える福祉の成り立ちと、各種課題の核心について学びを深めていくことを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特性を理解することができる。 ・高齢者を支える地域のシステム、ネットワーク、社会資源の成り立ちを理解することができる。 ・高齢者福祉における各種問題を「個人」「家族」「地域」「社会」のレベルで考えることができる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（講義のねらい、講師紹介、講義スケジュール、評価の方法）					
2	高齢者の特徴とその理解					
3	高齢者福祉とその歴史の変遷					
4	地域における高齢者福祉計画・介護保険事業計画					
5	高齢者関係施策と介護保険制度					
6	高齢者の住まいと居住福祉					
7	年金制度と高齢者の所得保障					
8	高齢者と「健康格差」					
9	高齢者虐待について					
10	認知症と高齢者					
11	成年後見制度と日常生活自立支援事業					
12	高齢者と家族に対する支援の実際					
13	高齢期における「自立」を考える					
14	人生の最終段階における医療・ケアを考える					
15	高齢者福祉の課題と未来					
予習内容 復習内容	予習：次回講義タイトルに関わるニュースを一つだけ見て臨む。 復習：前回講義資料を振り返る。					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加姿勢・毎授業終了後の小レポート（80%）、課題レポート（20%） ・討論と発表を重視し総合的に評価する。 					
実務経験	講師は病院で勤務する現役の医療ソーシャルワーカーであるため、それぞれの回のテーマにまつわる現場での実践について、症例等を通じ学べるように講義する。					
その他 特記事項	皆さんの疑問点や関心に沿い、教員と受講者相互がアウトプットをしながら各テーマについて考え、学びあう講義スタイルにしたいと考えています。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
障害者福祉論	北村 香織	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	この講義では、「障害」を社会との関係でとらえていくことによって、「障害」とは何か、「障害者」とは誰のことを指すのか、自分の生活と「障害者福祉」がどのような関わりを持つのかを学ぶ。講義中は視聴覚教材も使用し、障害のある人の生活に目を向けると同時に、障害に関する医学的及び制度的な知識を身につけることを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉に関する基本的な制度について理解する。 2 障害に関する正確な知識を身につけ、生活課題との関連を考察できるようになる。 3 社会における「障害」の位置付け、自身の「障害」の捉え方について考察できるようになる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション：障害観の変遷から					
2	「障害」という概念について					
3	障害のある人の生活（身体障害とは？）					
4	障害のある人の生活（知的障害とは？）					
5	障害のある人の生活（精神障害とは？）					
6	障害があるということ～精神障害者政策の歴史から学ぶ					
7	障害のある人の生活（発達障害とは？）					
8	障害のある人の生活（障害のある子どもと家族）					
9	優生思想と障害学					
10	障害者虐待とは～障害者虐待防止法を中心に					
11	障害者総合支援法～障害のある人の生活を支えるサービス体系					
12	障害に対する社会意識～偏見・スティグマ・差別					
13	障害者権利条約と障害者差別解消法					
14	障害者福祉を支える理念・思想（ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン）					
15	障害者福祉を支える理念・思想（エンパワメント、糸賀一雄の思想）					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。					
教科書	小澤温編（2020）『よくわかる障害者福祉 第7版』ミネルヴァ書房。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	試験 80%、小テスト 10%、授業ごとに提出するレポート（課題の場合もあり） 10%。 6回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	障害者支援施設での勤務経験有。生活支援に関する課題等について重点的に取り上げます					
その他 特記事項	講義は教員と受講者双方で創るものです。積極的な参加と講義環境保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
児童福祉論	笠松 将成	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	1 児童福祉の理念と概要を理解し、児童福祉にかかわる法律や福祉援助サービスについても、現状と課題の検討を含めながら理解する。 2 子どもの成長・発達と生活実態について理解すると共に、子どもを取り巻く問題や課題（虐待、貧困、非行、不登校、DV等）について考える。 3 子どもや家族へのアプローチとして、多角的な観点からの支援を考える。 児童福祉施設職員としての実務経験を活かして、実践現場の状況や支援方法を事例から学ぶ。					
到達目標	①児童福祉の現状及び制度について理解する。 ②虐待が子どもの成長・発達に及ぼす影響について理解する。 ③具体的な事例から課題を見出し、支援や課題解決の方法を理解する。					
回	学習内容					
1	児童福祉論の学びについてのガイダンス：授業の概要・目的・進め方・評価について説明する。					
2	児童福祉の歴史：児童福祉の理念と制度の発展					
3	児童福祉施設と専門職					
4	児童相談所の現状と課題					
5	子どもの発達①：発達と各発達段階の特徴					
6	子どもの発達②：アタッチメントと愛着について					
7	子どもの発達③：虐待が及ぼす影響					
8	子どもの発達④：発達障害とトラウマ					
9	現代社会①：児童虐待の実態、予防・発見から介入・支援					
10	現代社会②：ひとり親家族や貧困家族の福祉					
11	現代社会③：貧困と不登校					
12	非行問題①：非行少年の背景と支援					
13	非行問題②：非行問題のある子どもと家庭支援					
14	事例検討①：児童福祉における援助活動の実際と専門職のあり方					
15	課題レポート作成					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献や資料に目を通す等。 復習：配布資料の整理と考察メモの確認。					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に適宜紹介する。					
成績評価	毎回行う小テストと授業中に提出するレポート（50％）。課題レポート（50％）の総合評価。本学の規定を超える欠席をした場合には評価の対象外とする。					
実務経験	国立の児童自立支援施設での勤務15年、現在三重県の児童自立支援施設での勤務をもとに、現場経験を活かした内容の講義をします。					
その他 特記事項	子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。また、児童虐待やDV、発達障害など様々な形で耳にすることがあると思います。基本的な知識や理解を深め、私たちにできることを実際のケースに触れながら講義だけでなく、ディスカッション等を踏まえ講義を進めていきます。一人一人が子どもたちを取り巻く状況について考えるきっかけになればと思います。積極的な授業参加をお願いします。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会保障論 I	田中 武士	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	私たちの生活を支えている社会保障制度の存在意義を理解するために、現代社会における人々の生活実態を丁寧に把握するよう努め、体系的に社会保障制度を学ぶことを目的とする。また、本科目では主に医療保険制度と介護保険制度を中心に学び、医療や介護を要する人々の生活保障のために必要な知見を身につけることを目的とする。					
到達目標	①現代社会における人々の生活実態を丁寧に把握しようとする姿勢を身につけることができる。 ②社会保障を体系的に理解することができる。 ③社会保障に関わる政策を検討し、それに対する自らの意見を持つことができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）					
2	社会保障とは何か（個人の尊重と生存権保障）					
3	社会保障の存立根拠					
4	社会保障の方法					
5	社会保障の保障内容					
6	社会保障の機能					
7	医療保険（医療をめぐる生活実態）					
8	医療保険（医療を保障する仕組み）					
9	医療保険（医療保障とは何か）					
10	医療保険（今後の課題）					
11	介護保険（介護をめぐる生活実態）					
12	介護保険（介護を保障する仕組み）					
13	介護保険（介護保障とは何か）					
14	介護保険（今後の課題）					
15	まとめ（権利としての社会保障）					
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。					
教科書	椋野美智子、田中耕太郎著（2024年）『はじめての社会保障－福祉を学ぶ人へ（第21版）』有斐閣 ※ 社会保障論Ⅱ（後期科目）でも引き続き使用する。					
成績評価	・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数数の3分の1を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会保障論Ⅱ	田中 武士	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>本科目は「社会保障論Ⅰ」を学んだ者を対象として、社会保障制度の存在意義を更に深く理解するために、現代社会における人々の生活実態を丁寧に把握するよう努め、体系的に社会保障制度を学ぶことを目的とする。また、本科目では主に年金や雇用、労災保険、公的扶助の分野を学び、医療や介護を含めた人々の総合的な生活保障のために必要な知見を幅広く身につけることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①現代社会における人々の生活実態を深く丁寧に把握しようとする姿勢を身につけることができる。 ②社会保障を体系的に理解することができる。 ③社会保障に関わる政策を検討し、それに対する自らの意見を持つことができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）					
2	広がる貧困と生活不安					
3	社会保障とは何か					
4	年金（所得を保障する仕組み）					
5	年金（老齢年金、遺族年金）					
6	年金（障害年金）					
7	労災保険と雇用保険					
8	労災・失業の現状					
9	労災保険の仕組み					
10	雇用保険の仕組み					
11	公的扶助（生活保護制度の仕組み）					
12	公的扶助（生存権保障「健康で文化的な生活」とは何か）					
13	公的扶助（生活保護制度をめぐる課題）					
14	社会保障をめぐる政策的動向					
15	まとめ（生活保障のための総合的な視点）					
予習内容 復習内容	<p>予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。</p>					
教科書	<p>椋野美智子、田中耕太郎著（2024年）『はじめての社会保障－福祉を学ぶ人へ（第21版）』有斐閣 ※ 社会保障論Ⅰ（前期科目）と同じ。</p>					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数の3分の1を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。 					
実務経験	<p>医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。</p>					
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は「社会保障論Ⅰ」を履修し単位取得した者のみを対象とする。 ・授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
公的扶助論	木村 夏美	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	主に生活保護について学びながら、公的扶助のあり方について考えます。 貧困問題を通じて、社会正義とは何かを考えること、法的な考え方についても学ぶことを目標にします。					
到達目標	①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解することができる。 ②貧困の歴史と貧困観について理解することができる。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解することができる。 ④貧困状態にある人に対する適切な支援のあり方を理解することができる。					
回	学習内容					
1	生活保護とは何か					
2	低所得者を取り巻く社会情勢					
3	生活保護制度の仕組み					
4	生活保護基準の考え方					
5	生活保護と住宅・医療・介護					
6	生活保護の動向					
7	生活困窮者自立支援法と就労支援					
8	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体					
9	生活保護と財政					
10	他の低所得者対策					
11	公的扶助の歴史					
12	生活保護を巡る裁判例①最高裁判決					
13	生活保護を巡る裁判例②下級審判決					
14	生活保護引き下げ訴訟					
15	まとめと確認					
予習内容 復習内容	予習：指定テキストに目を通す。 復習：授業内容を確認する。					
教科書	『よくわかる公的扶助論』増田雅暢・脇野幸太郎編、法律文化社					
成績評価	出席時に提出するレポート50%、期末レポート50%の配分。 毎回、講義終了後に、簡単な小レポートを徴取する。					
実務経験	2008年弁護士登録。生活保護申請援助、生活保護に関する審査請求や訴訟を複数件取り扱っています。					
その他 特記事項	貧困状態にある人の生活実態、支援のあり方について、私の実体験を踏まえ、具体的に考えていきたいと思っています。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域福祉論 I	水谷 久	講義	2	社会福祉士	1, 2, 3	1, 2, 4
授業概要 授業目的	住民主体の地域福祉の創造と地域共生社会に向けた包括的支援について講義を進めます。 また、この科目では、地域福祉の理念や歴史、地域における高齢者・児童を含めた子育て世代・障がい者・困窮者等の生活と暮らしに焦点をあて、誰もが安心して暮らせる地域づくりについて考えながら、地方自治体・社会福祉法人・社会福祉協議会、住民組織・NPO・ボランティアなどの機関・団体の役割と機能、その現状や課題について理解を深めることを目的に授業を進めます					
到達目標	授業の到達目標は、地域福祉が抱える課題や地域に求められる役割を把握し、誰もが自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができる地域について考える視点を養うことを到達目標とします。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション (地域福祉の基本的な考え方について)					
2	地域福祉計画と地域福祉活動計画					
3	地域社会の変化					
4	障がい者の地域生活の課題					
5	地域交流と地域福祉の推進					
6	地域健康管理対策の充実					
7	地域福祉活動計画作成について (地域福祉活動計画のテーマ・基本目標・具体的内容)					
8	地域の福祉課題を考える (自分が住んでいる地域課題の抽出：演習 I)					
9	地域課題を解決するために (地域課題の検討と解決案について：演習 II)					
10	地域福祉活動計画 (子育て支援について)					
11	地域福祉活動計画 (高齢者・障害者支援について)					
12	地域福祉活動計画 (災害時支援体制・住民主体による地域福祉の推進について)					
13	共生社会について					
14	地域社会に求められるもの					
15	障害者・高齢者・子育て世代を地域で支える課題について					
予習内容 復習内容	予習：講義中に使用する配布資料（プリント）に目を通す等。 復習：配布資料への書き込みとノートでの整理。					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	筆記試験又はレポート課題を 70%、出席時に積極的に発言する姿勢などを 30%とし、総合的に評価します。 6 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	在宅介護支援センター及び障がい者相談支援センターなどの勤務経験有。現在は、社会福祉法人の管理・運営及び障がい者・高齢者等の人権擁護や地域生活について相談支援活動を行っています。					
その他 特記事項	・自らの居住する地域に関心を持って受講していただくことを願います。 ・講義の状況等により、内容を追加及び変更することもあります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域福祉論Ⅱ	水谷 久	講義	2	社会福祉士	1, 2, 3	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学び、住民の主体形成の概念を理解しながら、地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。</p> <p>また、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解し、包括的支援体制の考え方や、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。</p> <p>地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制による社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について考え、その現状や課題について理解を深めることを目標とします。</p>					
到達目標	<p>地域福祉が抱える課題や地域に求められる役割を把握し、誰もが自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができる地域について考える視点を養うことを到達目標とします。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション					
2	地域社会の変化と地域生活課題					
3	地域福祉と社会的孤立					
4	民生委員・児童委員の役割					
5	自治会活動について					
6	地域包括ケアシステム					
7	生活困窮者自立支援					
8	包括的支援体制とは（市町村の包括的支援体制）					
9	共生社会を考えたとき地域社会に求められるもの					
10	地域福祉ガバナンス					
11	多機関協働を促進する仕組み					
12	地域福祉の概念と理論					
13	地域を基盤としたソーシャルワークの方法					
14	非常時や災害時における法制度					
15	地域福祉計画の定義・目的・機能について					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に使用する配布資料（プリント）に目を通す等。</p> <p>復習：配布資料への書き込みとノートの整理。</p>					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	<p>筆記試験又はレポート課題を 70%、出席時に積極的に発言する姿勢などを 30%とし、総合的に評価します。</p> <p>6 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。</p>					
実務経験	在宅介護支援センター及び障がい者相談支援センターなどの勤務経験有。現在は、社会福祉法人の管理・運営及び障がい者・高齢者等の人権擁護や地域生活について相談支援活動を行っています。					
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの居住する地域に関心を持って受講してもらいたいことを願います。 ・講義の状況等により、内容を追加及び変更することもあります。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術総論	武田 誠一	講義	4	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	ソーシャルワークと呼ばれる専門的援助実践・専門職の実情や役割および機能、多様な実践の共通課題、その歴史的経過や諸理論を学ぶことを通じて、社会福祉実践におけるソーシャルワークを理解するとともに、専門的援助者としての視点の涵養をはかることを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域を基盤としたソーシャルワークの必要性について述べることができる。 2 ソーシャルワークの専門性を「価値」という側面から述べるができる。 3 各分野のソーシャルワークの概要を説明することができる。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明、学びの内容)	16	ソーシャルワークの援助方法 (ケース発見)			
2	事例を通して専門的支援の視点を考える (事例の確認)	17	ソーシャルワークの援助方法 (エンゲージメント)			
3	事例を通して専門的支援の視点を考える (事例の分析・個人作業)	18	ソーシャルワークの援助方法 (アセスメント)			
4	事例を通して専門的支援の視点を考える (事例の検討・グループ作業)	19	ソーシャルワークの援助方法 (プランニング)			
5	ソーシャルワーカーって何をする人か (人と環境について)	20	ソーシャルワークの援助方法 (インターベンション)			
6	ソーシャルワーカーって何をする人か (社会資源について)	21	ソーシャルワークの援助方法 (モニタリング)			
7	ライフサイクルとくらしの課題 (生活問題の発生)	22	ソーシャルワークの援助方法 (エバリュエーション)			
8	ライフサイクルとくらしの課題 (子どものくらし)	23	ソーシャルワークの援助方法 (ターミネーション)			
9	ライフサイクルとくらしの課題 (健康なくらし)	24	ソーシャルワークの援助方法 (アフターケア)			
10	ライフサイクルとくらしの課題 (障がいのある人のくらし)	25	ソーシャルワークの価値と倫理			
11	ライフサイクルとくらしの課題 (子どものくらし)	26	倫理的ジレンマ (事例の確認)			
12	ライフサイクルとくらしの課題 (地域でのくらし)	27	倫理的ジレンマ (事例の検討・グループ作業)			
13	ライフサイクルとくらしの課題 (犯罪被害者のくらし)	28	ケースワークの原則 (信頼関係構築を考える)			
14	ライフサイクルとくらしの課題 (罪を犯した人のくらし)	29	ケースワークの原則 (事例の検討)			
15	ライフサイクルとくらしの課題 (高齢者のくらし)	30	ソーシャルワークの今後を展望する			
予習内容 復習内容	予習 指定文献の読了 復習 コーネルメソッドノートの整理					
教科書	鈴木孝典、鈴木裕介 編著 『図解でわかるソーシャルワーク』 中央法規出版、2023年。					
成績評価	1. ミニットペーパー：50% 2. レポート：30% 3. ミニテスト：20%					
実務経験	在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、ソーシャルワークの価値と倫理について教授していきます。					
その他 特記事項	ソーシャルワークに関する基礎的な科目です。基本的な知識や態度についてしっかりと身につけてください。 なお、授業ではグループワーク、個人発表など能動的な学習を行います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉運営管理論	三宅 浩	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>社会福祉法第 5 条に社会福祉を目的とする事業を営む者への「福祉サービス提供の原則」が明記されています。つまり、福祉サービスを営む組織の経営姿勢と提供される福祉サービスの質とが密接な関係があると考えます。</p> <p>組織はどのように作られ、どう事業が行われていくのかを考察しながら、福祉サービスを提供する側と利用する側両者の現状と課題を導き出し、健全な事業経営と福祉サービスの質について考えることを目的とします。</p>					
到達目標	<p>①福祉事業を運営（経営）する側の視点から「福祉サービスの質」とは何かを考え、理解する。</p> <p>②福祉事業に携わる組織の形態とその特色を知ること、将来福祉分野で働く場合の指針にできる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（講義の進め方の説明）と集団と組織について考える					
2	介護保険制度施行以降、社会福祉事業に参入している法人の種別					
3	社会福祉法人制度の概要と民間事業者が社会福祉事業に果たしている役割					
4	公的責任と社会福祉事業を営む民間団体との関係					
5	事業経営に重要な役割を果たす経営理念を考える					
6	社会福祉事業を営む法人の形態によって福祉サービスの内容に違いはあるのか					
7	社会福祉施設の体系とその役割					
8	社会福祉施設の事業計画作りとその実行					
9	社会福祉施設の人事と労務管理					
10	社会福祉施設の財務管理					
11	組織のリスクマネジメント					
12	コンプライアンスとガバナンス					
13	チームとしての職員集団（チームとして取り組む仕事に個人の専門性をどう活かすか）					
14	サービスマネジメントと質の評価					
15	自分が組織の中で働くことをイメージしながらまとめを行う					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義の最後に次週の学習内容に関する課題を出します。</p> <p>復習：資料の整理（疑問点等があれば積極的に発言してください）</p>					
教科書	当日の講義内容に応じた資料、レジュメ等を適宜配布します。					
成績評価	全授業回数の 2/3 以上の出席が必要。成績はレポート試験 60%、授業で出す課題の提出 30%、授業での発言等 10%として評価します。					
実務経験	障害者支援施設及び高齢者介護施設の現場で 36 年。社会福祉法人や NPO 法人の設立にも携わってきました。法人の理事長の立場から働く側と経営する側の両方から組織について話をします。					
その他 特記事項	仕事をしていく上で福祉事業に限らず顧客（サービス利用者）側と提供側の両方から事業運営を考える必要があります。組織の運営管理を学ぶことで、福祉サービス利用者にとって利用しやすい事業所、働く者にとって力を発揮しやすい事業所とはどうあるべきかを一緒に考えていきましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医療福祉論	武田 誠一	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	保健医療サービス、医療保険制度（診療報酬制度に関する内容を含む）を体系的に学び、保健・医療分野でのソーシャルワーカーの役割を理解する。 また、福祉サービス及びこれに関連する専門職の役割、多職種協働について理解することを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療・福祉分野でのソーシャルワーカーの役割について述べることができる。 2 「医療ソーシャルワーカー業務指針」に沿って、業務の具体的展開を述べることができる。 3 進行する医療保険制度改革における課題を患者の立場及び医療ソーシャルワーカーの立場から述べるができる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション 医療福祉とは何か					
2	保健医療実践現場でのソーシャルワーク					
3	医療ソーシャルワークの具体的展開 「医療ソーシャルワーカー業務指針」					
4	医療ソーシャルワークの対象者理解					
5	医療ソーシャルワークに必要な医療保険の制度理解					
6	医療ソーシャルワークに必要な医療保険制度の活用					
7	医療ソーシャルワークに必要な診療報酬制度の制度理解					
8	医療ソーシャルワークに必要な診療報酬制度の課題把握					
9	保健医療サービスの概要と機能分化					
10	在宅医療と地域医療連携					
11	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際					
12	医療ソーシャルワークの実践（事例概要）					
13	医療ソーシャルワークの実践（具体的支援）					
14	医療ソーシャルワークの実践（カンファレンス）					
15	保健医療現場におけるソーシャルワークを展望する					
予習内容 復習内容	予習 新聞レポートの作成 復習 コーネルメソッドノートの整理					
教科書	中島裕・坂本雅俊 編著『保健医療と福祉』、ミネルヴァ書房、2022年。					
成績評価	ミニットペーパー（30点）、課題・提出物（30点）、新聞レポート（40点）の配点で評価します。					
実務経験	在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、医療保健分野のソーシャルワークについて教授していきます。					
その他 特記事項	日ごろから医療保険制度・社会保障制度に関する報道などに関心を持っていると講義を理解する手助けになると思います。 社会保障論Ⅰ・Ⅱを履修後に受講してください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医学知識	福田 洋子	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	ヒトの身体の構造・機能・病気の起こる機序について学習し、普通よく見られる疾患についての概要を理解できるようにする。					
到達目標	学習を通し自分自身の身体について理解を深め、健康維持について考察できるようになることを目標とする。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション ライフステージにおける心身の特徴、人の成長・発達と老化					
2	ライフステージ別の健康問題、健康及び疾病の捉え方、生活習慣病と予防					
3	人体の構造の理解：細胞と組織・器官、器官系、筋骨格系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系人体の構造の概要、人体各部位の名称					
4	骨格系、筋系、骨・関節の疾患、					
5	循環器系と心疾患					
6	消化器系と消化器・肝胆膵疾患、口腔疾患					
7	呼吸器系と呼吸器疾患					
8	泌尿器系と腎・泌尿器疾患					
9	生殖器系と婦人科・産科疾患					
10	内分泌系と内分泌・代謝疾患					
11	脳・脊髄・神経系と疾病					
12	感覚器系、皮膚と疾患					
13	血液・免疫・アレルギー疾患					
14	感染予防					
15	精神疾患、精神障害、発達障害					
予習内容 復習内容	配布されたプリント等、課題で復習をしておいてください。 教科書の授業内容に該当する部分に目を通しておいてください。					
教科書	最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 1 中央法規出版 「医学概論」					
成績評価	試験 60%、課題 30%、授業の取り組み 10%					
実務経験	大学病院等で看護師として 13 年、社会福祉士として障害者・高齢者施設等で勤めた後、社会福祉士、介護福祉士養成教育に携わっております。実務経験を活かし、授業では健康に役立つ知識が身につくようにも説明します。					
その他 特記事項	医学の知識は誰にでも必要です。自分の身体のことや病気のことを良く知り、健康な生活を送れるよう知識を深めましょう。社会福祉士の国家試験に必要な医学知識も深めましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会学	松田 いりあ	講義	2	社会福祉士	1, 2	2
授業概要 授業目的	<p>21 世紀の現代、19 世紀から 20 世紀にかけて社会を支えてきた条件が再編されて久しい。この授業では、かつて自明と思われてきたこれらの条件を社会学的に再検討し、21 世紀の社会でともに生きる方法を探究する。</p> <p>授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し提出された課題をもとに、学生とともに考える機会を設ける。</p>					
到達目標	<p>この授業では、学生が現代社会の課題を知るだけでなく、自分自身で社会問題を把握し行動できるようになることが目標である。</p>					
回	学習内容					
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明					
2	近代社会と自己をめぐる社会学					
3	現代社会と居場所をめぐる社会学					
4	近代家族をめぐる社会学					
5	現代家族をめぐる社会学					
6	家族をめぐるデータ・統計					
7	仕事をめぐる社会学					
8	コミュニティをめぐる社会学					
9	国家をめぐる社会学					
10	グローバル化をめぐる社会学					
11	大衆消費社会をめぐる社会学					
12	現代消費社会をめぐる社会学					
13	マスメディアをめぐる社会学					
14	インターネットをめぐる社会学					
15	まとめ：この授業の総括					
予習内容 復習内容	<p>予習：前回の授業内容の確認。</p> <p>復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。</p>					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会調査論	安藤 直樹	講義	2	社会福祉士	1, 2	2
授業概要 授業目的	この授業では、社会調査において最もよく用いられている質問紙調査が実施されるプロセスについて紹介します。そして、具体的な事例を通して、質問紙調査を実施するのに必要な基本的な知識と方法を身につけていきます。 また、研究として行われる学術的な調査を取り上げることで、研究のプロセスについても紹介するとともに、社会科学的な考え方も養っていききたいと思います。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問紙調査が実施されるプロセスについて述べるができる。 ・ 質問紙調査を実施するのに必要な基本的な知識と方法を身につける。 ・ 授業で身につけた基本的な知識と方法を基にして、質問紙を作成することができる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション：シラバスの内容確認、社会調査とは（社会調査の種類）					
2	調査の企画①：問題（リサーチ・クエスチョン）の設定、文献レビューおよび情報収集の方法					
3	調査の企画②：仮説の設定および仮説検証プロセス					
4	調査の企画③：測定と尺度					
5	質問紙の作成①：質問文の作成（ワーディングの問題）					
6	質問紙の作成②：回答形式					
7	質問紙の作成③：質問紙の構成					
8	調査の実施①：対象者の選択（標本調査とサンプリング）					
9	調査の実施②：質問紙調査の実施方法					
10	調査の実施③：コーディングとエディティング					
11	データの処理（記述統計）①：1つの変数の特徴を記述する					
12	データの処理（記述統計）②：2つの変数の関係を記述する					
13	データの処理（推測統計）①：母集団の様子を推測する（統計的推定）					
14	データの処理（推測統計）②：母集団の様子を推測する（統計的仮説検定）					
15	調査結果の報告：報告書（論文）の書き方、発表の仕方					
予習内容 復習内容	予習：次回の授業で扱う内容について（図書館やインターネット等を利用して）事前に調べておく。 復習：授業で扱った内容について振り返るとともに、さらに詳しく調べてみる。					
教科書	テキストは使用せず、必要な資料を適宜配布します。					
成績評価	毎回の授業で行う課題の提出状況（30%）とレポート課題（70%）により成績を評価します。毎回の授業で行う課題およびレポート課題については授業の中で詳しく説明します。 授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ データを扱う際に電卓（ルートの計算ができるもの）を使用しますので、事前に準備しておいてください。電卓を使用する時期については授業の中で指示します。 ・ 質問はいつでも受け付けますので、わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
刑事司法と福祉	芦葉 甫	講義	2	社会福祉士	2	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	犯罪をした者が再び犯罪に手を染めることなく、社会の中で居場所を見つけて、その人らしい生活を維持できるようにするため、福祉の支援が必要不可欠である。その観点から、刑事司法に関する原理原則、実務における課題に触れつつ、いわゆる入口支援、出口支援の制度状況を学ぶ。						
到達目標	① 刑事司法の制度を把握しつつ、実務上の運用等を学ぶ。 ② 更生保護制度、医療観察制度、犯罪被害者支援などの基本的な仕組みを把握する。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション ― わが国における刑事司法における諸問題 ―						
2	刑事司法制度：一主に刑法編（原理原則等）						
3	刑事司法制度：一主に刑法編（刑罰論1）						
4	刑事司法制度：一主に刑法編（刑罰論2）						
5	刑事司法制度：一主に刑法編（刑罰論3）						
6	刑事司法制度：一主に刑事訴訟法編一						
7	刑事司法制度：一主に刑事訴訟法編一						
8	刑事司法制度：一主に刑事訴訟法編一						
9	少年司法制度：一少年事件における、成人における手続との違い一						
10	少年司法制度：一実務上における課題 付添人編一						
11	少年司法制度：一実務上における課題 施設編一						
12	更生保護制度：教科書 第4章 保護観察						
13	更生保護制度：主に更生緊急保護、仮釈放その他						
14	医療観察制度及び犯罪被害者支援等						
15	本講義のまとめ：社会福祉士として活躍する場などについて						
予習内容 復習内容	予習：サブテキストに目を通していただければ、十分です。 復習：聞きなれない法律用語、制度について自分自身でまとめる等の工夫をしてください。						
教科書	六法（刑法、刑事訴訟法、少年法などが掲載されているものが望ましい。） ※サブテキスト： 新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑮ 刑事司法と福祉						
成績評価	① 出席時における積極的な取り組み姿勢…………… 30% ② 定期試験 択一式及び記述式（レポート式）… 70%						
実務経験	2013年12月から、リベラ法律事務所（三重弁護士会）に所属。刑事事件は、少年事件も含めて、約100件近くを経験する。 授業の進捗状況等次第では、いわゆる入口支援、出口支援の現場への見学等も行いたい。						
その他 特記事項	刑事実務を踏まえて、できるだけ具体例を用いて講義をします。 サブテキストは、自学自習用、定期試験の勉強用として活用してください。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学と心理的支援論	高橋 彩	講義	2	社会福祉士	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	この授業では、様々な分野における当事者やその家族を支援する方法を解説し、部分的に個人でできるワークに取り組む。心理学の諸理論を学び、人の行動や心の働きについて理解した上で、それを心理的支援に活かすことができるようになることを目的とする。					
到達目標	①人の心の働きや仕組みについて心理学の理論や概念を用いて説明できる。 ②日常生活と心の健康との関係について説明できる。 ③心理的アセスメントや心理的支援の方法の知識を身につける。					
回	学習内容					
1	心理アセスメント（パーソナリティテスト、発達検査、知能検査）					
2	発達障害とその援助（自閉スペクトラム症、限局性学習症、ADHD）発達障害について DVD 視聴					
3	障害や病気の受容と支援（身体障害、精神障害、障害児を持つ親、HIV）					
4	攻撃行動とその対処（怒り、社会的情報処理理論）アンガーマネジメント「心理療法」DVD 視聴					
5	依存症とその支援（薬物、アルコール、ギャンブル、ゲーム）					
6	社会的引きこもりとその支援（家族への支援 CRAFT）					
7	LGBT の理解と支援					
8	学校におけるストレス（自殺予防プログラム GRIP）					
9	援助者のストレス（バーンアウト、感情労働）					
10	災害時の心理と支援（PTSD）					
11	高齢期の心理と援助（認知症）音楽療法「心理療法」DVD 視聴					
12	支援者のコミュニケーション（動機づけ面接）					
13	心理療法 1（マイクロカウンセリング技法）事例について「マイクロカウンセリング技法」DVD 視聴					
14	心理療法 2（行動療法、短期療法、ソリューションフォーカスト・アプローチ）					
15	事例をもとに支援を考える					
予習内容 復習内容	予習：授業で取り上げるテーマについての定義を調べる。 復習：本人または家族支援に使用できる情報源を探す。					
教科書	教科書は使用しない。授業で使用する資料は、適宜配布する。					
成績評価	定期試験 40%と授業内の課題レポート 60%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
権利擁護を支える法制度論	馬場 啓丞	講義	2	社会福祉士	1、2	1、2、4
授業概要 授業目的	<p>本講義は、令和元年度に改正された社会福祉士養成課程カリキュラムに則ったものです。本講義の内容・方法は、同カリキュラムと同じく以下のとおりです。</p> <p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p>					
到達目標	最終的には、以上の①から⑤についての理解を通じて、権利擁護を支える法制度に関する知見を身につける。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、法の基礎（法と規範、法の体系）					
2	法の基礎（法の基礎知識・解釈、裁判制度・判例を学ぶ意義）					
3	ソーシャルワークと法の関わり 憲法					
4	ソーシャルワークと法の関わり 民法（民法総則、契約、不法行為）					
5	ソーシャルワークと法の関わり 民法（親族、相続）					
6	ソーシャルワークと法の関わり 行政法					
7	権利擁護の意義と支える仕組み 権利擁護の意義・適切利用・苦情解決					
8	権利擁護の意義と支える仕組み 虐待防止法・差別禁止法					
9	意思決定支援、権利擁護活動と法的諸問題（インフォームド・コンセント）					
10	権利擁護活動と法的諸問題（秘密・プライバシー・個人情報、社会の安全）					
11	権利擁護に関わる組織等 家庭裁判所、法務局、市町村、社協、中核機関					
12	権利擁護に関わる組織等 専門職					
13	成年後見制度（成年後見の概要、後見、保佐）					
14	成年後見制度（補助、任意後見、成年後見制度の最近の動向）					
15	成年後見制度（成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業）					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくことが望ましい。</p> <p>復習：教科書の該当箇所及びレジュメを読み返す、練習問題に取り組む。</p>					
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 9 権利擁護を支える法制度」。六法は必携。レジュメを配布予定。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	出席時に提出する小レポート用紙に記載する質問・感想・意見と筆記試験を考慮して評価します。小レポート42点（第2回～第15回の14回の各回に各3点の合計42点）、試験58点の配分。6回以上欠席をした場合、本学の規程により、成績評価を受ける資格を失います。					
実務経験	三重弁護士会に所属する弁護士（2009年12月弁護士登録）。成年後見人等への就任経験複数あり。実務経験をもとに話をします。					
その他 特記事項	レポート用紙（小）で出欠を確認します。質問・意見があればレポート用紙（小）に記入してください。積極的な質問・意見をお待ちしております。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
介護概論	田中 武士	講義	2		1	1, 2, 4
授業概要 授業目的	介護を必要とする生活とはどのようなものなのか、個々異なる生活実態の理解と共に当事者を取りまく社会環境に目を向けることを重視する。高齢者や子ども、障がいのある人など、介護の意味を広く捉えケアの視点から人間の尊厳について考える。また、介護をめぐる制度や政策に関心を向け、自立の意義や介護保障のあり方について検討する。					
到達目標	①現代における介護をめぐる諸問題および社会的背景について理解できる。 ②介護関連の制度や政策を検討し、それに対する自らの意見を表明することができる。 ③介護保障のあり方について、ケアの視点から論理的に考えることができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）					
2	介護とは何か（生活から考える）					
3	介護とは何か（概念から考える）					
4	「介護」と「ケア」					
5	ケアをめぐる現状と課題（「ヤングケアラー」）					
6	ケアをめぐる現状と課題（「8050 問題」）					
7	介護体験（高齢者体験）					
8	介護体験（福祉用具など）					
9	ケアの現場から考える（人生の最終段階における医療・ケア）					
10	ケアの現場から考える（緩和ケア）					
11	ケアにおける倫理（臨床倫理とは何か）					
12	ケアにおける倫理（四分立法）					
13	「地域共生社会」とは何か					
14	ケアと社会保障					
15	まとめ（これからの介護保障を考える）					
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。					
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。					
成績評価	・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数数の3分の1を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉行財政論	宮川 一夫	講義	2		1	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本の総人口が減少する中、少子化が進むとともに、急速に高齢化が進んでいる。このような状況の中、保健福祉サービスのニーズの増大、社会福祉の担い手の減少、社会保障関係費の増嵩など著しく変化していく社会情勢を知り理解することは生活するうえで大変重要である。 以下の計画で進めていくが、講師自身が、三重県職員として実際の社会福祉行財政現場においてやってきたこと、経験してきたこと、どのように社会環境の変化に対応してきたかということ等を話すとともに、ゲストスピーカーにも来てもらう等分かりやすい講義にしたい。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> この社会福祉の基礎となる考え方や法制度、財政等の仕組みを知っておくことにより、今後の社会環境の変化に的確に順応していけるようになることを目標にする。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション ～ 世の中には色々な人がいる					
2	社会福祉の概念とその変遷 ～ 福祉と社会福祉、幸せと幸せな社会、個人の尊厳が保持される社会					
3	ユニバーサルデザインのまちづくり ～ すべての人が自由に暮らせるまちづくり					
4	社会福祉制度の展開 ～ 戦後復興・超高齢社会への対応					
5	財政の基礎講座 ～ 金持ちの市町・そうでない市町					
6	福祉財政の動向 ～ 福祉を進めるためのお金					
7	福祉行政の構造 ～ 福祉サービスは身近なところで提供する					
8	社会福祉基礎構造改革 ～ その人らしく暮らせるようにするための改革					
9	福祉援助の実施・提供機関 ～ 児童相談所はこんなところ					
10	続・福祉の実施・提供機関 ～ 社会福祉協議会は民間					
11	福祉計画の目的と意義 ～ 目標を持って展開する					
12	高齢者福祉と老人福祉計画・介護保険事業計画 ～ 2025年					
13	障害福祉と障害者計画・障害福祉計画 ～ 私たち抜きで決めないで					
14	児童福祉と次世代育成支援行動計画 ～ 子どもは社会の宝					
15	母子父子寡婦福祉とDV防止法 ～ デートDV知ってますか					
予習内容 復習内容	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、講師作成のレジюмеにより進める。予習は学習内容から自分なりの考察を行うこと。 復習は授業で配付された資料から自分なりの考えを持つこと。 					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 参考文献等は、行政組織のホームページのほか、授業において別途紹介する。 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> レポート（40%）及び出席回数（60%）として評価する。 10回以上授業に出席しないと評価の対象外とする。 					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉発達史	北村 香織	講義	2		1	1, 2, 4
授業概要 授業目的	イギリスと日本における社会福祉（思想・政策・事業）の歴史的展開を考察する（特にイギリスを重点的に扱う）。少子高齢社会を迎え、政治においても社会福祉を含む社会保障制度の在り方は大きな争点となっている。当講義では時事問題も取り入れながら講義を進め、理解を深める。私たちの生活と密接に関わる制度であり取り組みでもある社会福祉の成り立ちや先人のあゆみから、自分たちが生きている社会の特徴及び自身の置かれている社会的状況を知る手がかりをつかむことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の思想と政策についての基本的知識を身につける。 2 貧困に対する社会の対応策について歴史的に捉えることができる。 3 現在の社会保障制度の基本的な考え方と歴史的役割を説明できる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーションー歴史を学ぶということ					
2	社会福祉の原型（前史）					
3	イギリス：社会変動と労働者立法の成立					
4	イギリス：救貧法の成立過程 ーエリザベス救貧法までの道のり					
5	イギリス：貧困の原因は何か ー救済の責任はどこに					
6	イギリス：救済基準の設定 ースピーナムランド制度					
7	イギリス：社会調査 ー貧困の把握と貧困をみる眼					
8	イギリス：新救貧法成立に影響を与えた思想・著作					
9	イギリス：社会の仕組みと生活 ー労働組合の成立（ウエップ夫妻の思想をてがかりに）					
10	イギリス：社会保障制度の成立 ーベバリッジ報告					
11	日本：人物から学ぶ慈善事業					
12	日本：人物から学ぶ社会事業					
13	日本：社会事業の成立から厚生事業へ					
14	日本：50年勸告と社会保障政策の構造					
15	日本：歴史から学ぶ現在の社会福祉政策の特徴					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	試験 80%、授業ごとに提出するレポート（課題の場合もあり） 20%。 6回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	障害者支援施設での勤務経験有。歴史上の出来事と現在の実践現場での事象との繋がりを示します。					
その他 特記事項	歴史といっても、あまり堅苦しく考えずに受講して下さい。現在につながる歴史を楽しんでもらいながら、現状を知るための手がかりをつかんでいただければと思います。また、講義は教員と受講者双方で創るものです。積極的な授業参加と授業環境保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学概論	塚本 恵信	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	心理学は「心=行動の仕組み」の理解を目指す科学である。本科目では心理学の主要領域における基礎的な知見や理論を学修する。授業では主に、環境を把握する「知覚」「記憶」の働きや、行動を形成する「学習」の仕組み、「発達」「社会」における心理的な影響や、「臨床」における個人の理解と支援等について学ぶ。これらの学修を通して人間行動の心理学的な理解のあり方について考える。					
到達目標	①心理学の主要領域における基礎的な知見や理論を説明できる。 ②人間行動における心理学的な特徴や影響について説明できる。					
回	学習内容					
1	イントロダクションー心理学概説					
2	知覚の心理学(1)感覚					
3	知覚の心理学(2)知覚					
4	記憶の心理学(1)記憶の仕組み					
5	記憶の心理学(2)記憶の働き					
6	記憶の心理学(3)記憶の影響					
7	学習の心理学(1)レスポナント条件づけ					
8	学習の心理学(2)オペラント条件づけ					
9	学習の心理学(3)行動の理解と支援					
10	発達の心理学(1)発達の原理					
11	発達の心理学(2)発達の過程					
12	社会の心理学(1)対人認知					
13	社会の心理学(2)社会的影響					
14	臨床の心理学：個人の理解と支援					
15	総括					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所を読み、関連事項を予習しておく。 復習：授業内容を整理しながら復習する。身近な人間行動について考察する。					
教科書	榎村正美・野村俊明(編著)『医療系のための心理学』 講談社					
成績評価	試験(約70%)および課題(約30%)によって総合的に評価する(暗記の算出ではなく適切な理解と考察を求める)。出席規定を満たすことを要する。受講状況が劣悪な場合は減点評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	毎回出席を基本とする。教科書を持参し能動的に受講すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
発達心理学	高橋 彩	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	発達心理学は、人間の生涯にわたる心理的、行動的变化を研究対象としている。この講義では、人生のそれぞれの時期に特徴的な発達の変化と、その発達を規定する要因について解説する。生涯発達の視点から、人間の心理的発達について理解することを目的とする。					
到達目標	①生涯発達の視点から人間の発達を理解し、各発達段階の特徴を説明できる。 ②発達心理学の理論について理解し、自分の生活や人生に関連づけて考えることができる。					
回	学習内容					
1	発達の概念（発達心理学とは、発達心理学の研究法）					
2	新生児期（知覚、認知能力） 乳児の有能さについて DVD 視聴					
3	乳児期（運動能力、認知能力） 乳幼児の認知能力について DVD 視聴					
4	幼児期 1（共同注意、言語発達、心の理論） 乳幼児の言語発達について DVD 視聴					
5	幼児期 2（アタッチメント） ストレンジシチュエーションについて DVD 視聴					
6	幼児期 3（情動、道徳性） 感情の理解について DVD 視聴					
7	児童期 1（自己意識の発達）					
8	児童期 2（友人関係の発達）					
9	青年期 1（アイデンティティのための恋愛） 青年期について DVD 視聴					
10	青年期 2（親子関係）					
11	成人期 1（職業生活、家族生活）					
12	成人期 2（中年期）					
13	成人期 3（エイジング） サクセスフルエイジングについて DVD 視聴					
14	老年期（知的機能、認知症） 高齢者の認知機能について DVD 視聴					
15	発達と文化					
予習内容	予習：次回のテーマの章を読み、疑問点を整理する。					
復習内容	復習：教科書で取り上げた用語や概念について、他の書籍の解説を調べる。					
教科書	藤村宣之編著 2019 いちばんはじめに読む心理学の本 発達心理学 [第2版] ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08463-0					
成績評価	定期試験 70%と授業内の課題レポート 30%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会心理学	塚本 恵信	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	社会生活は他者との関係によって維持されており、相互に影響を受けながらコミュニケーションが展開され、さまざまな対人行動が形成されている。本科目では身近な対人関係におけるエピソードをもとに、社会心理学的なプロセスの特徴や影響について学び、対人関係/社会行動のあり方について考察する。授業では特に、対人認知・親密化・自己過程・集団過程について理解を深める。					
到達目標	①対人関係/社会行動における社会心理学的な特徴や影響について説明できる。 ②対人関係/社会行動に関する社会心理学の知見を説明できる。 ③対人関係/社会行動のあり方について社会心理学的に論考できる。					
回	学習内容					
1	イントロダクション—社会心理学概説					
2	対人認知(1)印象形成					
3	対人認知(2)対人認知の偏り					
4	対人認知(3)対人認知の歪み					
5	対人認知(4)対人魅力					
6	親密化(1)親密化の過程					
7	親密化(2)コミュニケーション・チャネル					
8	親密化(3)社会的スキル					
9	自己過程(1)自己概念と社会的な影響					
10	自己過程(2)自己評価と他者との関わり					
11	自己過程(3)自尊心の維持と動機づけ					
12	集団過程(1)社会的影響					
13	集団過程(2)集団の影響					
14	集団過程(3)社会的勢力・集団関係					
15	総括					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所を読み、関連事項を予習しておく。 復習：授業内容を整理しながら復習する。身近な対人関係/社会行動について考察する。					
教科書	谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司（編著）『〔新版〕エピソードでわかる社会心理学—恋愛・友人・家族関係から学ぶ』北樹出版					
成績評価	試験（約70%）および課題（約30%）によって総合的に評価する（暗記の算出ではなく適切な理解と考察を求める）。出席規定を満たすことを要する。受講状況が劣悪な場合は減点評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	毎回出席を基本とする。教科書を持参し能動的に受講すること。私語等の迷惑行為を厳禁する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行動の理論	高橋 彩	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	学習心理学の歴史と代表的な学習理論を取りあげて解説する。 日常生活の中で経験する事象を、学習理論に基づいて分析できることを目標とする。					
到達目標	①学習理論について基本的な仕組み及び働きが理解できる。 ②経験によって生じた多様な人間の行動を、学習理論に基づいて説明、解説できる。					
回	学習内容					
1	行動とは何か 心理学の歴史					
2	生得的行動 初期学習 馴化 自発的回復					
3	古典的条件づけ 1 パブロフの実験 無条件刺激と無条件反応					
4	古典的条件づけ 2 一般化と弁別 消去 恐怖条件づけ					
5	古典的条件づけ 3 系統的脱感作 味覚嫌悪学習					
6	古典的条件づけ 4 2次条件づけ 刺激競合 制止条件づけ					
7	オペラント条件づけ 1 試行錯誤学習 3項随伴性 強化と罰					
8	オペラント条件づけ 2 逐次接近法 反応形成/シェーピング					
9	オペラント条件づけ 3 動機づけ 逃避と回避 学習性無力感					
10	オペラント条件づけ 4 累積記録と強化スケジュール 弁別学習					
11	オペラント条件づけ 5 刺激一般化 見本合わせ 刺激等価性 生物学的制約					
12	さまざまな学習 1 運動学習 集中法と分散法 学習の転移 学習と記憶					
13	さまざまな学習 2 洞察学習 観察学習					
14	学習理論の応用 言語訓練 言語の発達 ヒトと動物のことば					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：テキストの該当する章を読み、疑問点を明らかにする 復習：授業で紹介した資料について調べる					
教科書	中島定彦 (2020) 学習と言語の心理学 昭和堂 ISBN 978-4-8122-1928-7 ¥2500+税					
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
認知の科学	南 学	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	人が話したり、考えたり、目的地までたどり着くなどの行動を行う際、さまざまな知的活動をおこなっています。こうした活動やプロセスを心理学では認知とよびます。この授業では、人の認知の過程やメカニズムについて低次なものから高次なものまで概説していきます。					
到達目標	人の認知活動に関する基礎的なメカニズムを理解し、意識化できるようになる。					
回	学習内容					
1	認知の科学とは					
2	記憶Ⅰ－記銘と想起－					
3	記憶Ⅱ－作業記憶と記憶の変容－					
4	記憶Ⅲ－メタ記憶と潜在記憶－					
5	記憶Ⅳ－知識－					
6	信じるⅠ－知覚の偏り－					
7	信じるⅡ－確証傾向－					
8	信じるⅢ－確率認知の誤認－					
9	信じるⅣ－基礎比率の無視－					
10	信じるⅤ－血液型性格判断－					
11	信じるⅥ－血液型性格判断とステレオタイプ－					
12	意思決定					
13	潜在的処理過程					
14	認知・知覚のエイジング					
15	記憶のエイジング					
予習内容 復習内容	授業に関連する文献を読んでおく。授業後は内容の理解に努める。					
教科書	授業内で紹介する。					
成績評価	①出席は毎回採ります。 ②出席時に提出するレポート 30 点、筆記試験 70 点。					
実務経験						
その他 特記事項	プリントとスクリーンを用いて授業をすすめていきます。授業に「参加」することがスタートです。頭を使わず丸暗記や丸写しをするのではなく、授業中に話した概念や考え方を自分なりの言葉できちんと説明できるように理解することが重要です。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
カウンセリング論	小笠原 昭彦	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	カウンセリングに必要な知識およびカウンセリングの基礎的な理論と技法について、心理学や臨床心理学に基づいて講義を行います。また、傾聴についての演習、カウンセリングについての事例 DVD の視聴を通して基礎的な技法が習得できるようにします。					
到達目標	①カウンセリングの意義、②カウンセリングに必要な発達の視点及び心理的健康と不適応、③カウンセリングに必要なアセスメント、④カウンセリングの理論と技法、⑤カウンセリングの重要な概念、⑥カウンセリングの基本的技法について理解する。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、自己理解に関する演習（社会的スキル）					
2	カウンセリングとは何か					
3	心理的不適応の諸問題（心理的健康、適応と不適応、フラストレーション、葛藤、防衛機制、ストレス）					
4	発達と心理的問題（発達課題、発達段階と心理的問題）					
5	カウンセリングにおけるアセスメント①：アセスメントの基本、面接					
6	カウンセリングにおけるアセスメント②：観察、非言語的コミュニケーション					
7	カウンセリングの理論と技法①：個人へのアプローチ					
8	カウンセリングの理論と技法②：家族、集団、地域へのアプローチ					
9	カウンセリングの重要な概念（ラポール、傾聴、受容、共感、理解的態度）					
10	カウンセリングの基本的技法（DVD 視聴による学習）					
11	傾聴についての演習（次回の授業でレポートを提出）					
12	カウンセリングの技法①：基本的な関わり技法、基本的傾聴技法					
13	カウンセリングの技法②：感情の反映、意味の反映、明確化、面接の構造化					
14	カウンセリングの技法③：積極的技法、DVD 再視聴による技法の確認					
15	社会におけるカウンセリングと心理の資格、授業のまとめ					
予習内容 復習内容	毎週、次回の授業のレジメを配布しますので、事前にそれに目を通して来てください。授業後は、レジメおよびそれに各自が書き込んだメモ、また、補足説明を確認してください。					
教科書	教科書は使用しません。印刷資料を配付し、パワーポイントを用いて授業を行います。参考文献はその都度紹介します。事例、具体例も適宜取り入れます。					
成績評価	定期試験（80%）と傾聴演習（第 11 回に予定）のレポート（20%）によって評価します。定期試験では、基本的な概念、知識および基礎的な理論の理解を問う内容を出題します。配付資料等は参照不可。					
実務経験						
その他 特記事項	毎回出席を取ります。ただし、出席状況は成績には反映しません。6 回以上の欠席は評価の対象外です。出席票には質問などを書いてください。それに対する回答などは、次の授業の冒頭で補足説明資料を配付して行います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
家族関係学	松田 いりあ	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	この授業では、「家族の定義」「家族の過去・現在・未来」「家族とライフコース」という三つのテーマに沿って、現代社会において家族であることの意味を事例とデータとともに解説する。 授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標	この授業では、学生が現在の家族関係をめぐる課題を知るだけでなく、家族をめぐる従来の議論の前提自体を再検討できるようになることが目標である。					
回	学習内容					
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明					
2	家族をめぐるさまざまな定義					
3	家族の定義、イメージと実像					
4	近代以前の家族：「家」と「イエ」					
5	日本の「近代家族」（20 世紀前半まで）					
6	日本の「近代家族」（20 世紀後半から）					
7	現代家族をめぐるデータと実情					
8	現代家族の課題					
9	子ども・若者と家族					
10	パートナーシップ、夫婦関係					
11	親子関係					
12	高齢期と家族					
13	親密圏と家族					
14	家族の可能性と課題					
15	まとめ：この授業の総括					
予習内容 復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：テキスト、授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
人間関係論	小笠原 昭彦	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	人間関係論では社会における人と人との関わりを学びます。この講義では、心理学を基礎として人間関係についての理解を深め、学習者自らの人間関係を振り返ることから出発して、実践の場面に応用できる基本事項を講義します。					
到達目標	①発達的にみた重要な人間関係やそのあり方、②社会の中における対人関係、③人間関係の基本とそこから生じる問題、④学習者自らの人間関係のあり方、⑤ネット社会・健康増進・ストレス・幸福感・問題となる人間関係など実践場面での関係性、⑥援助的コミュニケーションの基本について理解する。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、人間関係論・人間関係・対人関係の基本、自己理解演習（シャイネス尺度）					
2	発達の視点からみた人間関係①：乳幼児期の親子関係					
3	発達の視点からみた人間関係②：幼児期から成人期における友人関係					
4	発達の視点からみた人間関係③：職業からみた人間関係（進路選択自己効力感尺度）					
5	発達の視点からみた人間関係④：青年期の人間関係の悩みとその克服					
6	社会心理学的観点からみた人間関係①：自己と他者（自尊感情尺度）					
7	社会心理学的観点からみた人間関係②：親密な人間関係					
8	社会心理学的観点からみた人間関係③：競争と協同（社会的スキル尺度）					
9	社会心理学的観点からみた人間関係④：非言語行動					
10	現代社会のコミュニケーションと人間関係①：ネット社会の人間関係					
11	現代社会のコミュニケーションと人間関係②：健康増進のコミュニケーション（一般セルフエフィカシー尺度）					
12	現代社会のコミュニケーションと人間関係③：ストレスと人間関係（大学生用対人ストレスコーピング尺度）					
13	現代社会のコミュニケーションと人間関係④：幸福感に関わる人間関係（主観的幸福感尺度、心理的 well-being 尺度）					
14	現代社会のコミュニケーションと人間関係⑤：問題となる対人関係（日本版 Bass-Perry 攻撃性）					
15	人間関係と援助的コミュニケーション、授業のまとめ					
予習内容 復習内容	毎週、次回の授業のレジメを配布しますので、事前にそれに目を通して来てください。授業後は、レジメおよびそれに各自が書き込んだメモ、また補足説明を確認してください。					
教科書	教科書は使用しません。授業はパワーポイントによって進め、必要な資料を配付します。参考文献はその都度紹介します。また、適宜、テーマに関連する質問紙などを実施し、自己理解・他者理解を促します。					
成績評価	定期試験によって成績を評価します（100%）。基本的な概念、知識および基礎的な理論の理解を問う内容を出題します。配付資料等は参照不可。					
実務経験						
その他 特記事項	毎回出席を取ります。ただし、出席状況は成績には反映しません。6回以上の欠席は評価の対象外です。出席票には質問などを書いてください。それに対する回答などは、次の授業の冒頭で補足説明資料を配付して行います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
青年期の心理	高橋 彩	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	この講義では、青年期の身体的発達、感情や思考、人間関係の特徴について、1回につき1つのテーマを取り上げて解説し、そのテーマに関連する尺度の実施なども行う。 尺度の結果や自分自身の経験をもとに、青年期にあたる自分自身への理解を深めることを目的とする。					
到達目標	①人の発達における青年期特有の心理と行動の特徴を説明できる。 ②青年心理学の理論、概念について説明できる。 ③青年期の心理と行動が、どのように家族関係や社会と関連しているのか理解できる。					
回	学習内容					
1	青年期とは					
2	身体的発達と性（思春期発達、ジェンダー）					
3	青年期の認知（形式的操作、視点取得、道徳性）					
4	青年期の感情（自尊感情、自己嫌悪、劣等感、悩み）					
5	自己意識（私的／公的自己意識、文化と自己、自己意識と臨床）					
6	アイデンティティ（否定的アイデンティティ、アイデンティティ形成プロセス）					
7	親子関係（心理的離乳、自律性、自立、ひきこもり）					
8	友人関係（仲間関係、同調圧力、希薄化）					
9	恋愛関係（恋愛の意識と行動）					
10	教師－生徒関係（日本の特徴、不登校支援、教師への信頼感）					
11	時間的展望（研究動向、時間的態度、臨床実践）					
12	キャリア（キャリア発達、就職活動、若年無業者）					
13	社会参加（ボランティア、政治、地域社会への責任感）					
14	生き方と生きがい（生き方の変化、生きる意味、死生観）					
15	青年期から成人期へ					
予習内容 復習内容	予習：次回のテーマの章を読み、疑問点を整理する 復習：教科書に掲載されているデータについて、最新のものを調べてみる					
教科書	テキスト：高坂康雅（編）2018 ノードとしての青年期 ナカニシヤ出版 （ISBN978-4-7795-1274-2 2400+税）					
成績評価	定期試験 40%と授業内の課題レポート 60%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学基礎実験	高橋 彩	演習	2		1, 4	2
授業概要 授業目的	心理学の重要な研究方法の1つに、実験法がある。この演習では、心理学実験の代表的なテーマについて、実験の実施、データの整理、レポート作成を通して、心理学の知見を深め、測定法を理解することを目的とする。					
到達目標	①データ収集、データの分析、レポートの作成を通して、レポート作成に必要な態度とスキルを身につける。 ②心理学の実験を通して、科学としての心理学についての理解を深める。					
回	学習内容					
1	実験法とは何か レポートの書き方					
2	ミュラー・リヤーの錯視（データ収集、レポート作成）					
3	ストループ効果（データ収集、レポート作成）					
4	記憶の二重貯蔵モデル（刺激作成とデータ収集）					
5	記憶の二重貯蔵モデル（レポート作成）					
6	集団意思決定（集団討議、レポート作成）					
7	大きさの恒常性（データ収集、レポート作成）					
8	大きさの恒常性（レポート作成）					
9	パーソナルスペース（データ収集）					
10	パーソナルスペース（レポート作成）					
11	鏡像描写（データ収集）					
12	鏡像描写（レポート作成）					
13	視覚探索（データ収集）					
14	視覚探索（レポート作成）					
15	パーソナリティテストの実施（YGテスト、バウムテスト）					
予習内容 復習内容	予習：実験テーマに関連する用語を調べる。 復習：考察に使用する資料を探しておく。					
教科書	教科書は使用しない。課題ごとに資料を配布する。					
成績評価	授業内の課題の取り組み（50%）と、レポートの内容（50%）によって評価する。定期試験は行わない。					
実務経験						
その他 特記事項	演習はグループで行うものが多いため、遅刻・欠席は厳禁。レポート作成は授業時間内に行うが、欠席した場合は、課題レポートは宿題とする。すべての課題レポートを提出することが求められる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学研究法	高橋 彩	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	直接に目には見えないところの働きを明らかにするため、心理学には様々な研究方法がある。この講義では質問紙調査法、観察法、面接調査法の手法と、その分析方法を学ぶ。研究テーマに沿った研究計画を立てることが出来るようになることを目的とする。					
到達目標	①心理学を研究する具体的な方法について理解し、その手続きと特徴について説明できる。 ②心理学の実験を通して、科学としての心理学についての理解を深める。					
回	学習内容					
1	心理学の研究とは 実験群と統制群					
2	実験における要因と水準					
3	心理学における統計の考え方 実験計画の立て方					
4	質問紙調査 尺度項目の作成方法					
5	質問紙調査 調査用紙の作成と実施					
6	データ分析 (データ入力)					
7	データ分析 (項目の G-P 分析)					
8	質問紙法レポート作成					
9	面接調査法 面接調査の実施					
10	逐語録の作成 自由記述の分類					
11	結果の整理 面接法のレポート作成					
12	観察法 自由記述法による予備観察 操作的定義					
13	観察法 タイムサンプリング法の実施					
14	観察データの分析 観察法のレポート作成					
15	心理学におけるその他の研究法					
予習内容 復習内容	予習：授業内で指定された資料を読む 復習：レポート作成に必要な資料を探しておく					
教科書	教科書は使用しない。授業で使用する資料は、適宜配布する。					
成績評価	授業内の課題の取り組み (50%) と、レポートの内容 (50%) によって評価する。定期試験は行わない。					
実務経験						
その他 特記事項	講義ではあるが、グループワークも多いため、遅刻、欠席は厳禁です。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
保育学（実習を含む）	千坂 克馬	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	<p>授業概要：保育について養護と教育の視点から歴史と今日的課題をおさえつつレジюмеに基づき説明します。教育の視点については保育内容の5領域を中心に、養護の視点についてはどのような生活上の支援が必要なのかという点を中心に説明します。</p> <p>授業目的：保育内容が子どもの成長・発達にどのような意味を持っているのかを理解してもらうことを目的とします。特に子どもが保育活動の中で経験するさまざまなことが、人間として主体的に生きる力にどうつながるのかを考えるきっかけとしてもらいたいです。</p>					
到達目標	<p>①学生は保育の必要性について説明出来る。</p> <p>②学生は乳幼児期における子どもの成長・発達に必要な経験について説明出来る。</p> <p>③学生は乳幼児期の子ども達に必要な支援について説明できる。</p>					
回	学習内容					
1	保育の歴史：西欧を中心に					
2	保育の制度：世界と日本の制度					
3	子どもの発達と保育					
4	領域：健康					
5	領域：環境					
6	領域：人間関係					
7	領域：言葉					
8	領域：表現					
9	保育の方法：計画・実施・評価					
10	乳児保育					
11	しょうがいを持った子どもの保育					
12	気になる子どもたちへの支援					
13	保護者への支援					
14	生活施設における保育士の役割					
15	子どもを見る視点と保育の方法					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に示す文献に目を通す。</p> <p>復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。</p>					
教科書	テキストは使用せず、レジюмеを配布します。					
成績評価	<p>授業感想文70%、レポート30%</p> <p>6回以上欠席した場合、評価の対象となりません</p>					
実務経験	社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOに勤務。そこでの実務経験をもとに保育学について一緒に学んでゆきたいと思います。					
その他 特記事項	授業感想文に質問項目があり、それに答えてもらうことで授業を進めてゆきますのでよろしく願います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
子どもの健康	川瀬 浩子	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	子どもの健やかな成長発達を促し、子どもの「自ら健康で安全な生活をつくりだす力」を育むために必要とされる「支援する力」を身に着けることを目的とする。					
到達目標	講義中に提示した資料や自ら調べた資料に基づき、以下の2点を述べることができる。 1 子どもの健康、支援する視点 2 子どもの健康課題とその支援					
回	学習内容					
1	子どもの健康、支援する視点					
2	子どもの健康課題					
3	親になるための準備（出生前）					
4	健康的なライフスタイル					
5	緊急な課題：自殺防止					
6	緊急な課題：傷害防止					
7	緊急な課題：虐待防止					
8	感染症予防					
9	子どもの基本的生活習慣					
10	口腔保健					
11	子どもの体の健康：子どもの健康と運動					
12	子どもの体の健康：子どもの健康と食育					
13	子どものこころの健康					
14	性行動における健康課題					
15	対応が必要な主要な症状とその危険性					
予習内容 復習内容	予習内容は、講義時までには講義タイトルに関するニュース等を集め、社会での動向を知る。復習内容である学習課題は講義時に紹介する。					
教科書	テキストは使用しない。資料等は各回配布する。参考文献は講義時に紹介する。					
成績評価	試験（60％）、課題レポート「子どもの安全」「自殺防止」の2種類（各20％） 試験は学習課題および講義内容から出題する。（講義資料および学習課題は持ち込み可） 6回以上の欠席をした場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	【実務経験】7年間の助産師業務の後、看護師・助産師教育に12年間、その後看護学や健康に関わる講義の非常勤講師に19年間（現在も継続）。県立大学の地域交流センターに特任准教授として勤務（現在も継続）。 【講義内容との関連性】実務経験より得た知識や技術等を活かして、子どもの健康に関する基本的な知識だけでなく、実例を示し、社会状況に応じた講義を行う。					
その他 特記事項	毎回、授業後に提出される受講生の「学びの振り返り票」に記載されている内容を、授業改善に資する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際関係論	三瀬 貴弘	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	国際関係論は、世界情勢を政治経済だけでなく文化歴史から幅広く分析する学際的な学問である。講義では、隣接学問領域の研究成果を取り入れつつ、現実の国際問題について歴史を踏まえた分析や、現実をよりよく理解するツールとしての理論を勉強し、IPE（国際政治経済学）が冷戦後の国際秩序形成に与えた影響、ならびに日米関係の実態について考察する。詳細なレジュメを配布し講義する形式であるが、面白おかしい問題に取り組む「頭の体操」や、速記のスピードを競う「速記バトル」、居眠り防止のために突然クイズを出す「〇突クイズ」など、受講生が作業をする時間を設け、退屈させない授業を心がける。					
到達目標	①学生は、国際関係の歴史・現実・理論に関連した基礎知識を習得できる。 ②学生は、冷戦後の日米関係のあり方について、歴史的・理論的背景も含めて説明できる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（日本外交における「独自性」とは？ 対米従属論）					
2	大相撲と国際関係論（番付表、インバウンド消費、移民、ナショナリズム）					
3	ドラゴンクエストと国際関係論（中印関係、クルド人、テロリズム、ドローン）					
4	日本の領土問題（尖閣・竹島・北方領土、カイロ宣言、サンフランシスコ講和条約、ダレスの恫喝）					
5	国際関係論の名著の検討（ケナン、キッシンジャー、ハンチントン、ギルピン）					
6	主権国家（「大航海時代」、対外主権、対内主権、ウェストファリア条約、ユトレヒト条約）					
7	国際関係論の誕生（ツギジデスの罫、帝国主義、第一次世界大戦、自衛戦争、大東亜共栄圏）					
8	リアリズム（ホップズ、バランスオブパワー、国益、パワーポリティクス）					
9	リベラリズム（カント、安達峰一郎、貿易理論、民主主義平和論）					
10	リアリズムの隆盛（モーゲンソー、キューバ危機、世界終末時計、アリソン）					
11	リアリズムの衰退（オストロム、ゲーム論、シェリング、公共財）					
12	覇権安定論（ギルピン、覇権衰退論争、ソフトパワー、構造的権力）					
13	相互依存論（トランスナショナル関係論、レジーム論、コヘイン）					
14	IPE とは何か（バードン・シェアリング、湾岸戦争、日米政策協調）					
15	まとめ（第二次大戦後の日本外交、日米関係について）					
予習内容 復習内容	予習:新聞やテレビのニュース、ネット等を通じ、国際社会で今何が起きているかを知っておく。 復習:配布レジュメや資料を読み直すこと。					
教科書	なし					
成績評価	レポート 100%。授業への積極的参加などを加算要素とする（3%以内）。 3分の1を超えて(6回以上)欠席した場合は、レポートの提出資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。授業を難しく感じた場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、適宜調整します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法	鎌塚 有貴	講義	4		1	2
授業概要 授業目的	<p>本講義では、憲法における人権分野を扱う。 日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。 憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。</p>					
到達目標	<p>日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようになること。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス：授業評価、進行について	16	集会の自由：判例			
2	国家とは	17	結社の自由			
3	憲法の成立	18	報道の自由			
4	明治憲法と日本国憲法	19	出版の自由			
5	人権享有主体	20	人身の自由、適正手続			
6	幸福追求権	21	被疑者・被告人の権利			
7	人格権、自己決定権	22	再審・死刑制度			
8	私人間効力：学説	23	学問の自由・大学の自治			
9	私人間効力：判例	24	教育を受ける権利			
10	法の下での平等：学説	25	勤労の義務・権利			
11	法の下での平等：判例	26	職業選択の自由、営業の自由			
12	思想良心の自由	27	財産権			
13	信教の自由：学説	28	婚姻に関する権利：学説			
14	信教の自由：判例	29	婚姻に関する権利：判例			
15	集会の自由：学説	30	まとめ（課題講評など）			
予習内容 復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。					
成績評価	期末試験 100%。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会保障法	西川 昇吾	講義	2		1	2
授業概要 授業目的	<p>本講義では、社会保障（国民の間らしい生活を保障するため、国が一定の所得や医療、生活関係サービス等を提供する制度）にもとづく社会的給付、費用負担および制度運営・管理の法律関係を規律する法について、そのしくみや考え方を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等を用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。</p> <p>それにより、社会保障法の概容や法的論点を理解し、それらを基盤として、今後の社会保障制度の担い手となる受講生が、望ましい社会保障制度のあり方について、自分なりの見解をもちうる力を養うことが、本講義の目的である。</p>					
到達目標	<p>① 社会保障法の概容や法的論点を把握する。</p> <p>② 社会保障法における各制度のしくみや考え方について、他者へ段階的に説明することができる。</p> <p>③ 今後の理想とする社会保障制度を構想しうる契機となる。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス／社会保障法とは					
2	社会保障法の体系					
3	健康保険法					
4	国民健康保険法					
5	医療供給体制／高齢者医療					
6	国民年金法					
7	厚生年金保険法					
8	企業年金					
9	介護保険法					
10	労災保険法					
11	損害賠償との調整					
12	雇用保険法					
13	社会手当					
14	社会福祉サービス					
15	生活保護法					
予習内容 復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前の一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。					
教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。					
成績評価	平常点 15%（各回のリアクションペーパー提出 1 点×15）、試験 85%（五肢選択問題 15 点・空欄補充問題 30 点・一行問題 40 点）により評価する（ただし、3 分の 2 以上の出席を要する）。					
実務経験						
その他 特記事項	受講に際しては、レジュメ等に目を通して、社会の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理演習	北村 香織	演習	4		1, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	この演習では、福祉心理基礎演習で検討してきたテーマをさらに明確にして、研究課題を設定し、各自取り組んでいく。また、課題に対して適切な研究方法について学ぶ。具体的には、基礎演習と同じく各自の研究課題についてレジュメなどを用いながら報告を行い、ゼミ内で討議する形を基本とする。最終的には卒業論文完成を目標とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の意見を適切に述べることができる。 2 社会福祉学の基本的研究方法について理解し、課題を検討できる。 3 研究内容を卒業論文にまとめる。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション（1年振り返り、年次計画）	16	各自のテーマ報告と討論			
2	論文とは何か？	17	報告（テーマ設定の適切性）			
3	テーマ設定や報告の方針を決める	18	報告（テーマを深めるとは）			
4	報告（個人の関心と生活問題）	19	報告（接近方法の適切性の検討）			
5	報告（生活問題と社会問題）	20	報告（事例の取扱についての検討）			
6	報告（対象設定の方法）	21	報告（文献の使い方）			
7	報告（対象への接近方法とは）	22	報告（論文の体裁についての検討）			
8	報告（接近方法の検討）	23	卒論にむけての留意事項と自由テーマ討論準備			
9	報告（研究と実際の生活の距離）	24	自分たちで決めたテーマでディベート			
10	これまでの報告のふりかえり	25	フィールドワーク			
11	合同ゼミにむけて文献検討	26	フィールドワークの振り返り、1年生へのアドバイス			
12	合同ゼミにむけての報告	27	卒業論文執筆			
13	合同ゼミへの準備作業	28	卒業論文最終指導			
14	合同ゼミまとめ	29	卒業論文報告会			
15	卒業論文テーマ設定	30	卒業論文に関する講評と1年半のまとめ			
予習内容 復習内容	予習：報告者は報告準備。報告者以外は、次の報告テーマについて調べておく。 復習：演習で話し合った内容と課題について再度調べまとめておく。					
教科書	特に使用しない。参考文献は適宜提示					
成績評価	報告内容、ゼミへの参加度 50%、卒業論文 50%。					
実務経験	障害者支援施設で勤務経験有。演習では社会福祉サービス利用者・家族・職員各々の視点から考えられるように助言を行います。					
その他 特記事項	特になし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理演習	高橋 彩	演習	4		1, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	この演習では、心理学分野の文献を講読し、その内容を紹介する口頭発表を行う。発表をもとに、集団で討議し、テーマについての理解を深める。また、自分自身の卒業レポートのテーマに関連した文献を調査する。興味関心にそって主体的に学んだ内容を、最終的に卒業研究としてまとめることを目的とする。					
到達目標	①心理学分野の研究についての発表と討論を通して主体的に学ぶ態度を身につける。 ②卒業論文を作成する基本的なスキルと論理的な思考を身につける。 ③心理学的観点から社会を見ることが出来る。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	文献の紹介と分担決め	16	卒業論文のテーマの発表			
2	文献の読み方 発表資料のまとめ方	17	研究方法の検討（調査、実験、観察、展望）			
3	文献の講読と発表資料作成	18	文献の講読と個別指導（先行研究の確認）			
4	文献 A についての発表と質疑応答（4名）	19	文献の講読と個別指導（計画を立てる）			
5	文献 B についての発表と質疑応答（4名）	20	実験や調査の実施			
6	文献 C についての発表と質疑応答（4名）	21	実験結果および調査結果の整理			
7	研究論文の検索方法	22	データ入力と分析			
8	研究論文の講読	23	分析結果と考察の書き方指導			
9	発達心理学の研究論文の紹介と質疑応答	24	卒業論文の執筆 個別指導（問題と目的）			
10	教育心理学の研究論文の紹介と質疑応答	25	卒業論文の執筆 個別指導（図表の確認）			
11	社会心理学の研究論文の紹介と質疑応答	26	卒業論文の執筆 個別指導（論点の整理）			
12	臨床心理学の研究論文の紹介と質疑応答	27	卒業論文の執筆 個別指導（論の展開の確認）			
13	卒業論文のテーマに関する資料論文収集（個人）	28	卒業論文提出と添削			
14	卒業論文のテーマに関する資料論文収集（班）	29	卒業論文の要約の作成と発表準備			
15	卒業論文の書き方	30	卒業研究についての発表会			
予習内容 復習内容	予習内容：発表の担当者は1週間前までに原稿を作成する。図書館等で追加の資料を探す。 復習内容：質疑応答時に解決できなかった疑問について、調べて次回報告する。					
教科書	教科書は使用しない。内容に応じた資料を適宜配布する。					
成績評価	前期は発表資料の内容（50%）と討論への参加度（50%）によって総合的に判断する。後期は論文作成への取り組み（50%）と研究論文の内容（50%）によって総合的に判断する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理演習	武田 誠一	演習	4		1, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>基本文献の精読を行うことで、社会福祉に関する知識を深め、自身の研究テーマ決定に結びつけます。 受講生は自身の問題意識や関心に従って、それぞれに研究テーマを選択します。 各自の調査・研究を基礎に、グループ内での討論を加え、議論の仕方を学ぶと共に、卒業論文を仕上げることを目的とします。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自身の研究課題の社会的背景を述べることができる（9回 卒論テーマ報告）。 自身の研究を着実に進めることができる（16回 卒論中間報告）。 自身の研究成果をわかりやすく他者に伝えることができる（30回 卒論報告会）。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	卒論のすすめ方	16	卒論中間報告			
2	統計資料を探す	17	文献の講読と卒論個別指導（研究目的）			
3	統計資料を読み解く	18	文献の講読と卒論個別指導（研究の社会的背景）			
4	統計資料を加工する	19	文献の講読と卒論個別指導（先行研究のレビュー）			
5	統計資料を根拠に主張する	20	文献の講読と卒論個別指導（研究方法）			
6	先行研究の集め方	21	文献の講読と卒論個別指導（研究における倫理的配慮）			
7	先行研究の読み方	22	文献の講読と卒論個別指導（調査結果）			
8	別角度の先行研究を集める	23	文献の講読と卒論個別指導（結果の分析）			
9	卒論テーマの報告	24	文献の講読と卒論個別指導（結果のまとめ）			
10	ネットを活用した情報収集（概論）	25	文献の講読と卒論個別指導（結果の考察）			
11	ウィキペディアは使えるか？	26	文献の講読と卒論個別指導（研究結果）			
12	国立国会図書館サーチの活用	27	文献の講読と卒論個別指導（研究の限界と課題）			
13	リポジトリの活用	28	文献の講読と卒論個別指導（文献の書誌情報）			
14	新聞データベースの活用	29	卒論報告会のすすめかたと準備について			
15	夏休みの取り組み方	30	卒論報告会			
予習内容 復習内容	予習 新聞レポートの作成 復習 発表フィードバックの見直し					
教科書	未定					
成績評価	成果物 100 点					
実務経験						
その他 特記事項	「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。みんなと いっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
福祉心理演習	田中 武士	演習	4		1, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	1 学年時の活動や学習を基礎として、受講生各自のテーマを設定した上で、調査・研究し卒業論文を作成することを目的とする。作成する過程では、互いが対話を重ねながら自身の思考を深められるようサポートする。受講生同士の交流の中で、学習上のさまざまな困難の中にも楽しさや面白さ、知的刺激が得られるような場を醸成していく。					
到達目標	①質の高い卒業論文が作成できる。 ②グループでの協同的な行動ができる。 ③社会人としての基礎的教養を身につけられる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	各自のテーマの設定		16	グループワーク研究		
2	調査・研究の方法		17	グループワーク実践		
3	文献資料の読み方		18	グループワークの反省		
4	調査・研究の対象		19	グループワークからのフィードバック		
5	予備調査へ向けての準備		20	自らの問題意識の醸成		
6	予備調査		21	自らの問題意識を深める		
7	本調査に向けての準備		22	生活問題と社会問題		
8	本調査		23	調査・研究を進める		
9	調査結果の集計		24	対象課題と地域づくり		
10	調査結果の報告		25	地域づくりのための具体策		
11	地域づくりへの関心		26	地域づくりのための実践		
12	施設・事業所訪問		27	地域づくりを担う人々から学ぶ		
13	卒業論文の執筆に向けて		28	卒業論文執筆		
14	卒業論文の作成		29	卒業論文指導		
15	卒業論文の中間報告		30	卒業論文完成		
予習内容 復習内容	予習：日頃から新聞記事や文献、ニュースなどに関心を払い、卒業論文のテーマとなる自分自身の問題意識を明確にできるように努めること。 復習：授業で扱った資料等をよく見返し、自身の関心分野を更に深めるよう努めること。					
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。					
成績評価	授業における発言など積極的に参加する姿勢（40%）と自らのテーマについての報告内容と卒業論文（60%）を総合的に評価する。					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術論 I	武田 誠一	講義	2	社会福祉士 (SS)	1, 2	1, 2, 4
授業概要 授業目的	本講義では、ソーシャルワーク（相談援助）の基本理念、共通課題、ソーシャルワーク（相談援助）の体系や内容等を学ぶ。 相談援助の過程において必要となる知識や技術について理解することが目的である。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークにおける医学モデルと生活モデルの理論的背景を説明できる。 2 ソーシャルケースワークの援助展開を正しく説明できる。 3 クライアントとの信頼関係を構築するためのコミュニケーション技法を説明できる。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション	16	ソーシャルワークにおける援助関係（電話相談）			
2	私たちの暮らしとソーシャルワークの実際	17	ソーシャルワークにおける援助関係（来所相談）			
3	ソーシャルワークの実践モデル（医学モデル）	18	ソーシャルワークにおける援助関係（アウトリーチ）			
4	ソーシャルワークの実践モデル（生活モデル）	19	面接技法（技法の理解）			
5	診断主義アプローチ	20	面接技法（技法の実際）			
6	心理社会アプローチ	21	面接技法（技法の実践）			
7	問題解決アプローチ	22	ソーシャルワークのさまざまな技法（理論）			
8	行動変容アプローチ	23	ソーシャルワークのさまざまな技法（方法の実際）			
9	課題中心アプローチ	24	ソーシャルワークのさまざまな技法（方法の実践）			
10	危機介入アプローチ	25	記録の方法			
11	エンパワメントアプローチ	26	スーパービジョンの理論と実践			
12	その他のアプローチ	27	事例分析（事例の理解）			
13	ソーシャルワークの援助過程（インテーク）	28	事例分析（カンファレンスの方法）			
14	ソーシャルワークの援助過程（アセスメント）	29	事例分析（カンファレンスの実際）			
15	ソーシャルワークの援助過程（インターベンションなど）	30	個別援助におけるソーシャルワークの価値と倫理			
予習内容 復習内容	予習 指定文献の読了 復習 コーネルメソッドノートの整理					
教科書	未定					
成績評価	1. 課題・提出物：50% 2. レポート：30% 3. ミニテスト：20%					
実務経験	在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、個別援助場面におけるソーシャルワークについて教授していきます。					
その他 特記事項	ソーシャルワーク（相談援助）の方法・技術を学ぶ科目です。その技術は、さまざまな生活課題を抱える利用者のために用います。そのため援助者は、利用者の生活課題とは何か？それはどのようにして引き起こされるのか？その点を理解しなくてはなりません。しかし、技法のみに目を奪われず、利用者の生活に視点を置き学んでください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術論Ⅱ	水谷 久	講義	4	社会福祉士 (SS)	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>社会福祉援助技術の理念と意義を知り、その展開過程について講義を行います。さらにサービス等利用計画及び個別支援計画作成プロセスを理解し、相談支援についての業務内容や相談援助活動の実際について学びます。</p> <p>また、社会福祉の現場においてどのようなソーシャルワーカーが求められているかについて考え、地域生活を支える相談支援のスキルを養い、社会福祉援助における価値・知識・技術・能力について理解を深めることを目的とします。</p>					
到達目標	<p>ソーシャルワークの定義及び構造と相談援助の展開過程の流れについて理解し、ソーシャルワークに関する基礎的な知識を修得することを到達目標とします。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション		16	演習Ⅳ(モニタリング会議)		
2	福祉的援助を必要としている人		17	演習Ⅴ(事例 A・B の計画書作成)		
3	援助技術に係る歴史上の人物		18	演習Ⅵ(サービス等利用計画の発表)		
4	バーネットやトインビーらの活動と功績		19	社会福祉士の倫理綱領と行動規範について		
5	認知症高齢者のグループホームでの暮らし		20	国家試験過去問題(模擬試験及び解答と解説)		
6	認知症高齢者との対人援助について演習		21	自閉症の理解(関わりのポイント)		
7	ソーシャルワークの概要		22	自閉症の障がい特性		
8	ICFの理解		23	支援を必要とする子供たちの理解		
9	個別支援計画作成の視点		24	発達障害の理解(関わり方・ほめ方)		
10	福祉サービス提供のプロセスについて		25	グループ会議(個別支援計画書等の作成)		
11	利用者主体のサービス等利用計画とは		26	個別支援計画書の修正(モニタリング)		
12	サービス担当者会議事項書の様式と記入例について		27	直接援助技術の基本的な枠組み		
13	演習Ⅰ(事例の紹介・受付票記入)		28	価値・知識・技能・能力の総体について		
14	演習Ⅱ(サービス担当者会議のロールプレイ)		29	援助技術模擬問題Ⅰ・Ⅱ(解答と解説)		
15	演習Ⅲ(サービス等利用計画の作成)		30	試験及び試験終了後に、授業のまとめを行う		
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に使用する配布資料(プリント)に目を通す等。</p> <p>復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。</p>					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	<p>筆記試験又はレポート課題を70%、出席時に積極的に発言する姿勢などを30%とし、総合的に評価します。</p> <p>11回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。</p>					
実務経験	在宅介護支援センター及び障がい者相談支援センターなどの勤務経験有。現在は、社会福祉法人の管理・運営及び障がい者・高齢者等の人権擁護や地域生活について相談支援活動を行っています。					
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者等、生活困窮者への支援について関心を持って受講していただくことを願います。 ・講義の進捗状況等により、内容を追加及び変更することもあります。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術演習 I	北村 香織	演習	4	社会福祉士 (SS)	1, 2, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	本演習の第1の目的は、ソーシャルワークの実践に必要な基本的なコミュニケーション能力を体得することである。そして、ソーシャルワーク支援に関する講義で学んだ知識、価値規範、技術を実践的に理解することを目指す。第2の目的は、ソーシャルワークの知識と技術を統合して専門的援助技術として体系立てられる能力を習得することである。全30回を通して、具体的な支援の場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式で行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力を体得する。 2 ソーシャルワーク理論を実践的に理解する。 3 社会福祉士としての倫理的な判断能力を養い、実践的な対応能力を体得する。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	社会福祉援助とは？	16	グループダイナミクスの活用（グループワーク）			
2	支援者としての自分とは？（自己覚知）	17	記録の種類と方法の理解			
3	他者への理解（自己覚知2）	18	個人情報保護と記録管理			
4	福祉専門職としての価値観	19	包括的な支援方法（事例：虐待）			
5	コミュニケーションの方法（非言語）	20	ロールプレイングによる虐待事例の検討			
6	コミュニケーションの方法（言語）	21	包括的な支援方法（事例：ひきこもり、貧困）			
7	面接における基本的応答技法	22	ロールプレイングによるひきこもり事例の検討			
8	面接における基本的応答技法の応用	23	包括的な支援方法（事例：認知症）			
9	ソーシャルワークの過程（インテーク面接）	24	ロールプレイングによる認知症事例の検討			
10	ソーシャルワークの過程（アセスメントの方法）	25	包括的な支援方法（事例：終末期ケア、災害等）			
11	ソーシャルワークの過程（支援計画の作成）	26	ロールプレイングによる終末期ケア事例の検討			
12	ソーシャルワークの過程（モニタリング）	27	包括的な支援方法（事例：権利擁護活動）			
13	ソーシャルワークの過程（支援の終結）	28	ロールプレイングによる権利擁護活動の検討			
14	ソーシャルワークの過程（事後評価）	29	ケースカンファレンスの理解			
15	プレゼンテーション技術（個人）	30	スーパービジョンの理解			
予習内容 復習内容	予習：次回の内容を演習中に示すので、その理論的基盤を調べておくこと。 復習：演習で行った内容と理論的基盤との関係や、用語などについてまとめておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。毎回演習用のプリントを配布する。参考文献は適宜提示する。					
成績評価	授業ごとに提出するふりかえりシートの内容70%、レポート20%、演習への参加状況10%。 欠席が授業回数の3分の1を超えた場合、評価の対象外とします。					
実務経験	障害者支援施設で勤務経験有。現場での援助技術の役割について注視して演習をすすめます。					
その他 特記事項	出席して実際に動かなければ、援助技術は身につきません。主体的・積極的な参加を望みます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術演習Ⅱ	千坂 克馬	演習	4	社会福祉士 (SS)	1, 2, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>授業概要：社会福祉援助技術について学んできたことにかかわる具体的な援助技術を実際におこない、また実習で経験したことを振り返る中で考察し、それをまとめ、発表し、意見交換を重ねることにより理解を深めてゆきます。</p> <p>授業目的：今までの授業で学んだことを実際にやってみることにより具体的な支援にかかわる理解を深め、実習での体験を今まで学んできたことと照らし合わせて考察を深めることにより、基礎的な学習の内容を実践的な知識につなげてゆきます。</p>					
到達目標	<p>①学生は援助技術に関する基礎的学習内容を実践的知識につなげることが出来る。</p> <p>②学生は演習を通して、ケーススタディの基礎を身に付けることが出来る。</p> <p>③学生は演習を通して、利用者さんの視点から考えることが出来るようになる。</p>					
回	学習内容					
1	第1部：自己開示とコミュニケーション オリエンテーション：自己紹介と将来の夢					
2	実習体験にかかわる話し合い：実際に利用者さんと向き合い学んだこと					
3	自分の身体について考える：質問紙と話し合い・感覚プロフィールとストレスチェック					
4	お互いの理解のための表現：簡単なセラピー					
5	居場所と役割：質問紙、物語セラピー					
6	第1部のレポート発表とそれについてのジャムボードを使用しての話し合い					
7	第2部：アセスメント 検査法1：概要説明・質問紙・プランニング					
8	検査法2：同時処理・注意					
9	検査法3：継次処理・注意					
10	検査法4：自分のアセスメントレポートの作成と発表					
11	第3部：支援のための技法 就労支援：ジョブコーチ					
12	活動と環境の評価：実習時の生活・就労環境について考える					
13	コミュニケーションの支援：応用行動分析					
14	ケーススタディの技法：インシデントプロセス					
15	実習時の利用者さんにかかわるアセスメントレポートの作成					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に示す文献に目を通す。</p> <p>復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。</p>					
教科書	テキストは使用せず、レジュメを配布します。					
成績評価	出欠状況及び授業感想文50%、授業中の発言及びスライド等の内容等30%、レポート20% 6回以上欠席した場合、評価の対象となりません。					
実務経験	社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOに勤務。そこでの実務経験をもとに社会福祉援助技術について一緒に学んでゆきたいと思えます。					
その他 特記事項	グーグルジャムボード、グーグルスライドを使用します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術演習Ⅲ	千坂 克馬	演習	2	社会福祉士 (SS)	1, 2, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>授業概要：演習Ⅱの内容を発展させる形で、夏休みの実習での経験からアセスメントや支援計画の立案をおこない、施設内での支援も含めて地域での視点からも考えます。そして長期的な視点から考えるために用意した事例をもとに考えを深めます。話し合いはグーグルジャムボードを使用、支援計画はグーグルスライドを使用します。</p> <p>授業目的：実習経験や事例から具体的に考えることにより、演習Ⅱで学んだことを実践的に応用可能なものとして活用してゆくスキルの獲得を目指します。</p>					
到達目標	<p>①学生は利用者さんのニーズを把握出来るようにする。 ②学生はニーズに基づき支援を考えられるようになる。 ③学生は包括的視点でケースを見ることが出来るようになる。</p>					
回	学習内容					
1	第1部：実習から考える ケーススタディ：説明（以下ケーススタディについてはグーグルスライド使用）					
2	ケーススタディ：アセスメント					
3	ケーススタディ：支援計画の立案					
4	ケーススタディ・グループ討議：アセスメント					
5	ケーススタディ・グループ討議：支援計画の立案					
6	社協事例のケーススタディ・地域での支援：説明					
7	社協事例のケーススタディ：アセスメント					
8	社協事例のケーススタディ：支援計画の立案					
9	地域での支援の視点から：発表					
10	第2部：事例から考える 生活習慣にかかわる事例のケーススタディ					
11	金銭管理にかかわる事例のケーススタディ					
12	居場所にかかわる事例のケーススタディ					
13	家族にかかわる事例のケーススタディ					
14	成育歴の視点からのケーススタディ					
15	みなさんの進路と抱負についての話し合い					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に示す文献に目を通す。 復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。</p>					
教科書	テキストは使用せず、レジュメを配布します。					
成績評価	授業感想文30%、授業中の発言及びスライド等の内容40%、レポート30% 6回以上欠席した場合、評価の対象となりません。					
実務経験	社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOに勤務。そこでの実務経験をもとに社会福祉援助技術について一緒に学んでゆきたいと思えます。					
その他 特記事項	グーグルジャムボード、グーグルスライドを使用します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術現場実習 I	北村・武田・田中	実習	3	社会福祉士 (SS)	1, 2, 3, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>本科目は実習科目である。自己の課題をもって現場実習に臨み、現場での職員や利用者との関わり等から問題意識を深め、援助技術の習得を目指す。 実習は、実習機関において行う。また、実習期間中には教員による巡回指導を行い、必要時には大学にて個別指導を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉施設や機関の役割や実際を理解する。 2 社会福祉専門職の役割や業務の実際を実践的に理解する。 3 利用者や職員との関わり等から援助技術を習得する。 					
学習内容						
<p>【現場実習において学ぶこと】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実践能力を養う 学校で学んできたソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を使い、社会福祉士としての価値と倫理に基づいて支援を行うための実践能力を養う。 2 利用者やその関係者と援助関係を構築する 援助関係の構築のために、利用者、家族との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成に努める。また、施設、事業者、機関、団体とも円滑に関係を構築できるよう努める。 3 利用者のニーズを理解する 利用者との積極的なコミュニケーションの中から、利用者は今何を望んでいるのか、ということを知り取る。また、利用者や地域の状況を理解できるように努め、その生活上のニーズを把握し、社会資源の活用・調整・開発も含めた支援計画を作成する。 4 施設・事業者・団体の経営、サービスの運営管理の実際について理解する。 5 他職種連携及びチームアプローチを実践的に理解する まずは、施設内でのチームアプローチに着目した上で、様々な職種の特徴を知り、家族を含めた利用者支援に必要なアプローチ方法を知る。 6 実習先が地域社会の中で果たす役割を理解し、具体的な地域への働きかけ方について学ぶ。 						
予習内容 復習内容	<p>毎日の実習ごとに実習記録を作成し、それに対する実習評価担当者からの実習ノートへのコメントに対するふりかえりを行うことで、翌日の実習への準備と当日の復習を行う。</p>					
教科書	<p>使用せず</p>					
成績評価	<p>配属先実習施設での実習評価 70%、実習ノート・巡回指導時の状況等 30%、をあわせて総合的に評価する。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>学外での実習です。マナーを守り、実習先のルールを遵守し、体調管理を厳重に行った上で、積極的に臨むこと。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	北村・武田・田中	実習	3	社会福祉士(SS)	1, 2, 3, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	本科目は実習科目である。社会福祉施設や期間の役割を実際的に理解するとともに、社会福祉専門職の役割や業務の実際を学ぶ。また、社会福祉援助技術現場実習Ⅰで学んだ知見を元にして課題を設定し、実習に臨む。そして、現場での職員や利用者との関わり等から問題意識を深め、ソーシャルワーク実践に必要な実践的な能力を修得する					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉専門職の役割や業務の実際を実践的に理解する。 2 支援計画の作成ができるようになる。 3 社会福祉施設や機関の地域での役割について理解する。 					
学習内容						
<p>【現場実習において学ぶこと】</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰでの反省点を元に、下記の4点を中心に実践と考察を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実践能力を養う 学校で学んできたソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を使い、社会福祉士としての価値と倫理に基づいて支援を行うための実践能力を養う。 2 利用者やその関係者と援助関係を構築する 援助関係の構築のために、利用者、家族との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成に努める。また、施設、事業者、機関、団体とも円滑に関係を構築できるよう努める。 3 生活上のニーズに対応するために、社会資源を活用した支援計画を作成する 適切なアセスメントを行なったうえで、「社会資源」を活用することに着目し、支援計画をたて、実施して評価を行う。その際には、ネットワーキングやコーディネーションなどの技術も実践的に取り入れる。さらに、ソーシャルアクションへつなげられるような視点や方法も修得する。 4 地域における分野横断的・業務横断的な関係形成について学ぶ 現場実習Ⅰで理解した。他職種連携などの実践をもとに、分野横断的・業務横断的な関係を形成するための具体的な関係形成に必要な技術（例えばコーディネーション、ネゴシエーション等）を修得する。 						
予習内容 復習内容	毎日の実習ごとに実習記録を作成し、それに対する実習評価担当者からの実習ノートへのコメントに対するふりかえりを行うことで、翌日の実習への準備と当日の復習を行う。					
教科書	使用せず					
成績評価	配属先実習施設での実習評価 70%、実習ノート・巡回指導時の状況等 30%、をあわせて総合的に評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	学外での実習です。マナーを守り、実習先のルールを遵守し、体調管理を厳重に行った上で、積極的に臨むこと。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術現場実習指導 I	北村 香織	演習	3	社会福祉士 (SS)	1, 2, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	社会福祉施設での現場実習に臨むにあたり、施設の社会的位置付け、役割課題などについて自分たちで調べ報告したり、講義をきいたりしながら、学び、考察を深める。それらを通して自分自身が取り組むべき課題を明確にした実習計画を作成することをねらいとする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習生としての価値規範とマナーを習得する。 2 ソーシャルワークに関する知識や技術を実践的に展開する力を身につける。 3 実習計画を作成することができる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（実習指導とは、スーパービジョンとは）					
2	実習の意義と目的及びマナーについて（実習先で必要とされる価値規範、知識や技術について）					
3	実習施設の持つ歴史について（報告 1）					
4	実習施設（入所）の種類と法的背景、概要について（報告 2）					
5	実習施設（入所）の現状と課題について（報告 3）					
6	実習に向けて（報告のまとめと今後の課題の精査）					
7	実習施設（通所）の種類と法定背景、概要について（報告 4）					
8	実習施設（通所）の現状と課題について（報告 5）					
9	社会福祉施設の現状と課題について（報告 6）					
10	実習計画書の作成（実習目標を定める）					
11	実習計画書の作成（実習目標にあわせた具体的実習計画の作成・添削）					
12	実習記録の作成指導（実習記録の書き方・実践的練習）					
13	現場実習のまとめと課題の整理					
14	実習施設についての調査 ～現状と課題の提示					
15	実習目標の設定と個別指導					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。					
教科書	『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房。 山縣文治・柏女霊峰編（2013）『社会福祉用語辞典 第9版』ミネルヴァ書房。					
成績評価	演習への参加度（70%）と報告内容（30%）。6回以上の欠席は評価の対象外。					
実務経験	障害者支援施設での勤務経験有。利用者支援に関する具体的な課題を示しながら、実習準備を行う。					
その他 特記事項	特になし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	田中 武士	演習	3	社会福祉士 (SS)	1, 2, 4	1, 2, 4
授業概要 授業目的	<p>本科目では、社会福祉援助技術現場実習Ⅰでの学びと経験と関連させ、自身の知識と考えを深められるよう指導する。また、社会福祉施設の機能と課題等に対する認識をより具体的に把握し、個人票や実習目標の作成等について学ぶ。さらに、福祉専門職としての感性や自己覚知、記録方法、援助関係の構築などについてのスーパービジョンを実施し、より質の高い実習としていくことを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①1年次の実習経験から成果と課題を認識することができる。 ②実習における福祉専門職としての自覚と責任、人権意識、職業倫理などを意識することができる。 ③スーパービジョンを通じて実習における成果と課題を認識することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）					
2	実習プログラムや実習課題の達成についての検討					
3	実習報告書の作成					
4	実習体験の共有化（グループ討議）					
5	実習体験の共有化（グループ討議および発表）					
6	実習先の業務や組織に関する法的根拠の理解					
7	実習に向けての準備（対人関係と社会人としてのマナー）					
8	実習施設の種類と概要					
9	実習施設の現状と課題					
10	実習生個人票の作成					
11	実習計画書の作成（個人の問題意識のアウトプット）					
12	実習計画書の作成（社会的意義を意識する）					
13	実習計画書の作成（実習目標との整合性を図る）					
14	スーパービジョンの方法と場面を理解する					
15	スーパービジョンの意義を理解する					
予習内容 復習内容	<p>予習：1年次に使用した資料等をよく見返し、各自で実習体験の振り返りを繰り返し行うこと。 復習：授業で使用した資料等をよく見返し、今後の実習を想定した準備に努めること。</p>					
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜資料を配布する。					
成績評価	<p>授業における発言など積極的に参加する姿勢（40%）と実習報告の準備と成果（60%）で総合的に評価する。 ・授業回数の3分の1を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。</p>					
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。					
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
インテリアデザイン	中井 孝幸	講義	2	建築士	1, 2	1, 3
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な生活環境を創り上げるために必要な基礎知識と計画手法を学ぶ。 ・空間を構成する床、壁、天井の立体的な関係を理解する。 ・家具や照明、素材などを「人と空間」との関係で捉えるようにする。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3次元を2次元（図面・透視図・スケッチ）で表現できるようにする。 ・課題を通じて、インテリアデザインの計画・プレゼンテーションを学ぶ。 					
回	学習内容					
1	ガイダンス・住まいとインテリア（日本、西洋）					
2	家具にみるデザイン様式の変遷					
3	演習①：平面図、展開図の描法					
4	人間工学について					
5	演習②：インテリアパースの描き方					
6	インテリアの安全性について					
7	形・色・テクスチャーについて					
8	演習③：ベニヤ板1枚でデザインする椅子の模型制作					
9	ヒューマンスケールと空間の心理					
10	照明とサインのデザイン					
11	演習④：A2判ケント紙でデザインする照明器具の模型制作					
12	地震と災害					
13	演習⑤：空間のインテリア設計					
14	材料と仕上げについて					
15	提出された作品の講評会、まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義の前に参考図書、配布資料等で予習を行う。 復習：講義の後に板書やスライドの内容をノートに整理する復習を行う。					
教科書	講義中に適宜資料を配布する。 参考図書：インテリアデザイン教科書研究会編：インテリアデザイン教科書、第2版、彰国社					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を毎回取る。遅刻厳禁。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 ・出席と演習課題の総合点（小レポート15%、演習課題85%）により評価する。 ・演習課題が未提出な者は、単位取得できない。 					
実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・組織設計事務所での勤務経験を活かし、授業では実践的なデザインや計画について話します。 					
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題に用いる製図道具やケント紙、模型制作の材料や用具などは各自でそろえる。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築製図基礎	木下 誠一	演習	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	実習を通して、建築空間を表現するための様々な製図の技法を習得する。また、スケッチ、パース、模型を作成しながら、空間のスケール感や立体感覚を養う。					
到達目標	図面が読み取れ、製図用具の使い方や建築設計の基礎的な製図法を身に着ける。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、設計プロセス					
2	建築作品のフリーハンスケッチ (1) 出題・演習					
3	建築作品のフリーハンスケッチ (2) 出題・演習					
4	建築図面の種類、読み方と製図用具の使い方の説明					
5	建築図面の表現方法 (1) 配置図の解説・演習					
6	建築図面の表現方法 (2) 平面図の解説・演習					
7	建築図面の表現方法 (3) 断面図の解説・演習					
8	建築図面の表現方法 (4) 立面図の解説・演習					
9	建築図面の表現方法 (5) 展開図の解説・演習					
10	建築図面の表現方法 (6) 詳細図の解説・演習					
11	建築空間の立体表現 (1) アクソメ図の解説・演習					
12	建築空間の立体表現 (2) 内観パース図の解説・演習					
13	建築空間の立体表現 (3) 外観パース図の解説・演習					
14	建築模型の作り方 (1) 模型材料と製作方法の解説・演習					
15	建築模型の作り方 (2) 模型製作					
予習内容 復習内容	予習：講義のテーマ毎に関連した文献等に目を通す。 復習：講義資料を読み返し、演習課題に取り組む。					
教科書	教科書は使用しない。演習課題ごとに資料を配布する。					
成績評価	出席を毎回取る。6 回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 各演習課題の成果をもとに評価する (100%)。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項	作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
住生活設計 I	木下 誠一	演習	2	建築士	1, 2	1, 3
授業概要 授業目的	設計実習を通して、生活に必要な各部の寸法を理解し、建築の立体的な空間を操作できる能力や表現力を習得する。実習では、小空間と戸建住宅の2課題に取り組む。戸建住宅の課題は、主として木造2階建て程度の規模とする。					
到達目標	住生活の基本となる戸建住宅の概略設計（基本設計）ができる能力を身に着ける。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、小空間（個室、ワンルーム等）の設計（1）出題					
2	小空間の設計（2）エスキス（コンセプト・平面）					
3	小空間の設計（3）エスキス（コンセプト・平面の再検討）					
4	小空間の設計（4）エスキス（平面、断面、展開等）					
5	小空間の設計（5）エスキス（平面、断面、展開等の再検討）					
6	小空間の設計（6）図面チェック					
7	小空間の設計（7）作品提出・講評、戸建住宅の設計(1)出題					
8	戸建住宅の設計（2）エスキス（コンセプト・配置・平面）					
9	戸建住宅の設計（3）エスキス（コンセプト・配置・平面の再検討）					
10	戸建住宅の設計（4）エスキス（平面、断面、立面、展開等）					
11	戸建住宅の設計（5）エスキス（平面、断面、立面、展開等の再検討）					
12	戸建住宅の設計（6）図面チェック（平面図等）					
13	戸建住宅の設計（7）図面チェック（図面一式）					
14	戸建住宅の設計（8）作品提出・講評					
15	まとめと確認					
予習内容 復習内容	予習：その回の目標として示された事項に取り組み、計画案を作成する。 復習：指摘事項をふまえ、計画案の改善を行う。					
教科書	教科書は使用しない。演習課題ごとに資料を配布する。					
成績評価	出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 2課題のうち、1つでも作品が未提出の場合は評価の対象外とする。 2課題の成果をもとに評価する（各課題50%、計100%）。					
実務経験	一級建築士としての実務経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項	作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。「建築製図基礎」を履修していることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
住生活設計Ⅱ	村林 桂	演習	2	建築士	1, 2	3, 4
授業概要 授業目的	<p>課題では、高齢社会をふまえ、家族以外の人々と共同生活を行う集合住宅や、児童から成人、高齢者など地域の幅広い人々が交流を図るコミュニティ施設など、中規模施設を取り上げる。そして、それぞれの機能や構造・設備、運営方式などを総合的に理解し、計画・設計案としてまとめ上げることを目的とする。</p> <p>以下の2課題を課し、個別指導を中心に行う。</p> <p>コレクティブハウスの規模は3階建て以下、構造は木造、S造、RC造のいずれかとする。</p> <p>コミュニティ施設の規模は3階建て以上、構造はS造又はRC造とする。</p>					
到達目標	多様な利用主体が想定され、複雑な機能を有する地域施設の設計ができる能力を身に着けることを目標とする。					
回	学習内容					
1	コレクティブハウス (1) 出題、エスキス (コンセプト)					
2	コレクティブハウス (2) エスキス (配置計画・平面計画)					
3	コレクティブハウス (3) エスキス (立面計画・断面計画)					
4	コレクティブハウス (4) 図面チェック					
5	コレクティブハウス (5) 図面チェック					
6	コレクティブハウス (6) 図面チェック					
7	コレクティブハウス (7) 作品提出発表・講評					
8	コミュニティー施設 (1) 出題、エスキス (コンセプト)					
9	コミュニティー施設 (2) エスキス (コンセプト・配置計画・平面計画)					
10	コミュニティー施設 (3) エスキス (配置計画・平面計画)					
11	コミュニティー施設 (4) エスキス (立面計画・断面計画)					
12	コミュニティー施設 (5) 図面チェック					
13	コミュニティー施設 (6) 図面チェック					
14	コミュニティー施設 (7) 図面チェック					
15	コミュニティー施設 (8) 作品提出発表・講評					
予習内容 復習内容	<p>予習 次回チェックを受けるエスキスや図面を予め描いて備える。</p> <p>復習 図面チェックでの指摘を踏まえ改善を行う。</p>					
教科書	テキストは使用しない。資料は課題に応じて演習中に紹介する。					
成績評価	全課題の提出のある学生を対象とし、各課題の採点を総合的に評価する。採点は最終成果物（作品）に80%、毎回の制作プロセスについて20%とし、6回以上欠席した場合は不合格とする。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所を運営している経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項	「建築製図基礎」「住生活設計Ⅰ」「建築構法」を履修していることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住計画論	木下 誠一	講義	2	建築士	1, 2	1, 3
授業概要 授業目的	住宅や集合住宅、高齢者福祉施設における人々の諸要求を把握し、行為と空間との対応関係について理解を深める。					
到達目標	空間の規模設定や機能構成、空間デザイン等、建築計画の理念や方法を身に着ける。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、住宅の敷地条件（配置計画）					
2	住宅の機能とゾーニング、動線計画					
3	住宅の寸法計画（人体寸法と動作寸法、モジュール等）					
4	住宅の空間構成（平面計画）					
5	住宅の空間構成（断面計画）					
6	住宅の各室の計画（居間・個室等）					
7	住宅の水まわりの計画（台所、風呂、便所）					
8	住宅の収納の計画					
9	住宅の外部空間の計画（立面計画・外構計画）					
10	集合住宅の計画（1）計画手法					
11	集合住宅の計画（2）事例					
12	高齢者福祉施設の計画（1）施設体系					
13	高齢者福祉施設の計画（2）通所施設・事例					
14	高齢者福祉施設の計画（3）入所施設・事例					
15	まとめと確認					
予習内容 復習内容	予習：講義のテーマ毎に関連した文献等に目を通す。 復習：講義資料を読み返し、レポート課題に取り組む。					
教科書	教科書は使用しない。講義ごとに資料を配付する。					
成績評価	出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 講義のテーマ毎に実施するレポートにより評価する（100％）。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住福祉論	木下 誠一	講義	2	建築士	1, 2	1, 3
授業概要 授業目的	高齢社会をふまえ、住み慣れた環境で安心して人々が生活を送れるよう、福祉の観点から居住環境について理解を深める。					
到達目標	高齢者等の行動特性を把握し、在宅ケアを念頭においたバリアフリーの住宅設計・改造に関する計画手法を身に着ける。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、福祉住環境整備の必要性					
2	バリアフリーとユニバーサルデザイン					
3	福祉住環境に関連する制度・資格					
4	高齢者等の心身・行動特性 (1) 疾病					
5	高齢者等の心身・行動特性 (2) 障がい					
6	福祉住環境の共通整備方策					
7	場所別の具体的な整備方策 (1) アプローチ・玄関・廊下・階段					
8	場所別の具体的な整備方策 (2) トイレ・浴室・洗面所					
9	場所別の具体的な整備方策 (3) キッチン・寝室等					
10	福祉用具					
11	演習(1) 演習問題					
12	演習(2) 住宅のリフォーム提案①：杖歩行					
13	演習(3) 住宅のリフォーム提案②：車椅子対応					
14	発表					
15	まとめと確認					
予習内容 復習内容	予習：講義のテーマ毎に関連した文献等に目を通す。 復習：講義資料を読み返し、要点をまとめ、疑問点を調べる。					
教科書	教科書は使用しない。講義ごとに資料を配付する。					
成績評価	出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 講義で適宜実施する小テスト (20%)、演習 (80%) の成果により評価する。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築法規	川喜田 浩也	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築物を設計・施工に必要不可欠となる、法令用語の読み方、用語の定義、条文の主旨・内容の習得のため、建築基準法を中心に説明する。					
到達目標	建築基準法の基本用語を理解する。規制ごとに関係する条項をおおむね把握する。 建築基準法の規制等の内容を参考文献も利用しながら、自力で読み取りできるようにする。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、法文読解の基本ルール等					
2	用語の定義（法第 2 条）					
3	道路、用途地域（法第 42 条、第 48 条）					
4	容積率、建蔽率（法第 52 条、第 53 条）					
5	高さ制限その 1 道路斜線、隣地斜線、北側斜線（法第 56 条）					
6	高さ制限その 2 天空率、日影規制（法第 56 条、同第 56 条の 2）理解度確認レポート課題提示（1 回目）					
7	耐火防火規制（法第 22 条、第 26 条他）					
8	耐火防火区画（法第 27 条、第 61 条他）					
9	避難規定（法第 35 条他） 理解度確認レポート課題提示（2 回目）					
10	開口部関係 採光、換気、排煙（法第 28 条他）					
11	構造耐力 概要・定義・仕様規定・構造計算（法第 20 条関係）					
12	既存不適格建築物（法第 3 条）、工作物（法第 86 条の 7） 理解度確認レポート課題提示（3 回目）					
13	特定行政庁関係 各認定・許可関係					
14	建築確認申請（法第 6 条関係 他）					
15	2025 年法改正について					
予習内容 復習内容	予習：副テキスト等により、規制の概要理解と併せ、法令の関連条項を把握する。 復習：講義ごとのメモを再読のうえ、法令関連規定の内容を照理解する。					
教科書	建築士試験に持ち込み可能な建築基準法令集（できれば最新年度が望ましい）					
成績評価	理解度確認レポート 55%（1 回目 15%、2 回目 10%、3 回目 30%）、受講姿勢 45%の配分により評価。欠席 6 回以上の場合、理解度確認レポート未提出の場合は共に成績評価対象外とします。					
実務経験	行政での建築主事、指定確認検査機関での確認検査員として建築法令実務に携わった経験をもとに、建築基準法について説明をします。					
その他 特記事項	講義をとおして建築基準法令について親しみやすく学んでもらいたい。（私的な希望です。）					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住設備学	北野 博亮	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築・都市設備，すなわち空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備・防災設備について，その基本メカニズムと構成を環境問題等との関連性を踏まえて解説する。建築設備の概要および良好な室内環境と省エネルギーに関する知識を得ることがこの授業の目的である。					
到達目標	都市や建築における快適な居住空間を実現するための設備の概要を修得すること					
回	学習内容					
1	ガイダンスと居住設備の概要					
2	温熱環境評価					
3	空気調和設備(1) 冷暖房負荷					
4	空気調和設備(2) 冷暖房負荷・熱源機器					
5	空気調和設備(3) 空調方式・空気調和機					
6	空気調和設備(4) 換気設備					
7	空気調和設備(5) 空調設備の設計					
8	給排水衛生設備(1) 給排水設備の概要・給水設備					
9	給排水衛生設備(2) 給湯設備・排水通気設備					
10	電気設備(1) 受変電・配電設備					
11	電気設備(2) 照明設備					
12	防災設備(1) 火災防災設備					
13	防災設備(2) 避雷設備ほか					
14	省エネルギー技術(1) 地球・都市環境問題，自然エネルギー利用技術					
15	省エネルギー技術(2) 一般建築物の省エネルギー手法					
予習内容 復習内容	教科書の該当部分を予習しておくこと テキストと授業で説明した内容を整理しておくこと					
教科書	田中俊六他著「建築設備工学」 井上書院					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は，全講義回数 15 回のうち 10 回以上出席した受講者に対して行う。 ・定期試験によって，講義内容の理解度を判断し成績評価を行う。 					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築環境学	寺島 貴根	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	都市や建築において、快適な居住空間を実現するための計画法の概要を修得することが本講義の目的である。室内空間および都市空間における音・光・熱・空気および水分の制御に関する基礎理論とその建築・都市設計への応用の概要を学習する。教科書の内容に従い、スライドを併用して講義が進められる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 音響・照明・換気・断熱などの室内環境を制御する基本原理を理解することができる。 初歩的な室内環境の設計課題に対する解決方法を身につけることができる。 					
回	学習内容					
1	講義ガイダンス：快適な室内環境の構築					
2	騒音防止と音響設計①（音の物理、聴覚）					
3	騒音防止と音響設計②（騒音制御、サウンドスケープ）					
4	騒音防止と音響設計③（建築音響設計、吸音）					
5	日照と日射（太陽と地球、日影曲線）					
6	採光と照明①（視覚、直接照度の計算、昼光率）					
7	採光と照明②（光束法による照明設計、人工光源）					
8	建築の色彩計画（表色系、色彩の調和）					
9	室内空気汚染と換気①（室内空気環境基準、シックハウス）					
10	室内空気汚染と換気②（自然換気と機械換気）					
11	室内空気汚染と換気③（換気量の計算）					
12	断熱と結露防止①（伝熱の基礎、熱の物性）					
13	断熱と結露防止②（貫流熱の計算、断熱）					
14	断熱と結露防止③（露点温度、結露防止、体感温度）					
15	問題演習と解説					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所を目を通す。 復習：教科書の該当箇所を振り返り、配布資料への書き込み内容やノートを整理する。					
教科書	基礎力が身につく建築環境工学（三浦昌生著、森北出版、ISBN978-4-627-58112-8）					
成績評価	成績評価は試験を含む全講義回数 15 回のうち 10 回以上出席した受講者に対して行う。出席確認を兼ねて提出するミニツペーパーの内容と筆記試験の結果によって、各受講者の目標達成度を判断し成績評価および単位認定を行う。評価におけるそれぞれのウェイトは、ミニツペーパーが 40%、筆記試験が 60%である。					
実務経験						
その他 特記事項	開講までに必ず教科書を購入してから受講すること。室内環境の物理と心理に関する理論および計算が含まれる理系的内容であるが、今後建築に携わっていく者には必須の知識や考え方である。将来建築士試験を受験する予定の者には受講を勧める。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築一般構造	門脇 一仁	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築物を設計する上で、主要な骨組の設計を行う構造設計者に求められる役割は、年々重要度を増しています。当講義では、主要な骨組の構造形式や特徴、それを構成する材料について学びます。また、建築物に加わる荷重や外力がどのように作用するかを理解し、どのように設計するかを、実例を通じて学びます。					
到達目標	1 級建築士、2 級建築士等の資格試験における基礎知識の習得 1) 鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造等の専門的な用語を理解し、正しい記述、間違った記述が判断できる。 2) 鉄筋コンクリート造の必要鉄筋量が計算できる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、アーキテクトとエンジニア					
2	近年における建築構造設計のあり方					
3	空間と構造形式					
4	構造力学の基礎知識－静定構造－					
5	建築物の荷重と外力					
6	鉄骨造(1)－鋼材の性質と種類－					
7	鉄骨造(2)－鉄骨造の特徴と代表例－					
8	鉄筋コンクリート造(1)－コンクリートの性質と種類－					
9	鉄筋コンクリート造(2)－鉄筋コンクリート造の特徴と代表例－					
10	鉄筋コンクリート造(3)－必要鉄筋量の算出－					
11	木造－木材の性質と種類、代表例－					
12	その他の構造－免震構造、制振構造、壁式構造など－					
13	地盤・基礎構造					
14	構造計画					
15	2 級建築士試験問題の演習					
予習内容 復習内容	予習：身近にある建築物がどのように構成されているかをよく観察する。 復習：資料の整理と専門用語の確認					
教科書	テキストは使用せず、毎回資料を配布します。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	試験 50%、授業ごとに提出する簡単なレポート 50%。 6 回以上の欠席は、試験の受験資格はありません。					
実務経験	日本建築構造技術者協会に所属する構造設計一級建築士。経営している構造設計事務所での経験をもとに、建築物の構成や設計方法などの話をします。					
その他 特記事項	「構造設計」というと、どこか堅苦しく、難しい数式ばかり、という印象がありますが、そうではなく、とてもクリエイティブで楽しい分野であるということを理解して頂ければと考えています。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築計画	中井 孝幸	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	・ 建築を設計・計画するにあたり、直面する様々な課題に対して、如何に取り組み課題解決を図っていくのかを学ぶことを目的とする。					
到達目標	・ 地域の各種建築物に関する建築計画上の基礎知識を学習し、施設事例を通して計画手法や課題等を理解する。					
回	学習内容					
1	がダンス、図書館の計画 (1) 授業の進め方、図書館の歴史					
2	図書館の計画 (2) 地域のサロンとしての図書館					
3	図書館の計画 (3) 図書館の施設計画					
4	学校の計画 (1) 教室のオープン化					
5	学校の計画 (2) 学びの場から生活の場へ					
6	演習①折紙建築 立体的なデザイン演習					
7	高齢者福祉施設の計画 (1) 地域福祉と通所系施設					
8	高齢者福祉施設の計画 (2) 入所系施設の小規模生活単位によるケア					
9	病院の計画 (1) 診療所の計画と病院計画の基礎					
10	病院の計画 (2) 病院の部門構成					
11	病院の計画 (3) 病棟・病室の計画					
12	美術・博物館の計画 展示品の収集と観賞					
13	劇場の計画 演技を観る					
14	オフィスの計画 規模とレントブル比、寸法計画					
15	試験および試験終了後に、建築計画のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義の前に参考図書、配布資料等で予習を行う。 復習：講義の後に板書やスライドの内容をノートに整理する復習を行う。					
教科書	・ 松本直司、瀬田恵之、高井宏之、建部謙治、谷田真、中井孝幸、矢田努：建築計画学、理工図書、2013. 4					
成績評価	・ 出席を毎回取る。遅刻厳禁。6 回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 ・ 筆記試験、レポート及び演習課題により、総合的に評価する。 ・ 小レポート 15%、演習課題 20%、試験 65%、演習課題が未提出な者は、単位取得できない。					
実務経験	・ 組織設計事務所での勤務経験を活かし、授業では実践的なデザインや計画について話します。					
その他 特記事項	・ 演習課題に用いる製図道具やケント紙、模型制作の材料や用具などは各自でそろえる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築構法	村林 桂	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築を初めて学ぶ学生に、建築物の構成やしくみを総合的に解説する。 テキストに沿って、前半の躯体構法では各種の建築構造体について、後半の各部構法では下地材や仕上げ材の特徴や施工方法等について、現場写真や実物サンプルを交えて具体的に解説する。					
到達目標	構造や意匠、材料、施工等の各分野での深い知識を得る前に、建築設計監理者の視点から捉えた建築構法全般について、広い知識を習得することを目標とする。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、建築構法概論					
2	躯体構法 建築物への荷重・外力					
3	躯体構法 鉄骨造					
4	躯体構法 鉄筋コンクリート造					
5	躯体構法 鉄筋コンクリート造、壁式構造					
6	躯体構法 補強組積造・組積造・プレストレストコンクリート造					
7	躯体構法 鉄骨鉄筋コンクリート造					
8	躯体構法 木造（材料と構造）					
9	躯体構法 木造（部材の接合法、その他）					
10	各部構法 地業、基礎					
11	各部構法 屋根、壁					
12	各部構法 開口部、建具					
13	各部構法 床、階段					
14	各部構法 天井、造作、					
15	設計と構法、まとめ					
予習内容 復習内容	予習 次回の講義内容についてテキストを熟読し、概要を理解しておく。 復習 講義で指摘があった重要項目について再度内容を確認する。					
教科書	「建築構法 第五版」内田祥哉著 市ヶ谷出版					
成績評価	授業ごとに行う小レポート（50%）および定期試験結果（50%）により評価する。 また、6回以上欠席、試験欠席の場合は、評価の対象外とする。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所を運営している経験を活かし、授業では実情に即した建築構法についてわかりやすく講義する。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
構造力学 I	佐藤 公亮	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築構造物には自重や積載荷重の他に、地震や風、積雪など様々な外力が作用する。これらの荷重に対して安全性を確保するために構造設計がなされる。この構造設計の力学的な基礎となるのが構造力学である。 ・ 構造力学 I では静定構造物の解法、断面力算定方法を学習する。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な静定構造物の構造計算ができる。 					
回	学習内容					
1	建築構造力学概説、構造物の支点反力					
2	静力学の基礎 I (ベクトル、三角関数、力の分解・合成)					
3	静力学の基礎 II (力のモーメント、力の釣り合い)					
4	演習					
5	静定トラス構造の解法 I (節点法・図式解法)					
6	静定トラス構造の解法 II (節点法・算式解法)					
7	静定トラス構造の解法 III (切断法)					
8	静定ばりの応力算定法 I (軸方向力、せん断力、曲げモーメント)					
9	静定ばりの応力算定法 II (軸方向力、せん断力、曲げモーメント)					
10	演習					
11	静定構造物の応力算定法 I					
12	静定構造物の応力算定法 II					
13	応力度とひずみ度					
14	断面の性質 (断面定数の算定法)					
15	部材断面の各種応力度算定法					
予習内容 復習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習形式の課題を課し、授業で予習内容の確認をする。 ・ 復習で、応用問題を解く。 					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅野清昭：改訂版図説やさしい構造力学、学芸出版社 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 (40 点)、演習 (40 点)、定期試験 (20 点) の合計を評価点とする。 ・ 評価点 60 点以上を合格とする。 					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公式の適用条件、理論を理解すること。 ・ 同じ問題を繰り返して解くことは、確認作業であり勉強ではない。類似問題を解き、問題の解法を理解すること。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
構造力学Ⅱ	野田 一成	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築構造物における力の釣合と変形の適合を学習し、不静定構造の解法を理解する。様々な計算が実務上、どのような場面で用いられるのかを理解できるようになること。建築士等の資格取得のために必要となる知識向上を目的とする。					
到達目標	構造物の変形を求めることができる。 様々な計算法を用いて不静定構造を解くことができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、静定構造物の解法の復習（反力と応力及び応力度の復習）					
2	静定構造物の解法の復習（静定梁、ラーメン、トラス、断面の性質）					
3	不静定次数の算定、構造物の弾性変形（ひずみ、座屈）					
4	仮想仕事法Ⅰ（エネルギー保存の法則から仮想仕事法まで）					
5	仮想仕事法Ⅱ（棒構造等の変形解析）					
6	演習問題Ⅰ（ひずみ、座屈、棒構造等の変形解析）とその解説					
7	構造物の弾性変形解析（ひずみエネルギー、モールの定理、重ね合わせの原理）					
8	応力法Ⅰ（不静定梁の解法）					
9	応力法Ⅱ（不静定トラスの解法）					
10	応力法Ⅲ（ラーメン架構の解法）					
11	演習問題Ⅱ（応力法による不静定構造の解法）とその解説					
12	固定法Ⅰ（不静定構造の解法）					
13	固定法Ⅱ（不静定構造の解法）、演習問題Ⅲ（固定法）とその解説					
14	たわみ角法Ⅰ（不静定構造の解法）					
15	たわみ角法Ⅱ（不静定構造の解法）、演習問題Ⅳ（不静定構造の解法）とその解説					
予習内容 復習内容	予習：参考書等に目を通し自分で計算を解いてみる。 復習：履修した問題の整理。					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。					
成績評価	試験及び演習問題（80点）、積極的に取り組む姿勢（20点）の合計を評価点とし、60点以上を合格とする。					
実務経験	構造設計一級建築士として現在構造設計事務所にて主に鉄筋コンクリート造、鉄骨造の構造設計を担当している。（株）建築資料研究社日建学院にて一級建築士講座の講師を務めている。					
その他 特記事項	建築という学問の中でも近年は構造に苦手意識を持っている方が多いと聞きます。しかしながら構造は多くの計算を自分の力で解くことで力の流れが理解でき必ず役に立つ学問です。また建築士等の資格取得を考えている方々においても構造が少しでも理解できるような講義を考えています。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築材料学	佐藤 公亮	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	<p>・現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造および木質構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリート、鉄鋼および木材の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。</p>					
到達目標	<p>・各種建築物を構成する主要な構造材料の種類と性質を把握し、構造材料と建築物の特徴との関係を理解するとともに、仕上げ材料の種類とその用途についての知識を得る。</p>					
回	学習内容					
1	建築材料概説					
2	建築材料の分類					
3	建築材料の性能と性質					
4	コンクリートⅠ（種類と組成）					
5	コンクリートⅡ（製造方法）					
6	コンクリートⅢ（力学的性質）					
7	コンクリートⅣ（RC 構造物の耐久性）					
8	鉄鋼Ⅰ（種類・製造方法）					
9	鉄鋼Ⅱ（力学的性質）					
10	木材Ⅰ（種類・加工方法）					
11	木材Ⅱ（力学的性質）					
12	非構造材料Ⅰ（熱）					
13	非構造材料Ⅱ（音響）					
14	非構造材料Ⅲ（金属系・セラミックス系材料）					
15	非構造材料Ⅳ（高分子系材料・他）、試験					
予習内容 復習内容	<p>・予習：講義中に示す文献に目を通す等。 ・復習：ノートの整理と考察メモを書き込む。</p>					
教科書	<p>・建築材料が一番わかる、喜入時生著、松本幸大監修、技術評論社</p>					
成績評価	<p>・試験 80%、授業ごとに提出するレポート（課題の場合もあり）20%。 ・6 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はありません。 ・評価点 60 点以上を合格とする。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>・教科書およびノートを暗記するのではなく、書かれている内容を参照しつつ、様々な建築材料について自ら説明できることを意識して頂きたい。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築生産	池田 和司	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	建築生産とは人が活動や生産あるいは居住に適した環境を得るため、建築物を企画・建設し、完成後引き渡されて長期にわたる使用の後、ついには解体されるといった建物のライフサイクルの中で、「設計」と「施工」が建築生産の主な過程としてあげられる。この講義では主に「施工」に重点を置き、建築生産のしくみ、工事着工から建物完成までの各種工事、完成した建物の維持・保全・改修工事、役目が終わった建物の解体工事について、自己の経験（現場施工管理）を交えながら、複雑な建築生産プロセスについて順序だてて解説し、興味を持って学習してもらおう。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 建築施工の知識や技術についての知識を身につける。 2 ものづくりの楽しさや喜びを読み取ってもらえる。 3 将来進みたい職種（建築士、建築施工管理技士、他）として興味を持つきっかけとなる。 					
回	学習内容					
1	ものづくりのしくみを知っておこう・それぞれの役割・建築生産の流れ・工事に携わる人々と組織体制					
2	工事に携わるサブコンの技能労働者とその役割・新しいサブコンの技能労働者・工事管理					
3	準備工事(調査・仮設工事)					
4	山留め工事、杭工事					
5	土工事、地下躯体工事(躯体工事の流れ・型枠工事)					
6	地下躯体工事(鉄筋工事・コンクリート工事)					
7	地上躯体工事(SRC造・S造・鉄骨工事・地震に対応する技術・木工事)					
8	外装仕上工事(屋根工事・防水工事・カーテンウォール工事)					
9	外装仕上工事(石工事・左官工事・タイル工事)					
10	内装仕上工事(建具工事・ガラス工事・塗装工事)					
11	内装仕上工事(軽量鉄骨下地工事・内装工事・ALC工事)					
12	設備工事(電気設備工事・空調調和設備工事・給排水衛生設備工事)					
13	設備工事(昇降設備工事・機械式駐車設備工事・防災設備工事・建築と設備のかかわり)					
14	外構・その他工事(外構工事・その他工事・検査・引渡し)、竣工					
15	維持・保全・改修工事(点検・保守・修理・修繕・更新・改修工事)、解体工事					
予習内容 復習内容	予習：テキストに目を通す等。（特にイラスト） 復習：講義中、重要及び記憶してほしい箇所を強調するので、テキストにて確認する。					
教科書	施工がわかるイラスト建築生産入門：彰国社（一社）日本建設業連合会編 川崎一雄(イラスト)					
成績評価	毎回の講義内容で感じたことや疑問点を提出してもらい、出欠の確認をとります。 出席時に提出するレポート（70%）試験（30%）の合算で評価をします。ただし、試験が100点満点中60点未満は不可とします。5回を超える欠席、定期試験を受けなかった場合は対象外とします。					
実務経験	以前、株式会社大林組にて現場施工管理を担当。一級建築士、一級建築施工管理技士の資格を保持しており、現場施工管理の実務経験をもとに建築生産や、必要な資格取得について話をします。					
その他 特記事項	初学者が興味を持って学習できるようテキスト以外にも関係資料を提示し、複雑な施工の流れを建設現場の様々なエピソードを盛り込みながら、分かりやすく伝えられるよう工夫したいと思います。また、講義は15回を通して建築のプロセスを説明していくので、積極的な出席を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
住環境計画	小野寺 一成	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	住宅地を構成する諸環境（道路、公園緑地、街並み景観、住環境整備、地区計画、都市計画、まちづくりの方法等）について基本的な仕組みと計画手法などを講義する。 具体的な事例を題材に住環境計画の基礎知識、考え方、計画理念、計画方法等を多面的に学び、住宅及びその周辺環境を取り扱い、住宅地計画や地域施設設計に関する学習の出発点となること、本講義の目的となる。					
到達目標	居住環境コースにおけるまちづくり及び都市計画分野の基礎知識を身につけられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール、住環境とは					
2	住環境を形成するまちづくりの概要					
3	都市の成り立ちからみる住環境					
4	住環境を形作る都市計画					
5	住環境を形成する土地利用計画					
6	住宅とまちをつなぐ、道路、公園					
7	住宅地、まちをつくる市街地開発					
8	講義前半のまとめと中間試験					
9	住民主体のまちづくりによる住環境整備					
10	地区計画による住環境計画					
11	住宅地の街並み形成デザイン					
12	防災に強い住宅地計画					
13	コミュニティ、コミュニティデザイン					
14	住民参加型まちづくりの特徴と効果					
15	全講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。					
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6判)を予定。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
都市計画論	小野寺 一成	講義	2	建築士	1, 2, 3	3, 4
授業概要 授業目的	都市計画の歴史を知るとともに、都市計画の目的、計画策定過程、計画における考え方、及び手法などの講義を理解した上で、都市計画の具体的な内容や手続きに関する基礎的知識を身に付けること、また、都市を形づくる建築形態規制、地区計画、景観計画、防災計画などの講義も理解することが、本講義の目的となる。なお、本講義では、三重県及び県内市町村などの具体例をあげながら講義する。					
到達目標	広域都市計画の必要性や持続可能な都市づくり、住民参加のまちづくりなど、今後の都市計画の課題を考察できる知識を身につけられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール、都市計画概要					
2	都市計画とは					
3	都市及び都市計画の歴史					
4	都市計画マスタープラン、コンパクトシティ					
5	住宅地、商業地、工業地等の土地利用計画					
6	道路、公園など都市施設整備計画					
7	市街地整備事業計画					
8	講義前半のまとめと中間試験					
9	アジアのまちづくり、アジアの都市居住					
10	地区計画					
11	景観計画					
12	防災計画					
13	住民参加と都市計画					
14	今後の都市づくりと都市計画の課題					
15	全講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。					
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6判)を予定。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域環境学	小野寺 一成	講義	2	建築士	1, 2, 3	3, 4
授業概要 授業目的	地域の自然や歴史文化、地域環境問題、環境に配慮した市街地整備や集約型都市構造など、地域環境計画の基礎的内容について講義する。 都市及び地域の環境、自然環境、地球環境についての基礎的な知識と理解力、分析力を習得するとともに、計画能力を養い育てることが、本講義の目的となる。					
到達目標	地域環境の今日的な課題を学び、地域及び都市に興味を持つことを喚起し、持続可能な地域づくりの理念とその意義について認識を深められるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール、地域環境学概要					
2	都市化による環境問題、失われていく日本の自然環境					
3	ヒートアイランド現象と地球温暖化、環境汚染					
4	環境に配慮した都市づくり、地形にあった都市					
5	都市と地域の自然環境づくり、ビオトープ					
6	集約型都市構造、低炭素型まちづくり計画					
7	環境に配慮した市街地整備計画					
8	講義前半のまとめと中間試験					
9	地域環境のデザイン					
10	都市・地域の環境計画					
11	農村・田園の環境計画					
12	歴史的風致の維持・再生					
13	地域環境と住民参加					
14	都市・農村・自然の新秩序					
15	全講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。					
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6 判)を予定。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
まちづくり企画	小野寺 一成	演習	2	建築士	1, 2, 3, 4	3
授業概要 授業目的	戸建て住宅の周辺環境（接道状況、隣接住宅、広場や植栽など）を意識しながら、戸建て集合住宅地を企画し個別の住宅を計画する。 前半は4名程度のグループ作業により、市内に位置する1,200㎡程度の敷地に200㎡以上の戸建て住宅用地4敷地と、広場や植栽、歩行者専用道路等を企画する。 後半は個人作業として、各グループにより企画された戸建て住宅地の各敷地に、戸建て住宅（併用住宅可）を計画することが、本講義の目的となる。					
到達目標	各々が周辺環境を意識しながら、テーマ・コンセプトを実現する「戸建て住宅地」を計画できるようになる。					
回	学習内容					
1	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め					
2	現地調査の解説、対象敷地現地調査のまとめによる発表					
3	テーマ・コンセプトの解説、戸建集合住宅地のテーマ、コンセプト、イメージ案					
4	ゾーニングの解説、戸建集合住宅地のゾーニングと配置企画案					
5	外構計画の解説、戸建集合住宅地の外構計画及び住宅地企画案					
6	住宅地企画の解説、戸建集合住宅地のルールづくりと住宅地企画					
7	企画案の解説、中間提出(A2判)、及び講評					
8	戸建て住宅敷地の解説、各戸建住宅の敷地及びテーマ、コンセプト決め、配置計画検討					
9	戸建て住宅平面の解説、各戸建住宅の1階平面、及び配置計画案					
10	戸建て住宅断面の解説、各戸建住宅の各階平面、断面、及び立面計画案					
11	戸建て住宅立面の解説、各戸建住宅の各階平面、断面、及び立面計画図					
12	戸建て住宅模型の解説、各戸建住宅の計画模型作成					
13	プレゼンテーションの解説、とりまとめプレゼンテーション					
14	企画計画書の解説、企画計画書提出（中間提出住宅地に各戸建住宅を併せて提出）					
15	企画計画書(A2判)の講評と返却					
予習内容 復習内容	予習：各講義の内容理解と講義中に示したエスキスによる課題を解決してくること。 復習：講義中に行ったエスキスに内容を理解して学習しておくこと。					
教科書	随時、資料などを配布。					
成績評価	中間提出(40%)、企画計画書提出(50%)、出席時エスキス(10%)をあわせて評価。 1/3を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	課題提出の締め切り時間を厳守。 建築製図基礎、住生活設計Ⅰを履修していることが望ましい。 建築士受験取得に向けた講義となっている。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
まちづくり設計	小野寺 一成	演習	1	建築士	1, 2, 3, 4	3
授業概要 授業目的	「開かれた共用施設を持つ住宅地づくり」がテーマである。この共用施設は地域に開かれ周辺地域に貢献する施設とする。どんな施設内容や空間が求められるかを考え、共用施設を持つ4世帯程度の集合住宅を、市内に位置する敷地に設計する。都市に集まって住む家、地域に開かれた居住環境のあり方、コミュニティづくり等を踏まえ、居住のしくみとその空間を提案できることを目的とする。共用施設は、地域で必要とされる機能あるいは共通の趣味等ソフト面を考慮して提案してほしい。					
到達目標	各々が周辺環境を意識しながら、テーマ・コンセプトを実現する「開かれた共有施設を持つ住宅地づくり」を、計画できるようになる。					
回	学習内容					
1	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め					
2	対象敷地現地調査のまとめとファーストスケッチ発表					
3	計画テーマ、計画コンセプト、イメージ案作成、ブロック模型					
4	全体計画のゾーニングと配置計画案作成					
5	全体計画の建物ボリュームとプランニング					
6	全体計画と建築計画（イメージ）					
7	企画計画書(A2判)提出（以上、グループワーク）、及び講評					
8	全体配置計画とボリューム模型作成、機能ゾーニング					
9	平面計画と立面計画、断面計画の設計					
10	居住システムと住戸プランの検討及び設計					
11	基本計画設計案と模型作成開始					
12	基本計画設計の再検討と建築デザイン、模型作成					
13	とりまとめプレゼンテーション					
14	基本計画設計(A2判)提出（個人）					
15	基本計画設計の講評と返却					
予習内容 復習内容	予習：各講義の内容理解と講義中に示したエスキスによる課題を解決してくること。 復習：講義中に行ったエスキスに内容を理解して学習しておくこと。					
教科書	随時、資料などを配布。					
成績評価	企画計画書(40%)、基本計画設計(50%)、出席時エスキス(10%)をあわせて評価。 1/3を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	課題提出の締め切り時間を厳守。 建築製図基礎、住生活設計Ⅰ・Ⅱ、まちづくり企画を履修していることが望ましい。 一級建築士受験資格取得講義となっている。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築史概論	大井 隆弘	講義	2	建築士	1, 2	1, 3
授業概要 授業目的	建築における歴史や文化、技術の発展や変遷を、広域的な影響関係とともに学びます。日本の各時代の建築がもつ技術、意匠、生活等がどのような特徴を持つのかを、西洋を始めとした世界の建築と比較しながら理解を深めます。					
到達目標	1 特に西洋建築の各様式について、成立した背景と建築的特徴が分かる。 2 日本の各時代の建築について、成立した背景（影響関係含む）と建築的特徴が分かる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス 世界とつながる日本の建築					
2	西洋の古代建築（ギリシア、ローマ）					
3	西洋の中世建築（ロマネスク、ゴシック）					
4	西洋の近世建築（ルネサンス、バロック、ロココ）					
5	西洋の近代建築					
6	日本の都市					
7	縄文・弥生・古墳時代の建築					
8	日本の寺院建築（古代）					
9	日本の寺院建築（中世）					
10	日本の近世建築（城郭・社寺）					
11	日本の近世建築（書院造・数寄屋造）					
12	日本の神社建築					
13	日本の民家建築					
14	日本の近代建築					
15	三重県の歴史的建造物					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所を確認してください。 復習：講義の概要および特に興味を持った内容について小レポートを作成してください。					
教科書	『カラー版・建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一、井上書院、定価 2500 円＋税）					
成績評価	講義後の小レポート 100%（主に講義の理解度、着眼点を評価します）					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
建築 CAD 基礎	米田 雅樹	講義	2	建築士	1, 2	3
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ JW-CAD の基本操作方法を習得します。 ・ JW-CAD による建築設計図の描き方を習得します。（平面図・立面図・断面図・配置図） ・ 作図を通して建築設計の楽しさ、喜びを伝えることを目指します。 ・ CAD による建築基本図を一通り作図することで、建築設計の流れがわかることで活きた経験となり、実務に直結する講義を目指します。 ・ 実際の建築実例をトレースすることで、図面から建築ができあがる、というリアリティを実感できる講義を目指します。 					
到達目標	生徒が卒業後、実務において JWCAD を使う際、ある程度の慣れと自信を持って業務出来るレベルまで習得する。					
回	学習内容					
1	ガイダンス・CAD による作図の特性・JW-CAD の基本操作①（線）					
2	JW-CAD の基本操作②（図形）					
3	JW-CAD の基本操作③（建築部位）					
4	ガイダンス・トレース①（平面図）					
5	トレース②（平面図）					
6	ガイダンス・トレース③（立面図）					
7	トレース④（立面図）					
8	ガイダンス・トレース⑤（断面図）					
9	トレース⑥（断面図）					
10	ガイダンス・トレース⑦（配置図）					
11	ガイダンス・トレース⑧（実例作品平面図）					
12	トレース⑨（実例作品平面図）					
13	トレース⑩（実例作品平面図）					
14	トレース⑪（実例作品立面図）					
15	トレース⑫（実例作品断面図）					
予習内容 復習内容	授業で遅れた分は次回授業までに CAD 作図を進める。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ○ JW-CAD で学ぶ建築製図の基本 櫻井良明 2017 年 ○ 建築・設計・製図 住吉の長屋・屋久島の家・東大阪の家に学ぶ著者松本 明（著）, 横山 天心（著）, 貴志 雅樹（監修） 学芸出版社 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験（30%（課題提出を試験とする））、平常点（70%）で成績評価をいたします。 ・ 毎回出席をとります。5 回を超える欠席をした場合、評価対象外となります。 ・ 平常点は出席及び講義中に実施する作図実技課題の完成、結果を総合的に評価します。 					
実務経験	2006 年～2013 年設計事務所、工務店に勤務し設計、現場監督に携わり、2013 年設計事務所を設立し JW-CAD にて意匠図・構造図・施工図を作図し、住宅・店舗などを建築してきました。講義では実務経験を活かし、JW-CAD の基本操作方法、建築設計図の描き方を解説し、併せて建築設計の楽しさを伝えます。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論 I	小野寺 一成	講義	2		1, 3	4
授業概要 授業目的	地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう、活性化の手法やあり方などを理解することが、本講義の目的となる。 本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、三重県及び県内市町村などの具体例をあげながら講義する。					
到達目標	我が国、特に地方都市において、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン					
2	社会資本の歴史とその役割					
3	社会資本を取り巻く社会の状況					
4	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー					
5	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー					
6	社会資本に関する国土交通行政の方向					
7	観光立国と美しい国づくり					
8	講義前半のまとめと中間試験					
9	東日本大震災からの復興に向けた取り組み					
10	美しく良好な環境の保全と創造					
11	安全・安心社会					
12	競争力のある社会					
13	心地よい生活空間づくり					
14	地域活性化の推進					
15	全講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。					
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6 判)を予定。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論Ⅱ	南 有哲	講義	2		1, 3	3
授業概要 授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。					
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。					
回	学習内容					
1	はじめに—生物多様性とは何か					
2	生態系サービスとその重要性について					
3	獣害問題について—現状の概観、特に三重県について					
4	獣害問題について—背景と対策					
5	林業を考える—日本林業の現状					
6	林業を考える—生物多様性保全における林業の役割					
7	外来生物問題—現状の概観					
8	外来生物問題について—政府の政策と求められる対策					
9	土壌の問題について					
10	農業とは何か—農業の本質について					
11	農業の多面的機能と生物多様性					
12	日本の食料政策と食料自給率					
13	工業的農業＝資源・エネルギー多投型農業の光と影					
14	水産資源の乱獲問題について—世界的動向の概観					
15	水産資源の乱獲問題について—日本における現状と課題					
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。					
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。					
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
消費者法	大北 由恵	講義	2		1	4
授業概要 授業目的	<p>私たちは日常的に事業者から商品やサービスを購入し、それらを消費して生活している消費者です。消費者と販売のプロである事業者との間には情報力や交渉力等の面で大きな格差が存在しているため、不利な立場に置かれている消費者の利益を保護するための一連の法律を消費者法と呼びます。</p> <p>この講義では、消費者被害の実態を事例とともに紹介し、被害者を救済するための法制度の基礎知識を修得していきます。</p>					
到達目標	<p>①消費者問題の基本構造を理解することができる。</p> <p>②消費者被害にあわないための対策や被害にあった場合の対処法を身に付けることができる。</p> <p>③被害者救済のための法制度を理解し、解決策を検討することができる。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンスー消費者法とは					
2	消費者問題の全体像					
3	消費者契約法①消費者契約法の概要、取消権					
4	消費者契約法②不当条項規制					
5	特定商取引法①特定商取引法の概要					
6	特定商取引法②訪問販売、クーリング・オフ、電話勧誘					
7	特定商取引法③通信販売、マルチ商法、ネズミ講					
8	特定商取引法④継続的役務提供					
9	景品表示法					
10	製造物責任法					
11	消費者信用取引①消費者信用取引の概要、クレジット取引					
12	消費者信用取引②割賦販売法（割賦販売法の概要）					
13	消費者信用取引③割賦販売法（割賦販売法の規制内容）					
14	消費者信用取引④貸金規制					
15	全体のまとめー現代社会における消費者法の課題					
予習内容 復習内容	<p>予習：参考文献に目を通しておいてください。</p> <p>復習：レジュメや講義メモを中心に授業内容を整理・理解してください。</p>					
教科書	<p>教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を進めます。</p> <p>参考文献は初回の授業で案内します。</p>					
成績評価	最終試験(70%)と授業内レポート(30%)で総合的に評価します。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
化学	山崎 賢二	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	「食」にたずさわる資格を取得するためには、多くの専門科目を学ばなければなりません。その基礎となる「化学」の知識を身につけることは必要不可欠です。食べ物に関する化学の知識を中心に、高校まで化学をあまり勉強してこなかった学生にも、わかりやすく親しみやすい講義を心がけます。					
到達目標	学生は、食べ物に関する化学の基礎知識を身に着けることができる。その到達度を測るために第 8 回に中間試験、第 15 回終了後に期末試験を行う。試験内容は章末問題を中心に出题し、百点法で 60 点以上の場合に目標の達成とする。					
回	学習内容					
1	第 1 章 食品の中身を見る① 原子、分子、イオン、電子配置					
2	第 1 章 食品の中身を見る② 化学結合、化学式					
3	第 2 章 食品中の原子、分子、イオンの重さ					
4	第 3 章 食品の状態とその変化① 物質の三態、気体の体積と圧力・温度の関係、溶液					
5	第 3 章 食品の状態とその変化② コロイド粒子、コロイド溶液					
6	第 4 章 食品とエネルギー 生体内の化学エネルギー					
7	第 5 章 食品内で起こる変化① 化学反応と化学反応式、酸と塩基、pH					
8	前半の振り返り、中間試験					
9	第 5 章 食品内で起こる変化② 酸化還元反応、化学反応と熱					
10	第 6 章 食品中の濃度を考える① パーセント濃度、モル濃度、グラム当量、規定濃度					
11	第 6 章 食品中の濃度を考える② 重量モル濃度、試薬の調製法					
12	第 7 章 食品中の有機化合物とその働き① 糖質、タンパク質、脂質					
13	第 7 章 食品中の有機化合物とその働き② 酵素、ビタミン、ホルモン					
14	第 8 章 食品中の無機化合物とその働き					
15	後半の振り返り、ビデオ学習「沈黙の春／レイチェル・カーソン」					
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す等。 復習：章末問題を解く等。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「わかる化学・知っておきたい食とくらしの基礎知識」 松井徳光・小野廣紀 著、化学同人 発行、ISBN 978-4-7598-0920-6 ・プリント「知っておきたい食べ物の話」(社) 日本化学工業協会 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況把握のため、毎回食物に関するクイズや課題等を課します。 ・15 回の授業のうち中間試験を含む 10 回以上の出席者を評価の対象者とします。 ・出席確認の提出物 20%、中間試験点 40%、期末試験点 40% で評価します。 					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは各自で購入してください。 ・プリントは配布します。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
数理科学	笠 浩一朗	講義	2		1	3
授業概要 授業目的	本講義では、微分・積分の基本の復習から始めて、「テイラーの定理」、「ロピタルの定理」など重要な定理についても紹介する。さらに、偏微分、重積分、微分方程式についても基本的な考え方について解説する。本講義で紹介する微積分の諸概念・定理を、演習問題を通して理解を深め、応用する力を養うことを本講義の目的とする。					
到達目標	「微積分」、「2変数関数の微分」、「重積分」、「微分方程式」に関する基礎知識を習得することを、本講義の到達目標とする。					
回	学習内容					
1	微積分とは					
2	関数の極限					
3	関数の連続、逆三角関数					
4	微分法の応用 1（無理関数の微分、逆三角関数の微分）					
5	微分法の応用 2（指数関数の微分、対数関数の微分、高階導関数）					
6	積分法の応用 1（不定積分）					
7	積分法の応用 2（置換積分法、部分積分法）					
8	積分法の応用 3（定積分）					
9	2変数関数の微分 1（ロピタルの定理）					
10	2変数関数の微分 2（テイラーの定理）					
11	2変数関数の微分 3（偏導関数）					
12	2変数関数の積分 1（ガンマ関数、ベータ関数、広義積分）					
13	2変数関数の積分 2（累次積分、2重積分、積分順序の変更）					
14	微分方程式 1（変数分離形）					
15	微分方程式 2（1階線形微分方程式）					
予習内容 復習内容	講義の予習のために、高校の微分積分について復習しておくこと。 授業内で解けなかった教科書の問題は、復習のために各自で解いておくこと。					
教科書	江川博康「大学1・2年生のためのすぐわかる数学」（東京図書）					
成績評価	毎回の小テスト（50%）、期末試験（50%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	高校の「数学Ⅱ」、及び、「数学Ⅲ」で微積分を習っていない学生は、講義開始前に「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の微積分の内容を予習しておくことが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報技術論	笠 浩一朗	講義	2		1, 4	3
授業概要 授業目的	情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを目的とする。講義は、情報技術の基本となる内容が中心ではあるが、専門的な知識も多く紹介する。また、IT パスポート試験、及び、基本情報技術者試験の対策にもなる授業内容である。					
到達目標	コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。					
回	学習内容					
1	コンピュータの歴史、コンピュータの構成					
2	情報の表現 1 (2進数)					
3	情報の表現 2 (16進数、文字コード)					
4	論理演算と論理式					
5	論理回路					
6	ネットワーク 1 (LAN と WAN、無線 LAN)					
7	ネットワーク 2 (ネットワーク機器、TCP/IP)					
8	ネットワーク 3 (WWW、電子メール)					
9	データベース 1 (関係データベース、正規化)					
10	データベース 2 (SQL、排他制御、障害管理)					
11	アルゴリズムとデータ構造 1 (構造化プログラミング)					
12	アルゴリズムとデータ構造 2 (データ構造、ソート)					
13	情報理論 1 (情報量、符号化)					
14	情報理論 2 (オートマトン、形式言語)					
15	機械学習 (ニューラルネットワーク、強化学習)					
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。ほぼ毎回、前回の復習の小テストを実施するので、復習しておくように。					
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。					
成績評価	毎回の小テスト (50%)、期末試験 (50%)					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学	金岩 稔	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	諸研究の読解やそれらを実際に行う上で必要な統計学を学ぶ上で必要な数学的な基礎知識を復習するとともに、基礎的な統計学の概念、特に統計モデルの構築の概念を説明する。					
到達目標	基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得					
回	学習内容					
1	講義の概要説明。データ解析の目的。度数分布表とヒストグラム。					
2	相関と散布図。データの中心とばらつきの指標。					
3	標準化と共分散、相関係数。					
4	回帰直線					
5	データ発生メカニズム。母集団と標本。無作為抽出。					
6	事象の独立性と確率					
7	確率分布と確率変数。その平均と分散。					
8	コイン投げとベルヌーイ試行。2項分布。					
9	連続型確率変数。正規分布。					
10	確率変数の独立性と無作為標本の定義。					
11	標本平均と標本分散。母平均、母分散との関係。不偏性。					
12	標本平均の分布。点推定と区間推定。母平均の区間推定。					
13	母比率の推定					
14	統計的仮説検定と検定方式、有意水準、母比率の検定					
15	確認課題の説明					
予習内容 復習内容	予習：シラバスの内容を検索して、どのような内容か自分なりに調べておく。 復習：ノートの整理					
教科書	テキストは使用しない。					
成績評価	確認課題 70%、講義の受講態度 30%					
実務経験						
その他 特記事項	科学は物事を客観的に判断する道具であり、統計学はその中での物差しと言ってもよい道具です。最初、道具の使い方は難しく感じますが、普段から使い手になじむと使いやすくなるものです。なじむまで普段から統計学的な物事の見方を身に着けるため、当講義を受講していただければと思います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済原論	田添 篤史	講義	4		1	1
授業概要 授業目的	<p>現在主流となっている経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。 本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>① ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解し説明できるようになる。 ② 実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーションー経済学の考え方	16	完全競争市場における余剰分析			
2	国民経済計算	17	市場の状態が資源配分に与える影響			
3	ミクロ経済学の基本像	18	マクロ経済学の考え方			
4	消費者の理論を導くための準備	19	財の総供給			
5	限界効用理論	20	消費の決定と財の需要量			
6	無差別曲線に関して	21	財市場の均衡			
7	予算線概念と最適消費点の決定方法	22	債権の価格と利子率			
8	所得変化と、それに対応する最適消費点の変化	23	貨幣を需要する動機			
9	代替効果と所得効果	24	貨幣市場の均衡			
10	生産における短期と長期の違い	25	投資の理論			
11	平均費用と限界費用についての理解	26	IS 曲線の導出			
12	利潤最大化と生産量の決定	27	LM 曲線の導出			
13	損益分岐点と操業停止点	28	財政政策の効果			
14	独占企業の生産量決定	29	金融政策の効果			
15	市場均衡とその安定性	30	経済成長の源泉			
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当部分に目を通しておくこと。 復習：配布資料および講義ノートに目を通すこと。</p>					
教科書	<p>石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』</p>					
成績評価	<p>毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 試験:70%</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
日本経済論	鈴木 伸	講義	2		1	1
授業概要 授業目的	この授業では経済学の観点から日本経済の変容を捉えていくことを目的とする。日本経済は 1990 年代を境い目に転換期を迎え、格差拡大に代表されるように様々な課題を抱えている。将来を考えていく上でこうした問題を自分の頭で考えていくことは必要不可欠といっても過言ではないだろう。授業では経済学の分析視角を学ぶとともに、日本経済に関する幅広い論点を取り扱っていく。また日本経済を分析し自らの意見を述べる方法論についても扱っていく。					
到達目標	①多様な観点から日本経済について複合的に見ていくことができるようになる。 ②経済学の分析視点を身に着け、日本経済を論じることができるようになる。 ③得た知識と分析枠組みを用いて、日本経済について自らの考えを述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：日本経済をどう捉えるか					
2	世界経済はどこで歪んだのか					
3	日本経済の歩み：日本型経済システムの成立と解体					
4	平成の「失われた 30 年」と日本経済の構造変化					
5	キャッシュレス経済の現状と課題					
6	グローバル化は国民を豊かにするのか：変質する自由貿易の理念と通商政策					
7	劣化する労働環境と「働き方改革」					
8	ベーシック・インカムは社会保障の核となり得るか：現金給付の意義とは					
9	国民皆保険制度は本当に持続的か：制度危機の処方箋の検討					
10	農山村の内発的発展と財政：林業・木材産業をケースに					
11	経済成長・格差・少子高齢化					
12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化：NPO、社会的企業、CSR、ESG 投資のゆくえ					
13	情報化、IoT 時代がもたらす未来社会の「姿」					
14	日本経済はどこへ行くのか？（全授業のまとめとレポートの書き方について）					
15	ディスカッション：日本経済を論じよう					
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、毎授業提出のコメントシートに疑問点を書く。 復習：授業後にコメントシートを提出し、授業で学んだことを提出する。					
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済（仮）』鉦脈社					
成績評価	コメントシートの提出：40% 授業で別途出す課題：20% 最終レポート：40%					
実務経験						
その他 特記事項	コメントシートはオンラインベースで行う。また 15 回目のディスカッションはプレゼンをしてもらう予定だが、受講生数等を踏まえ最終的に決定する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政学	川上 哲	講義	4		1	1, 4
授業概要 授業目的	<p>本講義では行政学の主要な理論と日本の行政の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。</p> <p>本講義の目的は受講生が行政の理論や制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。</p>					
到達目標	<p>①行政学の主要な理論を理解する。 ②行政制度や公務員制度の基本的な仕組みについて理解する。 ③政策立案の理論や政策過程について理解する。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	導入と講義概要及び評価方法－行政学とは何か		16	国家公務員の任用 入口選抜制度		
2	行政学の歴史とその背景		17	国家公務員の昇任 キャリアとノンキャリア		
3	行政学の発展－アメリカ行政学		18	国家公務員の退職 天下りとグレーゾーン組織		
4	組織論① 古典的組織論		19	行政改革① NPMとガバナンス		
5	組織論② 現代組織論		20	行政改革② 日本の行政改革		
6	官僚制論① 近代官僚制と官僚制の逆機能		21	政策過程論① 政策過程とは何か		
7	官僚制論② 官僚制の演繹的モデル		22	政策過程論② 政策過程の理論		
8	官僚制論③ 官僚制の機能的モデル		23	政策過程論③ 政策評価と評価指標		
9	大統領制と議員内閣制① アメリカの大統領制		24	EBPM（根拠に基づいた政策形成）		
10	大統領制と議院内閣制② イギリスの議院内閣制		25	EBPMの問題点と課題		
11	大統領制と議院内閣制③ 日本の議院内閣制		26	予算の編成過程と決算		
12	日本の行政組織① 内閣の補佐機関		27	法案の形成過程		
13	日本の行政組織② 中央省庁の組織		28	行政責任		
14	日本の行政組織③ 中央省庁の編制		29	行政統制		
15	日本の公務員制度		30	講義のまとめ		
予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。					
教科書	教科書は使用せず、レジユメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境政策論	南 有哲	講義	2		1	3
授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。					
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。					
回	学習内容					
1	はじめに—「人新世」としての現代					
2	自然と人間の関係について					
3	環境問題の一般的構図					
4	環境破壊の人類史—先史時代から中世まで					
5	工業化について					
6	市場経済と共同体					
7	市場経済の必然的所産としての環境問題					
8	市場経済と国家—環境政策の必然性					
9	南北問題の史的背景—新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配					
10	南北問題の現状と環境破壊					
11	気候政策の国際的展開—気候変動枠組条約と京都議定書					
12	気候政策の国際的展開—パリ協定とそれ以降					
13	日本における気候政策の展開—旧自公政権期から民主党政権まで					
14	日本における気候政策の展開—新自公政権期以降					
15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために					
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。					
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジюмеや図表など資料を配布する					
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生態系の科学	新井 優一	講義	2		1	3
授業概要 授業目的	地球上には多種多様な生物種が存在し、関わり合いながら生活しています。生態学とは生物の生活の法則をその環境との関係で解き明かす科学です。本講義では生態学における基本的な用語や考え方について紹介します。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生態学における基本的な用語・知識を身に着ける。 2. 生態学における基本的な考え方を習得する。 3. 生態系の保全について、自らの考えを述べることができる。 					
回	学習内容					
1	ガイダンス					
2	生態学とは					
3	生物の分類と系統					
4	生物界における共通性と多様性					
5	進化と生態					
6	適応戦略					
7	繁殖様式					
8	生理生態的特性の適応戦略					
9	行動と社会					
10	個体間の相互作用					
11	生物群集					
12	生態系の構造と機能					
13	生態系サービス					
14	生態系の人為的変容					
15	生態系の保全					
予習内容	予習：提示した参考文献・資料に目を通す。					
復習内容	復習：講義で取り上げた内容に関連する事柄を調べる。					
教科書	使用しない。必要な資料は適宜配布する。					
成績評価	講義毎に行う確認テスト 60%、レポート 40% 1/3(5 回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
実務経験	なし					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境共生論	南 有哲	講義	2		1	1, 3
授業概要 授業目的	地球温暖化や生物多様性破壊といった地球規模の環境問題について、映像を通じて具体的なイメージをつかみ、その上で自然と人間との共生のあり方について考えていく。本講義は、資料を用いた上映前説明、ビデオ上映、補足説明によって構成される。					
到達目標	多様な環境問題について映像を通じて具体的なイメージをつかむことによって、環境問題についての理解を深める。					
回	学習内容					
1	生態系サービスとしての虫媒と、昆虫たちの減少					
2	象の密猟と象牙の違法取引・紛争資源化の現状					
3	外来生物問題——ヒアリの世界拡散と対策					
4	獣害問題——島根県における取組を中心に					
5	ブラジルにおける大豆生産と熱帯雨林の破壊					
6	ブラジル日系移民によるアグロフォレストリーの展開					
7	足尾銅山操業による森林破壊と再生の試み					
8	マグロの減少にみる水産資源乱獲					
9	南米先住民による遺伝資源の伝統的利用の実態					
10	進行する気候変動と被害の実情					
11	環境難民について					
12	気候変動と森林火災					
13	プラスチックごみによる海洋汚染問題					
14	海洋酸性化の実態					
15	調査報道——チェルノブイリ原発事故					
予習内容 復習内容	予習に関しては、次回テーマについての告知を受け、事前調べを行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。					
教科書	使用しない					
成績評価	毎回小レポートの成績の総計によって評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住環境基礎	担当教員	講義	2		1, 4	3, 4
授業概要 授業目的	コース生を均等に3つの班に分け、建築計画・都市計画・環境問題担当教員3名が、ローテーション形式で、各班に対して専門分野に関する講義を分野毎に4回ずつ行う。 なお、情報科学担当教員は在外研修のため、今年度は担当しない。					
到達目標	専任教員各自の専門分野のダイジェストについて全コース生が受講することで、学生各自が、二年次でのゼミの選択さらには将来の進路について考えられるようになる。					
回	学習内容 ※2～9回, 11～14回については、班ごとに順番が異なる。					
1	全体会合：講義の目的・内容等についての説明、注意事項の伝達					
2	建築計画(1)：空間デザインに関する出題および現状と課題の把握（対象：三重短期大学キャンパス）					
3	建築計画(2)：参考事例の収集・分析（グループワークなど）					
4	建築計画(3)：提案内容の検討					
5	建築計画(4)：提案内容の発表					
6	都市計画(1)：地域づくりワークショップ（三重短期大学周辺の現状を知ろう）					
7	都市計画(2)：地域づくりのテーマ・コンセプトを考えよう（グループワークなど）					
8	都市計画(3)：地域の将来構想づくり（5年後、10年後、20年後の持続可能な地域づくり）					
9	都市計画(4)：地域づくりのテーマ・コンセプトと地域の将来構想の発表					
10	学生面談日（各班に対し教員それぞれが対応）					
11	環境問題(1)：映像視聴と補足講義—生体模倣（建築技術への適用を中心に）					
12	環境問題(2)：映像視聴と補足講義—チェルノブイリ原発事故の後処理の現状					
13	環境問題(3)：映像視聴と補足講義—戦争と環境破壊（化学兵器の海洋投棄問題）					
14	環境問題(4)：映像視聴と補足講義—砂をめぐる環境・資源問題					
15	最終全体会合：教員による講評及び学生による総括レポート執筆					
予習内容 復習内容	予習：講義のテーマ毎に関連した文献等を調べる。その回の目標として示された事項に取り組む。 復習：講義内容を振り返り、要点をまとめ、疑問点を調べる。					
教科書	教科書は使用しない。講義中に適宜指示する。					
成績評価	毎回提出物…80% 総括レポート…20%					
実務経験	建築計画担当教員は、設計事務所での勤務経験を活かし、実践的な計画設計手法について講義する。 都市計画担当教員は、都市計画事務所での勤務経験を活かし、実践的な調査研究、計画力の養成に努める。					
その他 特記事項	第一学年にて履修する。 本講義を履修しない場合、第二学年のゼミを選択する権利は認められない。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住環境特別演習	小野寺 一成	演習	4		1, 4	3, 4
授業概要 授業目的	まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することが、本講義の目的となる。					
到達目標	調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーション力を身につけられるようになる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	講義内容、講義スケジュール等	16	夏休み課題図書の発表			
2	卒業研究テーマ案の検討	17	夏休み課題図書発表と質疑			
3	輪講1：わかりやすい都市計画の書籍1,2章	18	卒業研究構成レジュメ作成			
4	輪講2：わかりやすい都市計画の書籍3,4,5章	19	卒業研究構成レジュメ修正			
5	津市一身田寺内町の視察	20	周辺都市等への都市計画ゼミ視察			
6	輪講3：やさしい都市デザインの書籍1,2章	21	卒業論文・計画・設計の検討			
7	輪講4：やさしい都市デザインの書籍3,4章	22	卒業論文・計画・設計の内容検討と修正			
8	津城及び旧伊勢街道の視察	23	卒業論文・計画・設計テーマ			
9	輪講5：やさしい都市デザインの書籍5,6章	24	卒業論文・計画・設計コンセプト			
10	輪講6：やさしい都市デザインの書籍7,8章	25	卒業論文・計画・設計エスキス			
11	近隣城下町等の視察	26	卒業研究中間発表（前半）			
12	輪講7：やさしい都市デザインの書籍9,10章	27	卒業研究中間発表（後半）			
13	輪講8：やさしい都市デザインの書籍11,12章	28	卒業研究発表会に向け取り纏め準備			
14	卒業研究テーマの検討	29	卒業研究発表会に向けた取り纏め練習			
15	卒業研究テーマの決定	30	卒業研究都市計画研究室発表			
予習内容 復習内容	予習：前期は輪講書籍を事前に理解し、後期は発表資料を理解して発表できるようにしておくこと。 復習：毎回のゼミ配布資料を復習するとともに、解説した重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	随時配布または紹介、調査過程で資料・データを入手。					
成績評価	ゼミ出席時の報告や発表(50%)、最終成果（卒業論文又は計画及び設計50%）をあわせて評価。 1/3を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	ゼミは輪講や調査報告等を議論形式で進めるため、その準備としてゼミ時間以外での自主的な調査等の取り組みが大切。都市計画関係の講義を受講していることが望ましい。 ゼミ時間以外での調査などに参加する場合があることも前提としておいてほしい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住環境特別演習	木下 誠一	演習	4		1, 4	3, 4
授業概要 授業目的	住宅、集合住宅、地域施設に関するテーマを設定し、調査分析により現状と課題を把握した上で、より良い生活空間のあり方についての考えを設計作品又は論文にまとめる。研究は、個人または3名以内のグループ単位で行う。実際に現地調査を行うなど、座学では得られない体験を通して理解を深めることが大切であると考えている。					
到達目標	建築空間と人々の生活との対応関係を理解し、より良い生活空間のあり方について提案する能力を身に着ける。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス	16	現地調査報告			
2	課題①出題（事例分析）	17	基本方針の設定			
3	課題①検討作業	18	全体発表・意見交換			
4	課題①提出・発表	19	エスキス・調査分析			
5	プレゼンツールの使い方（CAD）	20	エスキス・調査分析（修正）			
6	プレゼンツールの使い方（3D）	21	全体発表・意見交換			
7	プレゼンツールの使い方（パワポ）	22	図面・論文作成（全体構成）			
8	課題②出題（空間提案）	23	図面・論文作成（各部）			
9	課題②検討作業	24	全体発表・意見交換			
10	課題②提出・発表	25	図面・論文の作成（草案）			
11	研究テーマの構想	26	図面・論文の修正			
12	研究テーマの検討	27	図面・論文の完成			
13	参考文献・事例の収集	28	研究発表準備			
14	参考文献・事例の分析	29	研究発表練習			
15	現地調査の計画	30	研究成果の発表			
予習内容 復習内容	予習：その回の目標として示された事項に取り組む。 復習：指摘事項をふまえ、検討内容の改善を行う。					
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて適宜指示する。					
成績評価	授業における取組姿勢及び報告内容（50%）、研究成果の内容（50%）により総合的に評価する。					
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。					
その他 特記事項	ゼミの時間は主に報告や議論にあてるため、時間外での自主的な取組みが必要である。設計やデザインに関心があり、「住生活設計Ⅰ」を履修していることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住環境特別演習	南 有哲	演習	4		1, 4	3, 4
授業概要 授業目的	本演習においては、環境問題に関する様々な映像の視聴と補足講義、そして参加者の討論を通じて、環境問題について具体的な知識を獲得するとともに、自らが関心を持つテーマについて理解を深めていくことを目的とする。					
到達目標	毎週の映像視聴・討論および課題文献の読み込み（長期休暇時）、卒業研究（論文・スライド作成など）を通じて、環境問題を幅広く、かつ深く理解すること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	気候変動による異常気象——豪雨と土砂災害	16	バングラディッシュの廃船解体			
2	気候変動による異常気象——台風	17	血塗られた携帯電話			
3	気候変動による海面上昇——ツバル	18	生体模倣——認識力			
4	気候変動による災害——氷河湖決壊	19	現代日本に残る焼畑農業			
5	気候変動の背景——化石燃料の大量使用	20	「神宮の森」にみる「自然創造」			
6	気候変動とエネルギー問題	21	外来生物問題—ヒアリ			
7	北極圏の温暖化と地下資源開発	22	生物多様性破壊としての森林火災			
8	ヒートアイランド現象	23	生物多様性と進化——「眼」			
9	京都議定書	24	生物多様性と進化——「知性」			
10	気候政策の日欧比較	25	進化と疾病——「アレルギー」			
11	パリ協定と世界の動向	26	プラスチックごみ問題			
12	日本における原発建設推進	27	人新世と食糧問題			
13	日本における原発建設推進	28	DDT の問題について			
14	中越沖地震と原発事故	29	農作物の多様性減少			
15	福島原発事故と地域・自然環境	30	人と動物の関係をめぐって			
予習内容 復習内容	予習に関しては、次回映像の内容を告知を受け、ネット検索などによる関連情報の収集を行う。 復習に関しては、毎回小レポートにて映像と討論の内容を総括する。					
教科書	特に指定しない。					
成績評価	毎回小レポート…40% 課題文献レポート…10% 卒業研究…50%					
実務経験						
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
居住環境特別演習	笠 浩一朗	演習	4		1, 4	3, 4
授業概要 授業目的	近年、私たちの生活を改善するために、情報科学を利用する機会が増えてきている。居住環境特別演習では、グループでの活動を通して情報科学について学び、実際に情報科学を利用して生活を改善する方法を検討し、考察する。					
到達目標	私たちの生活の改善に、情報科学がどのように利用されているのかを理解し、実際に情報科学を利用して生活の改善方法を提案し、その方法を検証・考察できることを到達目標とする。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンスと個別面談	16	夏休み中の活動の報告			
2	PowerPoint を用いた自己紹介による発表練習	17	卒業研究の情報収集（図書や論文等）			
3	Word を用いた報告書の作成練習	18	卒業研究の情報収集（Web 検索）			
4	Excel を用いたデータ分析の練習	19	卒業研究の情報収集（収集結果の報告）			
5	情報検索による参考資料の探し方	20	卒業研究の計画の作成			
6	HP 制作 1（WWW の仕組み）	21	卒業研究の計画の報告			
7	HP 制作 2（HTML でテンプレートの作成）	22	卒業研究の活動（中間発表準備）			
8	HP 制作 3（HTML で Web ページの作成）	23	ゼミ内の中間発表			
9	HP 制作 4（CSS でデザインの作成）	24	卒業研究の活動（中間発表を結果をもとに）			
10	プログラミング 1（変数と型）	25	卒業論文の作成（卒業論文の章立ての検討）			
11	プログラミング 2（データ構造）	26	卒業論文の作成（卒業論文の本文の制作）			
12	プログラミング 3（基本構造）	27	卒業論文の作成（卒業論文の中間報告と添削）			
13	プログラミング 4（関数）	28	卒業研究発表の準備（スライド構成の検討）			
14	卒業研究の内容について検討（個別面談）	29	卒業研究発表の準備（スライドの完成）			
15	卒業研究の内容の決定と夏休みの活動計画の作成	30	卒業研究論文の提出と卒業研究発表会			
予習内容 復習内容	事前に課題を課すので授業日までに課題を提出する。 授業内で課題が終わらない場合は、授業外で課題に取り組む。					
教科書	教科書は特に指定しない。HP 制作及びプログラムの学習においては、参考図書を紹介する。					
成績評価	授業における取組姿勢及び報告内容（50%）、卒業研究の成果の評価（50%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	授業時間外でも、課題に取り組む必要がある。 情報に関心があり、「情報処理実習Ⅰ・Ⅱ」、「情報と社会」、「情報技術論」などの情報系科目を多く履修していることが望ましい。					